

編年西村山郡史
黃

202
371

202-371



1200901409313

Kodak Gray Scale



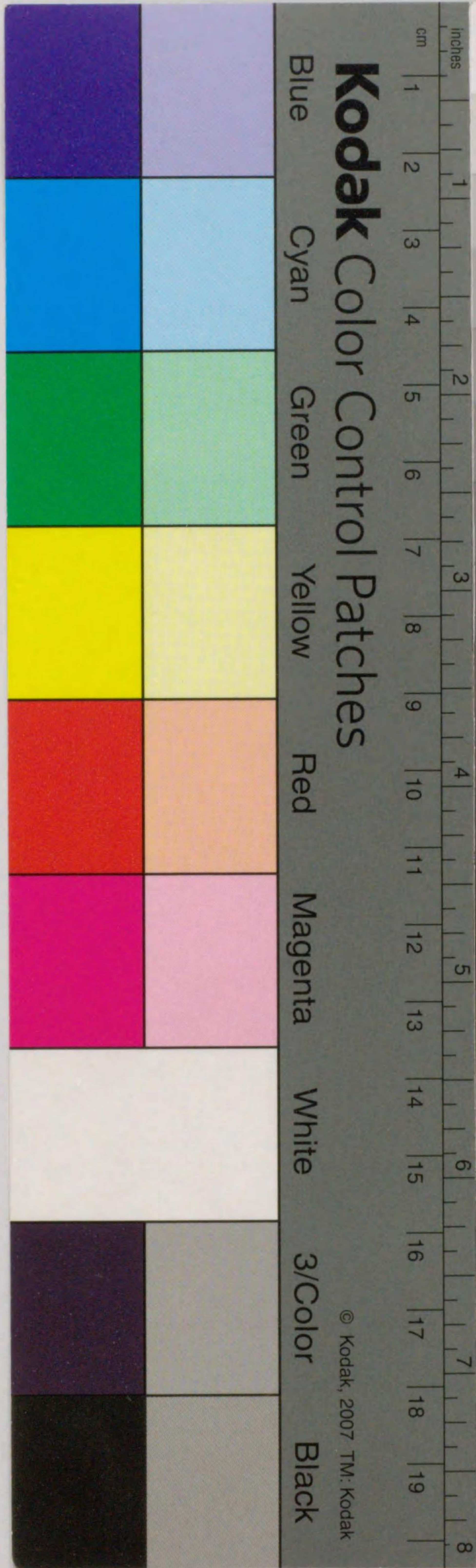
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



編年西村山郡史卷之七

郡史編纂委員共編

天保元年四月、戸澤正胤將二國ニ就カントシ、途ニ寒河江ニ舍ス。

同年五月二十七日、大水被害多シ。

文政十三年寅五月廿七日大水ニ而所々ニ而そんじ、道生向イやぶれ、下河原村迄水上
田畑大そうニいたみ申候、此節所々ニ而水上リ、山里ニ而少々いたみ有之、最上之内ニ
ハ上ノ山大そうよいたみ、町中へ家貳三軒流れ參リ申候。

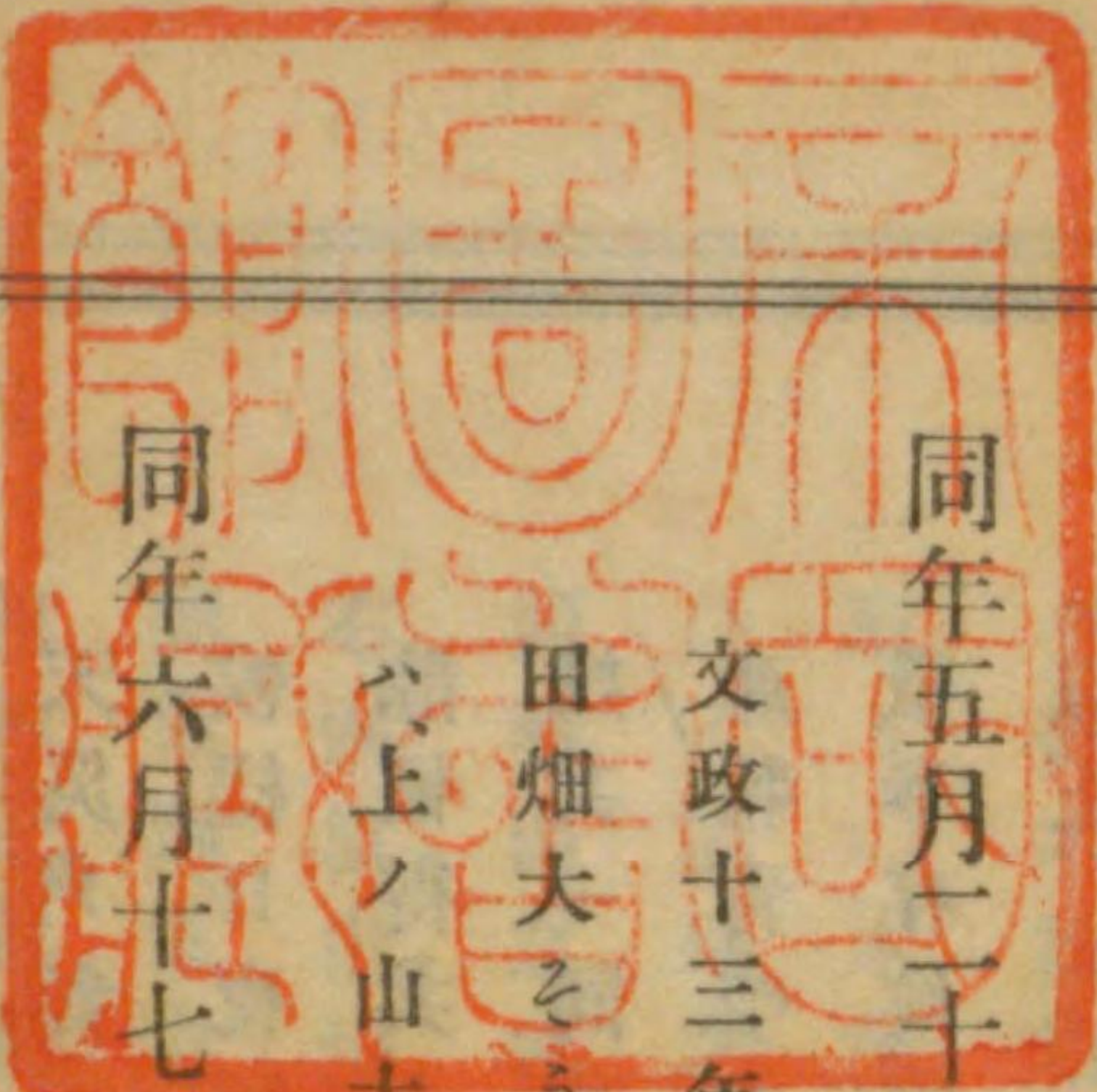
同年六月十七日、大水被害多ク、人民困窮ス。

此年ハ壹ケ月ノ内ニ、廿日廿七日、六月十七日三度洪水ニ而、大そうよ田畑そんじ候間、世
間一統こんきうニ相成申候。

同年秋悪作ニて、米壹俵壹分七百文致候、山形壹分貳朱ト貳百文。

同年八月、左澤領民、檢田減租ヲ請願ス。

乍恐以書付奉願上候。



私扱下村々、當田方之春中之餘寒長、雪解之氣候不順ニ付、耕作之第一、苗代之生立惡敷、夫故ニ田植も向後ニ罷成候處、五月大洪水以後、土用未迄霖雨相晴不申、暑氣甚弱ク、稻元茂り薄候ニ付、澁付虫差等之田方數多相見江、安事居候處、貳番草頃々、夥敷雲蚊出生仕候間、御百姓共一同驚入、在油等以相々々、種々手を盡し相防候得共、氣候ニ連レ、跡より次第ニ多雲蚊相生候而、最初虫澁付弱リ候田方江、一面ニ乘合、穗先、眞黒ニ仕、枯草同様ニ罷成、天災興者乍申、存外之違作ニ相成候間、御百姓甚愁歎仕、村々御檢見被成下度奉願上、吳候様、日夜願出候間、私共罷出内見仕候處、相違無御坐候、乍去可也ニも相見江候坪々ハ、相除候得共、多分之差上高ニ罷成恐入存候、且ツ申立ニハ、無御坐候得共、近年違作打續、御百姓共一同甚疲果候處、夏中之蠶成ハ、過半並年之三ケ一ニも相成不申、猶亦御收納第一之產物青苧之儀ハ、春中ハ氣候不順ニ而半作ヨも至兼、旁心當違ニ相成、難澁至極仕、何共歎敷奉存候、何卒以御慈悲、別紙(省略)小前帳を以奉差上候、違作坪々御檢見被成下度、奉願候以上。

寅
八月廿日、

御代官所

大泉次郎右衛門印。

同二年二月、左澤領、本月布村兩組、山野使用ノ條約ヲ協定ス。

本月布村山野萬法度證文之事。

一 東入間澤用水堰上下タ山、馬草薪伐苧之儀者、東組九人百姓共支配、要かへたてみね先ハ打矢越田之上みねハ、大矢越し先小峰ニ小ならかたをみね見とうしほり切境、水落、東組九人ニ而きりかり定之事。
并雜木松柏木等ニ至迄。

一 取りの木澤、用水堰、兩ひら事、支配之儀者、西組九人百姓之配、并山の神道下、善七古堤之上、ひと境地之澤、みね下タ道、并久八山境迄、西組九人ニ而きりかり定之事。
源藏田之古堤也。

右兩組山法之儀、前書相定山野之内、双方分附之外、山江馬草薪等自由ニきりかり決而申間敷候、依之兩組、并名主組頭打寄、相談を以、境相立堅取極申上者、子々孫々ニ至迄、急度兩組相守、他組分江伐苧申間敷候、若相背申者御坐候ハ、兩組打寄吟味可仕候、爲後日兩組連判證文差出置申處如件。

天保二卯二月廿四日、

入間澤東組百姓、

六三郎

長次郎

與七

九人

取木澤西組百姓

多	喜	平	文	長	善	忠	吉	太	市	佐	彌	政	留	久
市	作	八	郎	吉	七	藏	郎	郎	左	五	藏	吉	藏	助
								兵	衛	兵	藏	藏		
								衛	門	衛				

九人

新月布村取扱人

宗兵衛
百姓代
直藏

同年六月幸生銅山記ヲ作為ス、銅山現今古河鑛業會社ニ歸屬ス。

當大切澤銅山天和二年之頃幸生郎名主才三郎見立大坂金主泉屋吉左衛門相稼從夫星霜八拾八年相隔り御代官池田仙九郎様當地御支配之節隣山永松銅山御見分上命有之文政四子年柴橋御陣屋御歸館之砌當地者定而金銀銅鉛之氣有之影竊被遊御窺當村百姓初七長次郎と申者御手先ニ候處大切澤邊ニテ金彩之碧見立早速達上聞候處發山之命有之是再當山再興始也此時總取計從辰享和元年酉年迄五ヶ年之間御支配享和五年戌年山田常右衛門様江御引渡三ヶ年御支配川崎平右衛門様江御引渡至御同人文化六年己年水拔被御伺取掛有之候得共成就不仕文化己年迄六ヶ年被成御支配候處尙又池田

仙九郎様再御支配有台命、同未年水拔全成就仕都テ御入用千両少余、間敷貳百五拾間余、高七拾尺、世話方、佐藤善左衛門、分間方、木村右内、文化八年全成發山、寛政六寅年天保二卯年迄、經三十八年、同上月迄、通計合出銅三百六拾三万千貳百六拾壹斤九分五厘、右上納高也、未、連綿絶、後万々歳。

天保二年卯六月、爲後證建之。

當時山方引受、

久保伴助、

柴橋引受、

山崎勤吾、

下役、

永井七左衛門、

全、

全脇、

全、

全、

山木太源次、

相澤大助、

木村右内、

次郎吉、

全間澤金山出役、

全斷、

全、

全、

佐藤善三郎、

宮部潤八郎、

富樫規道、

相石俊平、

同年十二月、幕府甲斐國、御嶽山社僧社人ノ請ヲ允シ、三ヶ年ヲ期シ、同社修理料ヲ越後信濃上野陸奥出羽ノ五國ニ勸募セシム。

甲州御嶽山、

社僧、

社人總代、

社家、

内藤筑後。

越後、信濃、上野、陸奥、出羽。

右御嶽山、兩大權現社頭、其外就大破、修復爲助成、右五箇國勸化狀持參、社役人來ル從辰正月、來午ノ十二月迄、三箇年之間、御料私領寺社領在町可致巡行候間、信仰之輩ハ、物之多少によらば、可致寄進候、御料ハ御代官、私領ハ地頭ハ、可申渡候。

卯
十二月。

同四年六月二十五六兩日、大雨寒河江川出水、諸村被害多シ。

天保四年己六月廿五日廿六日、大雨ニテ、最上川寒河江川大洪水ニ而、田畑所々ニ而そんじ候、上河原道生向イ相切、中河原、下河原共ニ押切、田畑大そふニそんじ、手前地所も田畑共ニ五六拾俵之場所、砂置水押ニ相成、當年之年貢皆無同様ニ相成申候、酒田表も大キニ水上リ、鹽壹万貳三千もあく成申候様子ニ御坐候、米も五月中ハ段々直段引上、壹分三朱貳分位迄ニ相成、山形表ハ金三分三四百文迄ニ相成申候、年寄之咄しニハ、當年くらい之洪水ハ、前代未聞覺も無之と申事ニ御坐候、尤此年ハ五月廿五日ハ、七月廿日頃迄、時々之雨ニ而、稻もほの出様もたそく出申候、爲後年印置申候。(佐藤日記)

天保四己年六月廿五日、八ツ時ヲ降出し、雨廿六日兩日晝夜不晴、大雨ニ而さかい川ハ別而洪水ニ付、書面繪之通、坂上下川原清太郎甚作并坂の上組見取場新田畑、上清太郎持實

ハ五畝歩程之場、川欠ニ相成申候、其外砂押ニ相成申候、實取場川欠砂石ニ相成申候、清太郎杉廿本余流申候、勘三郎杉も拾本餘流申候、

吉川村、川欠荒繪面扣、右者當己六月中洪水ニテ、損地川欠荒繪面之通相違無御坐候。

已 七月十八日、

吉川村

百姓代、三九郎。

組頭、次郎兵衛。

名主、長左衛門。

池田仙九郎様、柴橋御役所。

六月二十五日、同二十六日、非常大雨ニ而、川々俄ニ出水、就中白川吉野川野川荒川横川水高一丈二三尺餘ニ相及、人家押流橋々流失、田畑荒所夥敷、後徳公年譜。

同年八月、米穀又騰貴ス。

當八月、又候米直段引上、當表ハ金貳分貳朱、三分迄ニ相成、山形表ハ三分貳朱位迄ニ相成、大豆貳分位、小豆貳分四五文、小麥貳分貳朱位、大麥壹分貳朱分、錢壹貫六百廿文位。

同年九月九日、諸國凶作幕府令シテ酒造高三分一ヲ減セシム。

同年十月、今茲奥羽凶作、人民多ク飢餓ス、代官金ヲ富有者ニ課シ、以テ米穀ヲ調達シ、人民救濟ノ途ニ充ツ。

當十月、又々直段引上、米壹兩、貳百文位迄、大豆貳分三朱、小豆壹兩、味噌三百目、錢壹貫六百文、當年之き、ん程、百年ニも覺無之候と、年寄之申事ニ御坐候、夫ゆへニ乞食共大々ニ相成、處々ニてもちむすび賣、貳參拾人宛町へ出ル、松りのだんご拵へたへ申候、右ニ付夫食米買調として、役所、村々江御用金相當リ、君田町ニ而も、

- 一金壹兩、周助、一三分、周藏
- 一金貳分、新二郎、一同、総二
- 一壹分貳朱、久四郎、一壹分、銀藏
- 一貳朱、權七、一貳朱、利吉
- 一貳朱、小三郎、一貳朱、與兵衛
- 一貳朱、徳兵衛

當五月下旬ヨリ、九月上旬マテ雨天打續、不順之冷氣、時節後ニ相成、田方青立損毛如左、一十二萬六千四百八石、青立田方八千四百二十七丁二反。

按、右損毛ハ米澤上杉領ナリ、寒河江地方ノ統計今知ル能ハサルモ以テ推考スヘシ。

天保四年奥羽二州開書。

六十一万五千六百石。

仙臺

松平陸奥守。

八分位之違作之處、蓄多有之、先ッ百姓餓死おし、其上片倉民數百石之米石を施し、其外近國之小家々少々手宛有之由。

米澤

(上杉ノ姓字石高
原本コレヲ欠ク)

八分位之違作、善惡総而評判おし、上下至て堅固、奥羽一番のよし。

三十万石

南部

南部信濃守。

平年糶を食し、米穀收納之上、上ル者と心得候故、百姓如平年、離散餓死多し。

十万石

津輕

津輕越中守。

貯無之故、百姓々家中ニ至るまで、松皮計食し候由、食の盡ん事を悲ミ、離散之民數百人、諸出口ニて止候へとも、山へ逃候由、餓死夥、是ハ先年飢饉之節、國ニ留るハ餓死離散之者ハ死を免候故なるへし。

十四万二千石餘

庄内

酒井左衛門尉。

累年貯多候故、民不餓不寒、隨分堅固のよし、其上領内本間外衛と申、奥羽第一之物持有之、粥を數百人ニ施し、且奥羽二州之大小名へ、米穀數多出し用達し候由。

六万石

山形

秋元但馬守。

上富み下饑、家中之計ニて、城下領内之物持へ用金數多申付、大坂々米穀を下させ、家中之者米高直ニ賣渡候由。

二十万石余

久保田

佐竹右京大夫。

大家ニハ候へとも、平年手當無之哉、百姓ハ不申及、家中食物無之餓死のよし。

一万石余

天童

織田越前守。

八分位之違作、最上へ越し、後悔餓死候由。

六万石余

新庄

戸澤大和守。

領内飢饉ニ付、歸國を願ひ、道中旅宿ハ幕打候計ニて、無挑灯、其上領内巡見之節、從者十人計ニて、野裝束頭巾ニて、百姓と同く蕨之根、芋之葉、檜之實もちを食、國民を助けし由、百姓是を信し、大守ケ様の振廻、誠ニ難有事也と、落涙尊み候由、其上重代の武器を典し、米穀之

手當いたし、困究を救候よし。

村山郡。

九分位の違作、支配御代官取計にて、同國富家本間より二千俵、越後より二千俵借受、右之米壹人ニ付壹合ツ、の積にて、極月迄取凌候由。

天保四癸巳年、古今未曾有の凶歉たり、時ニ正胤澤戸在親中なり、臨時暇を乞ふて、歸邑し輕裝草鞋山間僻地一戸の貧家も洩さば巡視して、民の疾苦を問ひ、其穀を施し菜を與へ、民の食する所の草根木皮の類を食して、良否をさとして、餓死を免れしめたり。

同年九月廿九日、薄陰、御記録所日記。

一先達而米價最上之高直ハ五貫七百文位ニ有之由、相手次第猶高くも買賣いたし候由、相場ハ五貫文あり、此間新穀少々出來ニ付、追々下直ニ相向候由、南部津輕秋田邊大飢饉也、負幼扶老足ニまりせ國をいて、上方さして相登候事、引もきらす、其内ニハ小兒を河ニ投し、又路途ニ棄去候者も有之よし、目もあてられぬ事とも也。

同年十月十三日晴全。

米穀相場。

- 一四貫七百元、平米。
- 一五貫六百元、もち。

一四貫文、

大豆たきや。

一六貫文、

小豆。

同年十二月朔晴。

一七貫五百文、

玄米壹俵。

一九貫五百文、

糯米壹俵。

同年十一月、慈恩寺領百姓仙右衛門、凶歲收獲鮮少ナルヲ以テ夫食米ヲ貸與セラレンコトヲ、同寺役所ニ請願ス。

乍恐以口上書奉歎願候。

近年違作引續候上、尙又當年格外之大凶作、殊ニ拙者頂戴之田畑ハ、御存被爲有候通、皆山澤にて、別て作毛實入無甲斐、其上當六月中前代未聞ノ大洪水故川欠殘リハ水押にて、一圓實取不相成、誠ニ當惑至極仕候間、何卒格別ノ御慈悲、夫食米御拜借被仰付被下置度、偏ニ奉願上候、且此節於御一已御難澁之折柄をも不顧、歎願候義、恐入奉存候得共、前文之趣被爲分開召、右願之通リ御拜借被仰付被下置候ハ、難有仕合ニ奉存候、無難ニ役義相勤可申候、尤返上納ノ義ハ、被仰付次第可仕候間、御慈悲之程幾重ニも奉願上候、猶御尋之義御坐候ハ、口上ニ而可奉申上候、以上。

天保四己十一月

願人

仙右衛門

御當山

御役所

同五年某月、新庄城主戸澤正胤、去歲ノ凶歉能ク其領民ヲ保護セルコトヲ褒セラレ

戸澤大和守

其方領分、羽州村々去ル已年凶作之處爲取締罷越品々厚世話致し、村方の者共に救方手當格別行届候由一段之儀之旨御沙汰に候。

同年某月、池田岩之亟、代官ニ任ス、仙九郎ノ男ナリ。

同六年某月、代官池田岩之亟、御仕置五人組條令ヲ頒布ス。

條々

- 一 前々々被仰出候御法度之趣、可相守之、若違背之輩有之者、曲事可申付事。
- 一 一切支丹宗門、於有之者、毎年改之帳面ニ記、寺判取之可差出、若紛敷宗旨之者、有之者、早速可申出、脇々令露顯者、其村名主五人組迄、曲事可申付事。
- 一 御高札古成候ハ、御役所江申上、可建替事。

附宗門改之節用事ニ付、致他行候ハ、前方相斷、呼戻請判可取之事。

一 賈金銀遺候者、有之者、曲事可申付、若賈金銀遺候を乍存、隱置後日相知候とも、當人可爲同前事。

一 前々々被仰渡候通、毒藥賣買之儀、御制禁之條於相背者、可被重科行事。

一 人賣買御法度之趣、堅可相守、奉公人之儀拾ケ年ニ可限、相對を以慥成請人取之、可召抱事。

一 牛馬賣買仕候ハ、跡々出所相改可求之、不審成牛馬一切賣買仕間敷候事。

一 田畑永代賣一切仕間敷候、若令違背者、双方可爲曲事、并田畑年季を定、質物ニ預候ハ、名主組頭加判致させ、證文取替可申候、拾ケ年ニ限、永年季ニ入申間敷候事。

一 堤川除井堰土樋水門等普請之儀、例年之格を以名主組頭致吟味、帳面ニ記可差出惣而人足諸入用費無之様可仕事。

一 用水之儀、先規之通可引之、旱魃之事たりといふとも、定之外猥ニ不可引之、他村々入組之井堰、及濁水ハ不致爭論前ニ可申出、尤理不盡ニ墟切申間敷候、水論境論之節、刀脇差弓鏢を持出事可爲無用、若違背之もの有之ハ、詮儀之上曲事可申付事。

附不依何事、爭論節加勢仕間敷候事。

一 川筋之村々洪水之節ハ、名主罷出堰不切様可防之、并井溝堀道を狭め、田畑仕出し申間敷候事。

一御普請人足、扶持方、駄賃等、其外從公儀被下置候、品々當坐ニ百姓江割渡、證文取之可申候、惣而續合勘定仕間敷事。

一御公儀様御用之儀者、不及申、往來之旅人、人馬入用之節ハ、晝夜ニ不限、無遲滯差出、御定之通賃錢可請取之事。

附御用之廻狀、先々江急度相届、請取書可取置事。

一新地之寺社、造立仕間敷候、并新規之祭禮、市町取立申間敷候、古來有來之祭禮成とも、隨分輕執行可申事。

一公儀御用ニ掛物、年中村入用割帳面ニ記、判形取立置ニ付而、出入無之様可致、惣而費之掛物割賦仕間敷事。

一父母ニ孝を盡し、夫婦むつましく、兄弟諸親類とましく、朋友と老たるを敬ひ、物每頼母敷、正路ニ可相受、老而子もあま、幼少まで親ニ離れ、或ハ夫よ別を、或ハ長煩杯いたし、無據身の上難立をの有之バ、一類共ハ不及申、名主五人組迄合力を添可申候事。

一小百姓病氣片輪者ニ而、渡世成兼候ハ、憐を加へ相應之稼相勤候様、名主五人組ハ心得可致候事。

一跡式の儀、老若ニよらば、病中ニ書付いたし、其趣名主五人組江相達、加判取置、死後出入無之様可仕候事。

附子供兄弟無之候ハ、親類并名主立會相談の上、由緒有之ハ跡式可致讓事。

一幼少ニて親ニ離れ、當分百姓難勤者有之ハ、名主組頭共立會相談之上、近き親類方ニて可致養育、田畑家財之儀ハ、名主并親類立會相改預主より証文取之、致成人候節、無相違相返、百姓爲勤候様可仕事。

一不依何事徒黨ケ間敷儀一切仕間敷候、若左様之企有之バ、早速可致注進候事。

一博奕并賭之諸勝負、一切仕間敷候、若他所之者を集、宿仕候者も有之ハ、當人ハ不及申、名主五人組迄、急度曲事可申付事。

一郷中江遊女之類一切差置申間敷候、自然奉公人又ハ商物ニ事寄、右之類差置候者有之バ、當人ハ勿論、名主五人組迄曲事可申付事。

一行衛不知者、途中ニて相果候ハ、死体改之番を附置、早速注進可致事。

附村中ニ自滅之者有之ハ、早速庄屋江相知らせ、役所江可致注進事。

一怪敷者一夜の宿をも貸申間敷候、往還之旅人たりとも、名主五人組江相斷、吟味之上宿賃可申候、縦令親類ニ候共、逗留致し候ハ、可爲同前事。

一遠國江順禮、其外物詣可爲無用、然共子細有之者、役所江訴可請差圖事。

一附村々ハ公事出入と不及申、何ニ而も用事有之、江戸江罷出候ハ、役所訴之、役人添狀を以可罷出、若無斷罷出候ハ、可爲越度事。

一村中之百姓共、庄屋組頭江無斷、他所ニ逗留せらざむ事。

一他所來る浪人、村中ニ差置申間敷候、若無據由緒有之、其身儘成者ニ候ハ、役所江相達、後御下知可差置事。

一人請之儀、猥ニ立申間敷候、近親類或ハ出生能存、儘成ものニ候ハ、庄屋五人組江相斷、請ニ立可申候、自然人請之儀ニ付、訴人有之候ハ、庄屋五人組立會埒明可申候、勿論親類たりとも、搦有之者、一切圍申間敷事。

一喧嘩口論有之節、其場ニ立會候者共、取扱可鎮之、外より猥リニ不可馳集、早速役所江可令注進事。

附他所より來る、手負之儀ハ不及申、郷中怪我、扱いたし疵付之者有之ハ、當坐ニ申出帳ニ付可申事。

一勸進相撲、歌舞技、其外何よても、芝居一切停止之事。

一質物ニ取候ハ、何品ニても、請人立可申候、請人無之、質物取候ハ、可爲曲事、勿論出所不知質物何方ハ頼候共、取次申間敷事。

一謀書謀判之輩、有之ハ、可爲嚴科、執筆之者、可爲同前事。

一印形之儀、自分替申間敷候、若替候ハ、不叶儀者、庄屋ハ役所江相達、百姓ハ庄屋江斷可申事。

一衣類之儀ハ、前々御條目之通相守リ、分限不相應之衣類、着用不可爲事。

一聲嫁取之儀ハ、身帶相應之者、取組、少しも奢たる儀不致、惣て軽く可致、家作之儀ハ、猶以分限不相應之儀致間敷候、祝言振舞家作、其外一代之内、度々無之振舞ニ而も、一汁二菜ニ不可過、是ハ軽くハ可爲心次第、尙又不可及乱酒事。

附齋法事同前あるへき事。

一常々心立惡敷、或ハ人の妨をなし、或ハ喧嘩口論を好、其外夜歩行いたし、耕作も不情ニて、渡世の經營も不致、名主組頭の異見をも不致承引もの有之ハ、可致注進事。

一前々より帳ニ付候、酒屋之外、新酒屋一切仕立申間敷候、并酒造之儀、前々御觸之通可相守事。

一鉄砲之儀、先年書上候帳面の外、新筒所持仕間敷候事。

一火の用心常ニ念を入可申、若火事出來候ハ、其村ハ不及申、隣村たり共、火消道具持、早速走着消可申候、尤役所江早々注進せへき事。

一往還の道橋破損候ハ、早速可致修理事。

一旅人相煩候ハ、醫者を頼み、養生致し、若急ニ養生難叶躰ニ候ハ、在所江申遣し、引取らせ可申候、相果候ハ、役所江致注進、可請差圖事。

一盜賊殺害人之事、他所申來候ハ、早速役所江致注進、可遂吟味事。

一御年貢割附出候ハ、免割相違無之様入念、納所江度々、江戸方ハ請取手形出之、勿論帳面ニ記、銘々取置可申候、常ニ不吟味ニ而、手形無之村入後日申出間敷事。

附質地證文、田畑引質証文等、名主組頭之内致奥印可申候、奥印無之証文ハ御取用無之段、被 仰渡奉畏候。

一檢見其外御用ニ付、役人郷村江相遣候節、飯米鹽味噌野菜薪等調候ハ、所相場ニ賣り上申へき事。

一五人組の儀、町ハ家並、在々ハ向寄次第、地借店借迄五軒宛組合子供下々ニ至迄、諸事惡事出來候ハ、詮儀之上、組中越度ニ可申付事。

一役所ハ申渡候、御用書物帳面入念相認、無遲滯可差出事。

一御料所、國々百姓共、御取箇并夫食種貸等、其外願筋ノ儀ニ付、強訴徒黨逃放候儀者、堅停止候處、近來御料所之内ニ而も、右躰之筋ニ付、

御代官陣屋江、大勢相集、訴証致し候義も有之、不届至極ニ付、自今以後嚴敷吟味之上、罪科可被行候條、先達而板ニ書付相渡置候、御書付之趣、百姓共、平日可相守事。

右被 仰出候、四拾六ヶ條之趣、亦ニ而も、寫置、惣百姓水吞等ニ至迄、度々爲讀聞、一ヶ條宛合點仕堅相守、違背仕間敷候、爲其連印帳面奉差上以上。

當御代官所

羽州村山郡柴橋村、各名主。

同八年正月、白岩村名主吉重郎寒河江名主次右衛門江戸ニ詣り、安價ノ米穀ヲ拂下ケ、且ツ江戸上米ヲ減殺シ、以テ地方窮民ヲ救恤セラレンコトヲ請願ス。

一酉年正月白岩村名主吉重郎寒河江名主次右衛門兩人、江戸表へ安石代、并御廻米御通し減等願ニ、出府いたし。(荒年記)

同年二月六日、白岩郷山間ノ窮民蜂起ス、是ヨリ前大矢周助、江戸ヨリ寒河江ニ至リ、寒河江柴橋二領去ル未年(天保六)以來徊米ノ滞納ヲ督責シ、各村名主ヲ集會ス、是ノ夜山間各村ノ窮民蜂起ス、警報柴橋陣屋ニ達ス、因テ柳澤村名主權平宮内村名主兵藏ニ命シ、往キ之ヲ諭解セシム。

酉二月六日、夜白岩山内之者共、さわかき立候付、夜中村々ハ御役所へ注進在之、此六日ニハ柴橋郡中會所へ寄合有之、此儀者去未年御徊米買納代金米直段、江戸ニ而、去年ハ追々引上候ニ付、凡四千兩程不納致候處、尤さかひ兩郡ニ而也、依之先御代官様ハ、御取立ニ大矢周助様さかひ江御下リ被遊候而、御取立ニ付、郡中名主中寄合節也、然處右山内之者共取

玄つめに、柳澤村名主權平、宮内村名主兵藏兩人、柴橋を申付ニ而差向候外、御あしりる衆も御出りけ被成候由、山内之者共へ尋候處、里方出候而も、米一切不買れ候ニ付、可相成ハ、安石代ニ而米買入度願候由、然らハ何分願之通ニ取計見可申候間、立歸候様可致とて、柳澤村御寺の下、又ハ石田村田中の茶屋之あたりを歸申候由、中ニハ上野邊迄も參候者も、少々御坐候由、山内之者共、道すりらとて、一切何々よてもさわり不致候由、只サアいべ（可行情行）と（意）申を大勢ニ而申たはりり、鍋金様之物たゞき、ところくニ而、時之聲を上ケ候由、其四五日以前、白岩大橋元へ寄合可申候との目くら、徊狀まわり候由。

同年同月九日、各村名主ヲ柴橋陣屋ニ召集シ、貯穀ヲ發シ、價額ヲ減シ以テ窮民ヲ安堵セシメンコトヲ協議ス。

申渡儀有之間、明九日四ツ時罷出可届候、其節此書付可相返者也。

酉

二月八日、

柴橋

御役所、

米澤村

八之助

谷澤村

嘉兵衛

吉川村

三九郎

右村役人

會所

此御書付、三九郎方江直ニ御届可被成候、以上。

谷澤村名主中。

一御役所之御徊狀壹通、慥請取申候、以上。

酉

二月八日、

吉川村

三九郎印。

谷澤村御名主中。

右ニ付柴橋郡中村々之内、米持衆江御書付出、九日ニ御役所江罷出候、人々ニ者、金谷原傳四郎、門四郎、外壹人才覺寺八之助、谷さわ名主嘉兵衛、小泉村ハ四五人、畑中庄助、次郎兵衛外貳三人、柴橋名主ニ而七兵衛、吉川村三九郎、長左衛門等也、都合米三百五拾俵程、山内ゆふ通ニ出し申候、鷹野起平様、御理解ニ御坐候、御役所江案内ニ者、惣代市太郎殿也、會所江引取、長左衛門發ニて、夫々米差出し申候、米直段之義も、同人發言、米壹俵代三斗五升入、代金三分貳朱直段、米壹升代、錢百六拾文ツ、此節平相場ハ米壹俵金壹兩之由、（荒年記）

同年三月十一日、白岩郷山間ノ村民數百人、蜂起シテ白岩ニ到リ、徊米七分ヲ置米ト

ナシ、且ツ米壹俵金二分二朱ニ定價セラレンコトヲ請願ス、幕吏出テ之ヲ鎮撫シ、其頭目二十餘人ヲ捕獲ス、事乃チ平ク。

天保八丙三月十二日、白岩迄山内衆そとう相つめ、柴橋役所へ出勤有之様子ニ御坐候、尤四五百人も集り候様子、同十四日、三拾人召取られ候故、夫切ニて仕舞申候。(佐藤日記)
一酉三月十一日、夜海味村枝郷邊へ、柳澤村へ始りニ而、猶亦さわき立申候、夫へ白岩邊へ隠レ居候而、同十三日夜五ツ頃、白岩たて八幡宮之鐘をこやかねよつき、大橋元切通しの上ニかゝり、火をたき、石おとつとらさね、白岩役元へ、柴橋御役所江追々御ちう進在之ニ付、御役人長澤様、友澤様、外ニ御足輕四人、柴橋名主彌十郎、七兵衛、非人番貫藏、外人足衆大勢ニ而、大橋元茶屋迄、其夜御出張然ル所、願総代柳澤村竹二郎始、外貳人ニて、白岩名主治兵衛方江、願書差出し、其願書ハ御徊米七分通置、米融通米直段壹俵代金壹分貳朱ツ、いたし吳候様との願の由、次兵衛方へ御出役様差上候由、夜明候而、白岩橋元門三郎方江、御役所相立候由、然る處柳澤村、竹次郎、始白岩村、恭八、鹿山村、染屋の宅江にきりめしの手傳いたし居候て取られ、海味村庄太郎、柳澤村重藏、外ニミのわの人貳人、是ハ其夜番ニ當リ見物うてらよ參候處、貫藏ニ白岩へ留場へ行道ニて取られ候由、都合六人本繩ニ而、三月十四日五ツ半時頃、柴橋へ引參候、三九郎此節願事ニ而、柴橋郷宿居候節也、夜入籠也、ミの人の人貳人へ翌日上り申候。

又同十五日夜、さわき立、日和田村、入口原かゝり火をたき、時之聲を上ケ候ニ付、八鍬村へ柴橋御陣屋へ御注進、日和田へ寒河江御陣屋へ御注進ニ付、大川様、御出役被遊候由、柴橋御役所へ、佐藤様、友澤様、御會所へ、市太郎殿名主七兵衛、外平鹽名主、中郷名主衆是ハ會所へ詰合、然る處、ミのわの出口ニて、大川起七郎様、三拾壹人御召取被遊候由、御用狀日和田村へ人足ニて、柴橋御陣屋江參申候也、名主次郎兵衛前小屋江三拾壹人つかき置被成候而、御吟味之由、翌十七日柴橋江引つれ入籠。

同年同月十三日、金十兩ヲ寒河江町質屋營業者十戸ニ賦課シ、郡内ノ費用ニ充ツ。

内譯

- 一金貳兩壹分、 六供町 清 七、
- 一同壹兩參分、 又 三 郎、
- 一同壹兩參分、 全 治 郎 兵 衛、
- 一同壹分、 全 七 藏、
- 一同壹分貳朱、 全 伊 藏、

一同壹兩參分、西町 六右衛門、

一同壹分貳朱、南町 吉藏、

一同壹分貳朱、全 傳四郎、

一同壹分貳朱、君田町 周助、

一同三分、石川 甚右衛門、

按、右用金賦課ハ獨リ寒河江町ニ止マラス、全領内富有者ニ及ヒタル知ルベシ、今其一ヲ舉ク。

同年同月二十二日、寒河江上町出火シ、六供町横町等延燒ス、戸數四拾土藏六燒失ス。

同年同月二十六日、去月十九日、大坂大鹽平八郎乱ヲ起シ、市中ヲ放火シ、救宥民ヲ以テ辭柄トナス、事成ラスシテ避匿シ、此日自殺ス。

同年同月、添田一郎次、寒河江代官ニ任ス。

同年四月二日、大將軍德川家齊職ヲ男家慶ニ讓ル。

同年九月二日、德川家慶將軍宣下。

同年十一月十一日、代官添田一郎次盜賊二人ヲ寒河江石田ニ處刑ス、一ハ獄門一ハ斬首ナリ。

天保八西十一月十一日、寒河江於石田ごく門人有之、尤貳人之内壹人ハ長崎村五郎八伴

是のごく門也、三日さらば、外壹人の元たての人也、打首也、是ハ中野邊ニテか郷藏やふり、

長崎の御舟場川原ニテ追とさいたし候つゝ也。

同九年四月、去月江戸城西丸災ニ罹ル、是ニ於テ金ヲ柴橋寒河江二領内ノ富有者ニ課シ、役ヲ助ケシム。

一戌四月十五日、柴橋御役所ニ而、江戸西ノ御丸、戌三月十一日、御燒失ニ付、郡中村々へ身元

總應ニテ御用金被仰付候。
一金四百九拾壹兩也、柴橋附郡中。
一金五百拾兩也、寒河江附郡中。

右者、去天保九戌三月十一日夜七ツ頃、江戸西御丸御燒失ニ付、御上納金被仰付云々。

同年閏四月、幕府令シテ、節儉ヲ行ハシメ、金銀裝飾ノ櫛笄挿頭煙管煙草入紙入等ヲ使

用スルコトヲ禁ス、之ヲ天保革政ノ濫觴トナス。

同年同月十四日、御領巡見使、松野熊之助、柴田岩三郎、滿田作内、寒河江ニ館ス。

天保九年戊閏四月十四日、御巡見様御泊り、宿三軒。

松田熊之助様

六工町 宿 市右衛門

柴田岩三郎様

全 宿 卯兵衛

滿田作内様

全 宿 清七

上下貳拾壹人、壹晩計リ御泊リ、(佐藤日記)

戊潤四月十二日、上ノ山御泊リ、十三日長崎御泊リ、松野様御泊文藏、御本陣江ハ柴田様、滿田様ハ十三日御休、漆山同天童御泊リ、十四日御休ミ、御泊リ共寒河江、松野様市右衛門、十五日御休大谷、十五日大沼御泊リ、松野様御宿名主清右衛門、柴田様御宿常右衛門、滿田様御宿安四郎、十七日、吉川村御休ミ、松野様安中坊、柴田様榮吉、滿田様長左衛門、家普請出カ、リニ而、前の長家ニ而取まかひ、谷澤村名主嘉兵衛御小休ニ相成申候、夫ハ米澤村御通リ被遊候而、三島門前通才覺寺江出、八畝村へハ不出、北通坂上へ出川端を登り、大橋へ出陣り峰へ出、慈恩寺領自白岩さかひくい迄御案内之僧三人出ル、鳥居下ハ松野様籠

同年同二十五日、夜盜アリ、大井澤大日寺門前正二坊夫妻ヲ斬殺シ、貨財ヲ掠奪ス、養子某又傷ヲ被ル。

下り、熊野堂下ハ東へ御籠を通し、御具足御持被成候也、(略)御長持明荷等ハ下ハ直々谷地へ行、日和田名主與右衛門方ニて御小休、谷地ハ尾羽ね澤御泊り、庄内大山羽黒山御參詣ニ而御歸り、又五月二日、天童御泊り、柴橋御役所ハ奥野儀八様會所ハ、勘兵衛御出張なり。

(荒年記)

同廿五日、夜四ツ頃、大井澤門前正二坊俗名新太郎事、夫婦切ころされ、たしかけとうそく之様也、もらひむすこ年拾六才位、鍵ニて二ヶ處手たひ、此正二坊ハ入間村ハ入夫いたし候仁之由、依之入間へ來、今日ハ添心等いたし御役所へりけ込、願いたし、奥野儀八様御出役被遊候、同廿六日ハ五月朔日御歸、正二坊所持田方八千疋餘有之候由、たんす半かひ等之物、じやう前こわし、錢金持行候由、諸證文帳面等も持行、然而受口書ニハ願出候者見留候事無之候由、先ツからうめよいたし置候由。

同十年五月、寒河江陣屋ヲ改築ス、寒河江町ヨリ金二百兩同領中ヨリ同百兩ヲ献ジ、以テ其費ニ充ツ。

天保十年亥五月、役所立替ニ付、寒河江ハ貳百兩上ル、郡中ハ百兩上ル。

同年六月二十八日、大雨寒河江川洪水被害多シ。

同年六月二日、廿五日、廿八日、大雨ニテ寒河江川大水ニ而、道生向イカ所々下方迄切レ、田畑共ニ大そうよそんじ、七年前之水くらひニ御坐候。

同年、今茲豊熟、所々歌舞伎ヲ興行ス。

當年も火テリニ而、作方段々田畑共ニ能相成、米も六月下旬比ハ壹分貳朱位ニ相成、土用中大火テリニ御坐候、夫故少々芝居相掛り申候、山形江も五月中、尾上菊五郎芝居参り申上候。

同十二年五月一日、酒井氏用度給セス、因テ家政ヲ改革シ、左澤領歳入ヲ公務費ニ充ツルヲ以テ、其租稅ハ古法ニ據リ、十一月ヲ期トシ、皆濟センコトヲ諭告セシム。

天保十貳年、丑五月朔日、御郡代石川市郎右衛門殿、鈴木幸七殿、左澤役所江御登、被仰渡。

大庄屋

大泉次郎右衛門、

鈴木與一郎、

齋藤佐一郎、

鈴木総三郎、

鈴木徳太郎、

阿部傳五郎、

長岡權三郎、

齋藤庄太郎、

兼而御不如意之處、近年御高借被爲置、去ル末年破格御儉約被。仰出候得共、其後追々無御據御入用相嵩、御地盤向相立不申、御暮方御差間、既ニ御公務ニも拘り候御時節柄ニ相成、御借財御凌方御手段も無之處江、今度

御本家様御所替ニ付、酒井氏移封ノ命アリ万事御金操ハ勿論、是迄之御振合不被爲至、彌以御手詰ニ付、此上嚴敷御省略被。仰出、諸向格別之御取縮を以、御地盤向何様ニ欺御組立候カ外無之、依而左澤御領内、御收納之義者、專御勤向御入用江御差向之處、近年ハ年内中ニ皆濟ニ至兼、翌年納候事ニ而ハ、其年御入用金御差間、毎度御暫借を以、御間ニ合候得共、利足ハ御不益不少、第一御取縮不宜筋、畢竟百姓困窮ニ迫り、實ニ無餘儀、情弱ニ可相成義も可有之候得共、御法を取乱し不相成事ニ付、能々総百姓江教諭いたし、十一月中皆濟、古法忘却不致様、急度可申渡事。

一去寅年後、年賦御貸付濟殘リ、又年々未進多分之儀、不容易御地盤崩ニ相成候ニ付、嚴重御取立被仰付候処、此度御改正ニ付、寅年後年賦拜借上納殘、并午未申酉戌迄年々之殘納内、

退轉百姓并出奔跡弁納等不被仰付、被下切、若疑敷次第有之ハ、急度御調被 仰付候、無心得違、村役人共念入、相糺可申立、右引殘金村々上納高相極候、俵數、格別之以御慈悲、金拾兩ニ付平均五拾俵直段を以、代金ニ直し、當丑年ハ御取立被 仰付候間、上納方可申候、尤御年貢引當以是迄高利御借財莫太相嵩、金主江御返濟方御當も無之、公邊御役所金御借入之分ハ、御儀理合も相立不申、依而當丑ハ午迄六ケ年、仕法御組立ニ付、御年限中、元直拜借等願出候而も不被 仰付候ニ付、農業を勵之、相續可致、右ニ付郷方難澁も可有之候得共、御時柄篤興奉恐察、大小之百姓一同御用途專一可心掛、尤高掛り雜用等、別而省略いたし、且諸役人徊勤ハ勿論、見分所有之、出役村賄等之事ハ、空腹を凌候迄ニ而、茶漬無酒至而手輕之賄可致、此段諸役人江も被 仰達候間、村役人共江急度無心得違、相守可申候。

一村々潰前支配、村支配江御年貢立不足、年季御手當米、年季明ニ至候而も、年繼等申立一向可行直處も見江不申、年增御手當相増、御取箇相減、御地盤崩ニ相成候ニ付、無際限儀、以來年季中被下米を以、往々仕法相立候調、見江不申候而ハ、難被下、却而潰前支配いたし候、百姓衰困之元ニ可相成、是迄年季御年明被下候場所江、年繼願出候て元祿之度反別帳江、潰前百姓之元所持之分不殘引合相改候條、字伏所取調、不足ニ受候もの、其節違乱不申様可申合置候。

一御料所出作御年貢之儀、是迄年内取立不行届、翌年ニ至上納之跡不相定様、仕癖ニ相成、是迄ハ何様敷、御金繰相成候處、別條之通御差間之事ニ付、上納之跡不被定候得ハ、御差繰ノ不足次第有之候ニ付、年内皆濟之積りを以、不殘其扱大庄屋江御預被成候間、十二月翌五月七月右三渡ニ割合可相納候。

一御收納米御取入迄、其年御入用金御暫借を以、是迄夫々御繰ニ相成候得共、前條之通今度御地盤御組立直ニ付、年々五月中五百兩宛、御金無之候者、御道中御入用御差間ニ付、七八九右三ヶ月先納金之内、總大庄や格別情力を盡し、金五百兩五月中可相納、乍去臺物等も生々不申、難儀可有之ニ付、月壹割貳歩之利足相拂候條、才覺以御用途相進候様、御年限中可心掛候事。

一扱村々之内、極窮村者、勿論荒地田畑有之分、御時節柄ニ者候得共、不容易儀、難被御捨置、行々百姓困窮、顯然之事ニ付、夫々御取調、已前之村柄ニ立直候様、仕法組立之儀、被 仰出候ニ付、荒地田畑取調可差出、水帳江引合、相違無之候ハ、御取立ニ相成候事、總百姓江可申達候。

一年々御年貢皆濟已前、米穀一切費シ不申、諸取引等ニ至迄、堅いたし不申様、兼而申達候得共、猶亦嚴重ニ被 仰候間、堅一同相守可申候、若心得違之もの有之候ハ、名主組頭組合迄、越度可被 仰付候。

右總百姓小前ニ至迄、申達、儉約專奢を制、農業一途之動、厚教戒可致、是迄之振合ニ不拘、年

々八月中五人組御仕置帳、大小之百姓小前ニ至迄、呼出爲讀聞、調印爲申事。

丑
四月。

同年八月十七日、寒河江代官、添田一郎次寺社領朱印ヲ各寺社ニ交付ス。

一家慶公天保十亥年九月十一日、御朱印同十二丑年八月十七日、於寒河江御料所、御代官添田一郎次殿ヨリ、御朱印御渡シ頂戴仕候。

同年九月、霖雨月ヲ超ヘテ歇マス、秋收期ヲ失フ。

天保十二年、丑九月ハ雨天ニ而、秋上ハ殊之外ニくれ候而、十一月中稻様々取仕舞申候、當年位之秋上ハ百年ニも無之候と、年寄衆之申事ニ御坐候、其ゆヘニ米もあまニ候間、御年貢もとりどり不申候、米直段も十一月中ハ、金壹分三百文位ニ御坐候。

同十四年、某月、大貫次右衛門代官ニ任ス。

同年二月、幕府寺子屋ニ命シ、習字ノ外男子ニハ字札觸書、庭訓往來、實語教、大學小學、女子ニハ、女今川女戒、女孝經ノ類ヲ教授セシメ、又農商家作ノ華美ヲ禁止ス、

同年閏九月十四日、水野忠邦老中ニ任ス。

同年十月、白岩郷留場村、契約講規約、并ニ火災消防規約ヲ更定ス、左ノ如シ。

掟。

一先年ヨリ有來候、契約全非爲吞喰事。

年中ニ壹度會席ナレハ、随分相樂ミ睦敷相慎肝要ニ候、商買躰ニヨリ隙付合等モ度々無之方モ在之事ニ候ヘバ、今日限リ至珍敷語合、聊成誤リ等有之候ハ、決シテ口論致シ間敷候事。

互ニ相タシナミ其上儀理仁儀愁眉等ノ義外一式相定ノ通左ニ、

朝献立、講帳文回之通り。

夕相談ノ次第。

右料理之義ハ、是迄有來候通り、有來リノ料理ニテ賄可致候、尤外品ハ其ノ年柄ニ應ジ、相談ノ上可相用候事。

一施主大沼三郎右衛門、村備金トシテ金六兩備置、利金每年被成御渡候、奉請取前之通り、其ノ年柄ニ應シ、相談ノ上、一式買調エ契約可仕候、尤利金ニテ過不足有之年ハ、契約ノ席ニテ相談ノ上、可然様可致候、且又施主ノ以御願、無出錢ニテ一日吞喰イタシ、保管ニ契合仕リ候上ハ、己後施主三郎右衛門無當處ニテ、永々正席ニ相定メ候事。
一客方ニ時分使ノ義ハ、可及兩度、三度使不相待可罷出候事。

一祝ノ義ハ其ノ家ノ家風ニテ候得共先以親類縁者可致外其ノ家ニヨリ猶又其ノ年柄ニヨリ難澁ノ御方モ在之候ハ兄弟許ニテモ可致是ハ格別ノ事。

一村方年賀其ノ外一式祝儀ノ義ハ使無之族ニハ一切參リ申間敷候事。

一愁眉ノ義ハ兼テ申合セノ通り他所不幸ノ義ハ親類縁者計外愁眉不及候。

一其ノ家々ニ不幸有之節ハ村中ハ不及申五人組ハ別テ相互ニ手傳ヲ以葬式取行殊ニ愁眉人賄滞無之様可致候事。

一村方契約膳椀疊之義ハ差支ノ族ニハ貸遣可申シカシ三日過候ハ直様時ノ當番ヘ可相返万一分失ノ品在之候ハ弁可申候事。

一村方ニテ不慮ノ難義筋仕來候ハ隣家ハ勿論早速打寄心添致謹相濟候様取計專一ノ事。

一賭博ノ諸勝負一切致間敷候事。

一村方契約中間入相借致旨申出候ハ其年ノ當番ニ相頼則右ノ趣仲間相談ノ上何ニモ取極可申事。

一古來ヨリ有來候百姓子孫内分テ致別家相成候ハ早速相願ヘ契約連中ニ可相賀候事。

一他村ノ者無子細引越當村ヘ年久借宅住居致候者有之村契約ヘ相加度旨當番ヘ相願候ハ是又深ク相談ノ上可取極事。

一安産見舞ノ義ハ親類縁者隣家ニ可限外家ハ見舞不及候事。

一酒ノ義ハ朝大椀ニテ壹勺宛夕方ハ相談ノ上相用可申併シ余リ不過様ニ可相用且又當番ノ儀ハ働キノタメニハ候ヘトモ万端氣付可申候今日一日客ニ候得ハ大切致シ疎略無之様專要ニ候。

右之條々豫メ心得可申候萬事心得テ可罷在何事モ余リ過タルハ惡不足ナルハ猶用ヒニタラズ何事ニテモ一存ニテハ誤リ可有之候間好身ノ者エ渡リ談合可有之ハ勿論遠家ノ一家ヨリ近ノ他人ト申事有之候間村方ハ不及申近所ノ御方ハ別而大切ノ義ト心得至テ睦マシク附合肝要候事。

一列坐ノ義ハ三役施主百姓水吞外院主老人ト格別急度坐敷相改メ可申今日一日大切ト存シ上ヲ敬ヒ下ヲアハレミ間違等無之様可仕候。

勿論契約トハ大義理ヲムスヒマトフノ意ニテ絢文字ヲ略シ其驗也標セトアレハ物毎ニツマヤカニマトフムスフノ事ナリ傳聞唐ニモ諸侯王達拾二年目會合有之周ノ天子窮民ヲ救ヒ仁政專ラ行ハント云合國家安穩ノ會席ナリ若シ又奢ナシ民ヲ苦シメ道ニ背キタル事ナスモノアラバ隣國トモ打寄城ヲ責メ落シ子孫迄斷絶サスヘシトノカタメ約束故誓之若約背キタルモノハ人ニアラズ牛トモ馬トモ云ヒベシ誓文致故誓約トモ申事ナリ今我朝ノ契約モ其通地神五代ノ始メモ夫婦チギリ他ノ交リモ誠ヲ盡ス。

御公儀様ノ御掟ヲ守リ、御年貢等ヲ疎略ニセズ、親孝行盡シ、正直第一ニシテ、家職ヲ大切ニ可相守、神代ノ卷ニモ至テ不仁之レナク、能々心カケ申可有之事。其ノ上ハ、淨瑠璃小歌ニ、坐語ノ酒盛アルモヨシ、千秋樂目出度相濟、退出可有、專要事仍而契約掟連印如件。

天保十四卯年十月。

差出申一札ノ事。

- 一 今般取極之趣旨ハ、唯家ヨリ火事出來トモ火消道具ヲ持駈付、精出消可申候、併隣家ハ格別ナリ、若シ不出合モノ有之候ハ、穿鑿ノ上急度可會吟味候事。
- 一 己後火災一件ノ儀ハ、地火勿論、アイマツ火差火ニ不拘、唯家ヨリ出來候テモ、類焼ノ者エ一切助精手、當ノ筋無之様、類焼同様ニ焼跡片付勿論、其外共同様取計可申候事。
- 一 火元ノ者、身元者ニテ家作普請モ、急ニ致候モ差支無之族候ハ、類焼ノモノ壹軒モ家作普請相催候ハ、是又同様爲致可申候事。
- 一 類焼壹軒ニテ、其ノモノ難澁モノニテ、家作普請差當リ無覺束候ハ、類焼ノモノ家作普請相催不致候而ハ、火元普請爲致可申候事。
- 右ケ條ノ通、村内一同決談ノ上取極候處、聊違乱無御坐候、當名主施主人契約當番、院主ヘ壹通宛レ四通連印仕、爲預申處相違無御坐候、爲後日取極儀掟連印、仍而如件。

天保十四卯年十月。

同年十二月、幕府金錢貸借ニ關スル出訴ハ、當年以下ノ貸借ヲ限り、以上ハコレヲ裁許セサルコトヲ令ス。

大目付江

近年以來、諸向追々及困窮、可爲難儀ニ付、品々御世話も有之候得、其累年借財多之輩容易ニ勝手向取直出來兼候哉ニ付、今度爲御救、厚思召を以、公儀諸貸付御仕法替之上、藏宿貸出し、金年賦濟方被。仰出候處、世上金銀出入も、元來相對貸借之上ハ、取上裁許ニも不及事候間、只今迄之分、此節を限裁許不申付、自今貸出候分ハ、前々之通取上可及裁許ニ、勿論買掛諸職人作料手間錢ニ至迄同斷之事。

一金銀貸借之儀、年古義ニ而も相互ニ實意を以對談いたし候ハ、容易ニ出訴裁許受候ニも不及、右者双方不實分、多くハ猥ニ出訴ニ出候義與相聞ひ、此度相對濟被。仰付候上者、諸事寛政九己年金銀出入之義ニ付、厚相守實意を盡、取引可致候、奉行所江出訴不相成を見込、弄指可致、坏與心得、又ハ慾心を以事を巧ミ、出入ニたよひ、或ハ利徳ニ而已拘リ、出訴ノ類ハ何れも不埒ニ付、吟味之上、急度可申付候。

一 以來濟方可申付分、申渡之金高不足いたし、每度不束ニ候ハ、糺之上急度可及沙汰候。

右之趣町在共可被相觸候。

天保十四卯十二月。

弘化元年、七月六日、谷地北口失火、三十九戸ヲ焼失ス。

天保十五辰年、七月六日、夕九ツ半時、谷地北口三拾九軒焼失致、火元りしや、北口よこ町

総側。

同年同月廿五日、海味村失火十六戸ヲ焼出ス、村ハ湯殿月山羽黒三山參詣ノ要路ナリ。

同二年二月廿二日、老中水野忠邦罷ム。

同年四月、石井勝之進、寒河江領代官ニ任ス。

同年九月二日、前老中水野忠邦隱居、謹慎ヲ命セラル。

同年十一月、晦日、山形城主秋元久朝館林ニ、水野忠精山形ニ移封セラリ。

弘化三年ひのへ午三月、山形御國替、水野様五万石ニ而、山形へ、濱松ハ御國替成ル。

按、弘化三年三月ハ、水野氏カ山形ニ入部シタル時ヲ記シタルナリ、移封ノ命ハ本年ナリ。

同三年二月六日、仁孝天皇崩御、十三日孝明天皇踐祚シ玉フ。

同年五月十日雹降ル。

嘉永元年十一月、吉田條太郎寒河江領代官ニ任ス、今茲六月以降、八月ニ至ルマテ雨降ラス、最上川涸水シ、船舶通セス、鹽價爲ニ騰貴ス。

嘉永元年申六月ハ八月迄、大天氣ニ而、畑物一切違ひ、當年程之天氣者、前代無之事ト年寄衆も申事ニ御坐候、田方之分ハ十分ニ候へ共、畑方何ニよらず大違ニ御坐候、此節大ひてりゆへ、舟壹艘も通用無之ゆへ、鹽直段も高直ニ相成申候。

米壹俵ニ付、金壹分四五百文。

大豆壹俵ニ付、金壹分貳朱ト百文。

小豆、同斷位。

鹽壹駄ニ付、金壹兩貳三匁位、八月比壹升ニ付八拾文位ニ御坐候。

同二年二月、戸澤正實、北谷地岩木村、安達次郎兵衛家内和順農業出精ナルヲ賞ス。

其方事常々心掛宜敷、家内和順して、専農事に精出し候段、村内の者共には手本ニも可相成、神妙之至リ、依之其村方若者、諸役相達爲褒賞金貳朱遣し候也。

嘉永二年丙二月。

栗田式右衛門。

岩木

治郎兵衛殿

同年十月、代官吉田條太郎、五人組仕置帳ヲ頒ツ、左ノ如シ。

五人組御仕置帳。

條々。

一御高札之旨謹而可相守事。

一追々布告スル趣、不可違背事。

一邪宗門、并怪異之宗法、堅禁之、然上者五人組互ニ穿鑿シ、不審之者有之者、速ニ可申出、若緩

ニシテ他方於洩聞者、五人組之モノモ可爲越度事。

一五人組之儀者、家並最寄ヲ以テ、組合セ、親戚同様ニ親敷可相立事。

附組内喧嘩口論、其他故障出來之節者、組頭へ届、組頭取捌カタキトキハ、庄屋へ相届、可

成丈ハ、村内ニ而取治ムベシ、自然庄屋心ニモ不任時ハ、可言上事。

附他所人、人別ニ加リ度願出ツルモノアラバ、出所産業等ヲ聞糺シ、是迄の在所役人ヨ

リ送狀ヲ取り、人柄不審モ無之、請人等モ有之ハ、其書置願出聞届之上、五人組へ加フベ

シ、其儀ナク不審者、留置ニ於テハ、五人組ノ者可爲越度事。

附他所人出稼ニ來ルモノモ、同斷、是迄ノ在所役人ノ添書ヲ取り、人柄不審モ無之、請人

等有之ハ、可免滯居、其儀ナク不審者留置ニ於テハ、家主五人組共迄モ、可爲越度事。

附他所ノ年限奉公人雇入ル、時ハ、篤ト取糺シ、親元名前年齢等書記シ、庄屋へ可届出、無其儀不審者留置ニ於テハ、主人可爲越度事。

附他所へ轉居、此地之人別ヲ外レ度願出ル者ハ、組合庄屋旨趣ヲ詳ニ聞糺シ、道理至極ノ義アラバ、其段願出聞届ノ上、庄屋ヨリ送狀差出シ、先方ノ人別ニ加へ、此地之五人組ヲ除クベキ事。

附年限ヲ以テ、他所稼ニ出ルモ同斷、庄屋ノ添書可差出、尤歸期限ヲ誤ルベカラス、無據滯留イタスニ於テハ、其趣速ニ可申越事。

附組内死生縁組、改名田畑山林賣買讓與、其外廉立出入有之者、其度々庄屋へ相届、戶籍へ書記スベキ事。

一村内懇和シ、吉凶相助、善ヲ勸メ惡ヲ戒メ、共ニ渡世ノ安穩ヲ謀ルヘキ事。

附孤獨癡疾無告ノ窮民者、村内互ニ申合、常ニ心ヲ附ケ、救助申出等遺漏沈滯不有之事。

附火災盜難、或者病氣ニ而、産業ヲ失者アラバ、組合村内心遣ヒ、産業ニ基カシムベシ、不任心事アラバ速ニ可申出事。

附盜賊乱暴人、水難火災等、都而非常警ノ儀者、五人組村内ニ而、兼々申合置、急度相救フベキ事。

附盜賊惡黨擄捕申出者ニハ、褒美ヲ與フベキ事。

附用事ニ而他國ニ出ツル者、其趣庄屋へ相届ケ、庄屋ヨリ往來券ヲ取り可申出、然上者於他國、病氣或ハ死去等之義相聞エ、親類組合ノ内、又村役人ノ者罷越、一躰可取捌事。

附諸事心得不真、身持放埒ナルモノアラハ、五人組、村役人教諭ヲ加ヘ、善道ニ導クベシ、自然徒ヲ搆ヘ、折檻ヲ不用、惡業相募ルニ於テハ可訴出事。

附善行奇特者アラハ申出ツヘシ、善人ノ出ルハ兼テ示シ方宜シキ故ニテ、其段組合ノ美事タリ、當人ハ勿論品ニヨリ、庄屋五人組ノモノ迄も可與褒美事。

一 農業ヲ不勤不正ノ商賣ヲ事トシ、高利ヲ貪ル事堅ク誠ル所ナリ、諸事農ノ風ヲ不失、耕作精々可相勵事。

附有徳ノ百姓、米穀ヲ貸トイヘトモ、利息尋常タルベシ、貸家貸地過當ノ代料取間敷、諸職人作料手間賃申合、高直ニスベカラサルコト。

附米穀商物緋買、或ハ申合高價ニスヘカラサル事。

附盜物買取、又ハ質ニ取置者ハ品物取アゲ申付ベシ、盜物ト知リ乍ラ、買請又ハ質ニ取者ハ、答ヲ可申付事。

附賈金銀、其外惡タクミヲ以テ、人ノ目ヲ掠メル者アラバ、速可訴出、タトヒ一旦其事ニ携ルトイヘトモ、其答ヲ免シ遣スベシ。

一 博奕其外賭ノ諸勝負、堅禁之、若竊ニ取扱フ者アラハ可訴出、隱置他ヨリ於洩聞者、村役人五人組迄も可爲越度事。

一 横死人、自害人、倒人等有之者、番人附置、可遂注進事。

一 往來之者、怪我病氣飢餓等ニ而相煩ヒ候ハ、醫師へ見セ、能々介抱イタシ遣スベシ、若歩行モ不相叶時ハ、其者ノ在所承リ、村送ニシテ送届歟、又ハ迎ヲ呼寄カ、無疎略可取扱、致病死時ハ、其者ノ道具等不紛失様ニ封印緋ニシテ、在所へ可掛合事。

一 捨子墮胎禁制タリ、自然貧窮ニ而、養育不能者、可申出、救助遣スベク事。

附捨子有之節ハ、村内申合、致養育置可届出事。

一出所不慥者へ、宿貸間敷、都而旅人止宿ヲ乞フ時ハ、在所其外聞糺シ、往來券相改、所役人へ相届、其上ニ而止宿致サスベシ、一己之了簡ニ而宿貸ベカラサル事。

附遊女野郎之類、一切不可留置、一夜ノ宿モ貸間敷事。

附社寺堂宮ニ隠レ忍ブ胡乱之者アラバ、近邊ノモノ申合、致吟味、擄捕可遂注進事。

附他所ヨリ不審者入込ミ、五人組所役人等致吟味、品ニヨリテハ擄捕可注進事。

一新規之社寺建立停止之事。

附猥リニ僧尼トナルコト禁之、自然理至極ノ義アラバ、願出ノ上可免許事。

附佛名題目ノ石塔、供養塚、石地藏等建立ノ義、向後停止タリ、理至極ノ義アラハ、願出ノ

上可免許事。

一角力芝居狂言等、私ニ興行致シ間敷、願出可請免許事。

一兼而、免許無之場所ニ而遊女藝妓等不抱置事。

附百姓ノ妻娘共、三味線舞曲等遊藝ヲ專トシ、遊客酒宴ノ席ニ立交リ、藝者遊女等ノ見習スルヲ堅可相誠事。

一自分ニ應セサル饗應事、借ニ驕奢之風儀相誠ル處ナリ、聲取嫁取養子取組、出産年賀葬祭等之義、華美虚飾ヲ省キ、實意ヲ旨トスベキ事。

一田畑不荒様ニスベシ、水損等ニ而荒地トナリ、起返シ、一家ノ力ニ不及所ハ、村中互ニ助力スベシ、村中ノ力ニモ不及程ノ事ハ可申出事。

一田畑ヲ開キ可然地ハ、村々申合、所役人立會、秣場作道等ノ妨ニモ不相成者、可申出、新開可申付事。

附堀ヲ埋、溝筋道筋ヲ附替、又ハ堀堤等築時ハ、村役人立會、吟味之上可請差圖事。

一溝川、道橋、堤防等大破ニ至ラサル内、可加修覆、尤下ニ於テハ普請等難成程之義ハ、可申出、洪水等ノ節ハ、村中出合可守護、其儀モ無之、且常々修覆ニ怠リ、及大破其村役共之可爲無念事。

附川中寄洲等、私ニ田畑ヲ開キ、又ハ樹木ヲ植付、家屋ヲ構フル事停止之事。

一御用人馬者申不及、往來之者迄、人馬繼立、晝夜ニ不限、無滯差出ベク事。

一御林御立山之竹木枝葉タリトモ、御用之外採用停止之事。

一耕作秣場等之障ニ不相成、土地見立、樹木可植置事。

一出役之面々、權威ヲ振ヒ、或ハ私曲ヲ構へ、無理ヲ仕掛ケル等ノ事アラバ、不隱可訴出、未々家來下人等ニテモ可爲同斷事。

右條堅可相守、是永世ノ制法ヨリ、聊不可違背者也。

嘉永二年十月。

同年同月大谷村、人民村費多端、細民困苦ニ陷ランコトヲ察シ、議シテ儀定書ヲ定メ、村内ノ費用ヲ節約ス、儀定書左ノ如シ。

儀定書。

掟。

一近來諸品高直ニ付、諸入用等多分相懸、小前末々之者共、彌增難澁之趣相聞候間、此度相改左之通。

一小前末々ヨリ可願出筋有之候節ハ、以前ハ親類組合差添百姓代組頭へ相願候處、近來之仕成其身一人勝手ヲ以テ、役場へ願出候義不宜候間、以前之通、百姓代組頭へ罷出可相成。

者、右兩人之理解ニ任セ、勘弁致シ、夫共相分リ兼候節ハ、兩人ノ取次ヲ以テ可申出候事。

附難捨置喧嘩口論、并他村へ相掛候儀ハ、格別ニ候間、捨置申間敷候事。

一諸事三役人評議之上、取極可申候事。

一諸普請人足等之儀ハ、小前末々、其外越石入作ノ者共へモ無甲乙候様、割當、手扣之儀ハ、役元ニ而年中取調可申候事。

一役場諸割合、其外萬事集會ノ節ニハ、各弁當持參之上、小入用不相懸候事。

一酒之儀不依何義、禁酒可致候事。

附大堰普請之節ハ、先年ヨリノ仕來ヲ以テ、取計可致事。

一御領主様ハ、不及申、御他方御役人中様、御休泊ニ相成候節ハ、先年ヨリノ仕來ヲ以テ、無調法無之様、御取扱可申上候事。

附御休泊御宿ニ而、勝手方賄之儀ハ、不及申、禁酒可致事。

一天氣祭雨乞之節ハ、軒別ニ拾文ツ、爲神酒料、役人共ハ相渡可申候事。

一二百十日風祭之節ニハ、三役人共へ酒壹升ツ、年番惣代之者共、右ニ順ジ儉約可致候事。附虫送之節ハ、三拾文ツ、爲神酒料、役人共へ相渡可申候事。

一御免勸化之外、諸勸化、其外萬事小入用ニ可相成分ハ、鑑三百文ヨリ以上、不依何義、同役ノ者へ相談之上、帳合可致候事。

一御年貢米七日限、可相納処、取立方萬事儉約ニ付、日數相掛候而ハ、小入用相掛候ニ付、以來者迷惑之者モ、小前ニ可有之候へ共、七日八日右兩日ニ相納可申候事。

右ハ村方一同、評議之上、儉約儀定取極申候ニ付、私共一同請書調印仕、其旨屹度相心得可申候、爲其請書仍而如件。

嘉永二年酉十月。

同年同月、代官吉田條太郎、諸村ノ貢賦ヲ割付ス、其留場村ニ割附セルモノ、左ノ如シ。

酉御年貢可納割附之事、

申ヨリ成迄三ヶ年定免。

一高貳百四拾六石六斗五升壹合、

内高貳斗三升七合、

此譯、

田高貳百貳拾貳石壹斗七升三合、

内高貳拾壹石八斗四升貳合、

殘高貳百石三斗三升壹合、

此取米四拾七石八斗三升貳合、

出羽國村山郡

留場村

新田

連々引

去申同

内譯

高百九拾八石四斗三升三合

此取米四拾七石五斗七升貳合

高壹石八斗九升八合

此取米貳斗六升

畑高貳拾四石四斗七升八合

内高貳斗四升 引

殘高貳拾四石貳斗三升八合

此取米拾四石九斗七升九合

取合米六拾貳石八斗壹升壹合

外

一畑壹反歩

内貳畝歩

殘八畝歩

此取米九升七合

一永七百九文

本免

取下

去申同

去申同

見取

連々引

去申引

漆代

漆實代

山役永

御傳馬宿入用

六尺給米

御藏前入用

一永貳拾壹文

一永拾貳文

一米壹斗四升八合

一米四斗九升三合

一永六百拾六文六卜

納合米六拾三石五斗四升九合
永七百貳拾八文六卜

右者當酉定免御取箇書面之通候條村中大小ノ百姓入作之もの迄不殘立會無甲乙割合之來る極月十日限急度可令皆濟者也

嘉永二酉年十月

吉田條太郎

右村

名主

組頭

惣百姓

同三年四月、酒井氏用度給セス、左澤領内ニ諭告シテ献金セシム。

口達之趣意

御意之趣被 仰出候通兼而御勝手向御不如意之處近來御物入打續於江戸表ニ馬喰町

芝上野駿府熊野等之御備金御借入、其外所々御才覺被遊候而、漸是迄御取凌被遊候得共、何分高利之御金筋故、此儘被差置候而者、御公務ハ勿論、御家人御扶助、并御領民御救等迄、忽御差支ニ被爲至候儀ニ付、深々上々様方御膝元ハ、嚴重御省略被仰候得共、何分御行届無之ニ付、此度御本家様江御頼、并本間外衛江是迄御不儀理被成置候處、尙又厚御頼ミ入ニ相成就而ハ、御領分爲差成内之者江多分之上、金被仰付候得共、御行届無之ニ付、一統迷惑之義ハ甚御氣毒ニ思召候得共、無御餘儀、上金被仰付候條、面々情力を尽し、致上金候得ハ、何様ニ歎、御仕法も相立、無此上も御安堵思召候事故、此段深奉恐察、被仰付候通一同相勵可申候。

嘉永三年戊四月。

同年某月、沼山村、百姓代、鈴木金藏、私財ヲ投シテ、堤塘ヲ起シ、大沼ノ流末ニ貯水シ、以テ葦沼田ノ灌漑ニ資ス、是ヨリ墾田頗ル多シ、後人碑ヲ建テ其功ヲ表彰ス。

嘉永三年、君投私財、築堤大沼、後世頼其利、茲建碑表彰其功。

同年某月、北谷地吉田村小役ヲ調査ス、以テ當村村費ノ概ヲ視ルヘシ。

一米百拾五俵貳斗八升七合九勺、小役米取立

右ハ分米高壹石ニ付三升三合三才ツ。

但御料入作米歩相除キ、

内譯、

米貳拾俵、

庄屋給米分、

米貳拾六俵、

組頭四人、藏方壹人、

米拾五俵、

筆取給、

米四俵、

出作掛、諸役取付給、

米七俵、

諸役方へ、小役米用捨、

米壹俵貳斗、

下組頭貳人、給米ノ部、

米四俵、

升取給米分、

米拾貳俵、

小走給米分、

米三斗貳升九合、

割元料、

米壹俵、

郷宿料、

米壹俵、

葉山大田院風祭神、

米壹俵、

同院方へ堀切堰米ノ分、

米壹俵、

和光院方へ柴燈、

米壹俵、

本覺院方へ右同斷、

米貳俵

堤給米分

米六斗

松橋 堰代給分

米三俵

貧窮者へ救米ノ分

百俵壹斗八升九合

引殘拾俵貳斗九升八合九夕

郷藏取立中飯米等

同年十二月、幕府攝津國多田院ニ、三ヶ年ヲ期シ、大和國以下二十ヶ國ニ勸募シ、堂社并ニ神佛器ヲ修理スルコトヲ許可シ、代官地頭ヲシテ之ヲ徵集セシム。

攝州多田院

大和、河内、和泉、攝津、伊勢、武藏、下総、常陸、近江、美濃、上野、陸奥、出羽、

加賀、越前、越後、播磨、筑前、肥後、肥前。

右諸堂社、神佛器等、及大破候ニ付、修覆爲助成、右貳拾ヶ國、并京大坂御府内、武家方万石以上以下家中迄、且町中共、當成年々來丑年迄、中年三ヶ年之間、勸化御免被成下候、信仰之輩者物之多少ニよらば、可致寄進候、御領ハ御代官奉行有之處ハ其奉行支配有之面々ニハ其支配、私領ハ領主地頭、寺社ハ向寄御代官、領主地頭江勸化相集、向々々來ル、丑年十一月迄、本多中務大輔方江可差出もの也。

戌 十一月。

同四年二月、寒河江領代官、吉田條太郎、五人組帳ヲ頒布シ、請書ヲ徵ス。

羽州村山郡、留場村、御仕置五人組帳。

條々。

- 一 前々被 仰出候、御法度之趣、堅相守、若違背之輩於有之者、曲事可申付事。
- 一 一切支丹宗之儀、毎年改メノ帳面ニ記、寺判届可差出候、若紛敷宗旨之者有之心、早速可申出候、脇より令露顯ハ、其村の名主五人組迄、曲事可申付事。
- 一 御高札、古成候ハ、御役所江申上可立替事。
- 一 附宗旨改ノ節、用事ニテ致他行候ハ、前方ニ相斷リ、呼戻相改請判可取之事。
- 一 贖金銀遣候者有之心、曲事可申付、若贖金銀拵候有之を知りながら、隱置候ハ、後日ニ相知れ候共、當人可爲同前事。
- 一 従前々被仰渡候通、毒藥賣買之儀、御制禁之條於相背ハ、可被行重科事。
- 一 人賣買御法度之條、堅可相守候、奉公人の儀、拾ヶ年可限、相對を以慥成請人取之、可召抱事。
- 一 牛馬賣買之儀候者、諸々相改可求之、不審成牛馬一切賣買、仕間敷候事。
- 一 田畑永代賣買一切仕間敷候、令違背者、双方可爲曲事、并田畑年季定質物願候之、名主組頭

- 一 爲致加判、證文取可申候。
- 一 但拾ヶ年限、永年季ニ入申間敷候事。
- 一 堤川除井堰、以樋水門等、普請之儀ハ、例年之格を以て、名主組頭致吟味帳面ニ記可差出惣て人足諸入用費無之様可仕事。
- 一 用水之儀ハ、先規之通可引之、旱魃之年たりとも定め外猥リニ不可引之、他村より入組之井堰、及渴水者、不致諍論、前々ニ可申出候、尤理不盡ニ、墟切申間敷候、水論境論之節、刀脇指弓鏹を持出事可爲無用、若違背之者有之者、詮議之上曲事可申付事。
- 一 附何事ニよらず、諍論之節、加勢仕間敷事。
- 一 川筋之村々、大水出候節、井溝堀道を狭め、田畑仕出し申間敷候事。
- 一 御普請人足、扶持方駄賃等、其外從公儀被下置候品々、當坐之百姓ニ割渡、證文取置可申候、惣而縁合勘定仕間敷事。
- 一 御公儀御用之儀ハ、不及申、往來之旅人、人馬入用之節、不限晝夜ニ、無遲滯差出、御定之通賃錢可請取事。
- 一 附御用之廻狀、無滯先々江、急度相届可請取事。
- 一 新地之寺社造る間敷候、并新規之祭禮市町取立申間敷候、古來より有來ノ祭禮なりとも、隨分輕執行可申事。

一 御公儀御用之掛物、并ニ年中村入用割賦帳面ニ記、印形取置、重而出入無之様可致、惣而費成掛物仕間敷候事。

一 父母に孝をつくし、朋友ハ老たるを敬ひ、物毎頼母敷、正路ニ相交ルヘク、老而子なく、幼少ニて親に離れ、或ハ夫に離れ、或ハ長煩ひ、抱いたし、無據身上衰ひ難立者有之者、一類共ト不及申、名主五人組迄心を合力を添可申候事。

一 前々より郷中ニ有來水吞坏病氣片輪者等有之、渡世難成候は、憐を加ひ、相應之稼相務候様、可申付事。

一 跡式ノ儀、老若によらず、病中ニ書付いたし、其趣名主五人組迄相達、加判取置、死後に出入無之様可仕候事。

一 附子供兄弟無之候ハ、親類并名主立會相談の上、由緒有之者に、跡式一ツ相讓事。
 一 幼少にて、親に離れ、當分百姓難勤者有之は、名主組頭共立會、相談の上、近き親類養育いたし、田畑家財の儀は、親類并ニ名主立會相談、預り證文取之、致成人候節は、無相違相返し、百姓爲勤候様可仕事。

一 何事によらず、徒黨ヶ間敷儀、一切仕間敷候、若他様之人有之は、早速可致注進候事。
 一 博奕并賭之諸勝負、一切仕間敷候、若他所のものを集、宿仕候者有之ハ、當人は不及申、名主五人組迄、急度可申付事。

- 一 郷中遊女之類、一切差置申間敷候、自然奉公人、又は商賣物に事寄、右之類指置候者有之、當人は勿論、名主五人組迄可爲曲事。
- 一 行衛不明者、途中にて相果候は、死骸改番を附置、早速注進可仕候事。
- 一 附村中に、自滅之者有之ば、早々名主に爲相知、役所に可注進事。
- 一 怪敷者ニ、一夜之宿茂申間敷候、往還之旅人タリとも、名主五人組に相斷り、吟味之上宿貸可申候、縦令親類ニ候共、逗留いたし候ハ、可爲同前事。
- 一 遠國江順禮、其ノ他物詣可爲無用、然共無據子細有之者、役所江訴可請差圖事。
- 一 附村々より、公事出入は不及申、何ニ而茂有之、江戸江罷出候ハ、役所訴之役人、添狀ヲ以テ可罷出、若無斷罷出候ハ、可爲越度事。
- 一 一村中百姓共、名主組頭江無斷、他所逗留モヘからさる事。
- 一 他所より來候浪人、村中ニ差置申間敷候、若無據由緒有之心、其身慥成るものニ候ハ、役所江相達、得下知可差置事。
- 一 一人請之儀、猥ニ立申間敷候、近き親類、或出生能存知、慥成者ニ候ハ、名主五人組ヘ斷り、請ニ立可申候、自然人請之儀ニ付、出入有之者、名主五人組早速立會可申候、勿論親類タリトモ、一切圍置申間敷候事。
- 一 喧嘩口論有之節者、其場ニ立合候者共、取扱可鎮之、外ハ猥ニ不可馳集、早速役所江可及注進事。

進事。

附他所來候、手負之儀ハ不及申、郷中ニテ怪我杯いたし疵付者有之者、申出帳付可申事。

- 一 勸進能、相撲、歌舞妓、其外何ニ而茂、芝居一切停止之事。
- 一 質物ニ取候ハ、何品にても、請人を立可申候、請人無之候、質物取候ハ、可爲曲事、出所不知質物何方より參り候共、取次申間敷候事。
- 一 謀書謀判之輩、有之候者、可爲嚴科、執筆之者可爲同前事。
- 一 印形之儀、自分ニ替申間敷候、若替候ハ、名主役所江相達、小百姓者、名主組頭江斷可申事。
- 一 衣類之儀ハ、前々御條目之通相守、分限ニ不應、衣類着用モヘからさる事。
- 一 娯取之儀ハ、身体相應之者取組、少茂奢たる儀不致、惣而輕可致、家作之儀、猶以分限不相應成儀ハ、致間敷候、祝言振舞ニテ茂、一汁三菜不可過、御年貢割付出候ハ、免割相違無之様入念、所々度々名主方より請取手形出し、勿論帳面ニ記、銘々印形取置、常々不吟味ニテ、手形無之出入、後日申出間敷事。
- 一 檢見其外御用ニ付、役人郷村ニ相廻リ候節、飯鹽味噌野菜薪等調候ハ、所相場ニ賣上可申事。
- 一 五人組之儀、町者家並ニ、在々者勿論寄次第、地借店借五軒宛組合之子共、下々ニ至迄、諸事

惡事無之様可致、自然不吟味、惡事出來候と、詮議之上、組中越度可申付事。

一役場申渡候、御用書物、帳面、入念無遲滯可差出事。
一御料所、國々百姓共、御取箇夫食種貸等、其外願の筋之儀ニ付、強訴徒黨逃散候儀ハ、堅停止ニ候処、近來御料所の内ニテ茂、右体之筋につき、御代官所陣屋江大勢相集、訴訟致候儀も有之、不届至極ニ付、自今以後嚴敷吟味之上、罪科可被行候條、先達而板ニ書付相渡置候、御書付之趣、百姓平日可相守事。

右被仰出候、四十六ヶ條之趣、村々寫置、惣百姓水吞等迄、度々爲讀聞、堅相守違背仕間敷候、爲其連印帳面奉差上候、以上。

嘉永四亥年二月。

小前五人組、

三郎右衛門。

同年五月、森田岡太郎代官ニ任シ、尋テ白石吉郎之二代ル。

同年六月十三日、酒井忠良奏者番ニ任ス。

六月十二日、御老中御運名之依、御奉書、翌十三日、殿様御登城被爲遊候處、於御坐之間、御奏者番被爲蒙候段、松山表ハ六月廿八日申來候間、其段承知可有之候、以上。

御代官

花山 總藏。

嘉永四年七月。

一紙方

多田廣三郎。

同五年五月、松永善之助、白石吉郎二代リテ、代官ニ任ス。

同年十一月、幕府万年青賣買、并ニ女子ノ服粧、及ヒ食物ニ奢侈ヲ致スコトヲ禁止ス。

同六年六月、天大ニ旱ス、左澤領大庄屋連署シテ、雲祭ヲ左澤實相院ニ施行セシメラ
レンコトヲ請フ。

當年時候之義、春中ハ不順ニ御坐候故、甚心配罷在候處、四月上旬ハ一向良雨無之、村柄ニ寄田水不足いたし候間、溜井不殘相拂、無油斷五月上旬ハ、同月下旬迄植付候得共、場所寄無田出來候、御届申上置候、四月上旬ハ、當時迄九七十日程之間、一時之潤雨無之、照續ニ御坐候處出水留り、堰、水細ク相成、田面水旱ニ付、晝夜水引精々仕候得共、大旱故、取續兼、天水相祈候外無之、村々鎮守神社大川筋ニ而、雨乞仕候得共、一向驗も無之、倍々照込村柄ニ寄、井水盡果、日々食事之用水も難澁仕候、大旱魃ニ付、畑物ハ生立之儘ニ而、引立不申、絶作同様ニ相見得、御收納第一之産物、青苧ハ皆違ニ相成、此上降雨有之とも時節後ニ而、立直リ

申間敷田方ハ追々白割ニ相成、蕎麥大根迄蒔付可申手段無之、小前一同只々茫然ニ而相
歎、此上如何成行候哉、私共ニたゐても、心痛仕候、乍去此節良雨有之候得ハ、田方可成ニ立
直可申候間、享和文化之度、左澤於實相院ニ、雨乞御祈禱有之候、御例も相見候間、何卒以
御慈悲、急段同院へ被 仰付、被下置候様、奉願上候、此上田畑作物之義、追々取調可申上候、
右願之通被仰付被下置候ハ、廣大難有仕合ニ奉存候、以上。

嘉永六丑年六月十九日、

高橋仁平次。

佐藤仙次郎。

長岡權三郎。

阿部傳四郎。

大泉次郎右衛門。

鈴木與一郎。

鈴木総三郎。

鈴木多藏。

御代官所。

嘉永六年四月二日、天ニ〇〇天道様之脇ニ如斯之ニあらはれ、ふしきニ心得居、又四月十八
日ニ至りひかり物、最上郡中大造成たといたし、南ハ北へ飛來、是ふしきニ思居候處、其年

百年ニも無之、大旱魃ニ有之、是全ひてり之印相見得、所々ニ而雨乞有之、月布ニ而ハ貫見
月布兩村境、大江廣元公之どか所江登り、雨乞いたし候處、すゝりらハ火もれ候義、與相見
得、十日計もい立チ居、貫見分江も多分もい去り候ニ付、貫見村ハ斷を得、すてハ柴橋御役
所表之御沙汰ニも可相成所、内濟ニ相濟申候。

嘉永六年、丑六月、大旱魃ニ付、田方旱割何共困入候ニ付、五月廿八日、曾我之雨相待候得共、
曾我之雨も無之、世間之風聞ニハ、五月節句ニまんかき候者有之、五月あゝ之さるニ、女共
はたたり候者有之候ニ付、雨ふり不申候哉、たたりまんかきの送物いたし候様、百姓共
申出候ニ付、右之送物もいたし見候得共、少々雨も無之、畑物ハ能々立りれニ而、青苧ハ
よふく、壹尺四五寸位ハ、外相成不申候。

同年同月、北亞米利加合衆國、水師提督ヘルリ軍艦四隻ヲ率テ、浦賀ニ入り、國書ヲ呈
ス、幕府明年之ニ答ンコトヲ約ス、是レ近古外國通交ノ濫觴トナス。
同年七月二十一日將軍德川家慶薨ス。

公方様御不例之處、不被爲叶御養生、七月廿二日己下刻、薨御之旨被 仰出候ニ付、諸事相
慎、高聲等不致、火之元別而入念可申候、心得方之儀尙又可申達候。

丑八月二日。

同年九月、酒井氏郡代小泉五郎兵衛、代官鈴木圓右衛門等ヲ派シ、左澤旱損地ヲ檢セシム、檢スルニ先タチ左ノ法度ヲ頒ツ。

申達。

此度兩五百川、里分組之内、田方不熟ニ付、檢見被。仰付出郷致候間、差上高之内、地境等深、遂穿鑿置於場所相尋候節ハ、明細可申聞候、若不明之申聞ニ而、取包候次第有之候ハ、地主ハ不及申役人たる者、可爲越度候。

一兼而書出差上高、丁反畝歩、吟味いたし、無相違書出候様、村役人共江可申付候、銘々持主地面之高下、痛之大小、評議之上、巨細ニ位付いたし、其坪々江小札差出し置、勿論他之坪々江相紛不申様、持主地境江細見相立置可申候、尤附上帳江も、前段之位付相印、其日見分之場所ハ、取調所被差出可申候、小札認方左之。

一高何反何畝、稻草何程、何村某、

又ハ何東蒔、極痛、中痛、小痛、位付可申候。

一檢見先ニ而、田主直々作之違を口説、或ハ引ケ相願イ、其外何等之義ニも不限、訴訟ケ間敷義ハ勿論、都而法外之義無之様、急度可申付候。

一檢見之節、村役人共罷出、田主ハ自分々之坪々江扣居、案内可致候、是迄檢見之折、田主ハ

勿論立札等無之坪ニも相見得、甚不埒之事ニ候、此度ハ立札等無之田方ハ、除ニいたし候間、心得違無之様、急度可申付候、其外無用之人數、差出申聞敷候。

一宿之義者、手狭之處ハ格別、一ト宿ニ而も不苦候、尤時節柄、百姓之取仕舞、專要ニ候間、手分いたし、檢見被。仰付候ニ付、早朝ハ出先ニ而候間、賄等手間取不申様可致候。

一宿之義、障子疊等手入ニ不及、有來之儘ニ而、不苦候、都而雜費相掛ケ不申様、可申付候。

一賄之義者、有合之野菜を以、一汁一菜ニ而相賄、酒菓子一切無用、魚類相調馳走ケ間敷義、いたし申聞敷候。

但召連候者江も、嚴重申付候得共、若村方江對しねたれケ間敷、又ハ非分之義等申候ハ、早速可申聞様、是又急度可申付置事。

右之通、逸々得其意、小百姓ニ至迄爲申聞、急度相守り、心得違無之様可申付候、尤承知之上、村名下江令受印形、早々巡達留カ左澤陣屋江可致返却候。

嘉永六丑九月朔日、

本郷北郷右組々大庄屋中。

役所。

同年十月、左澤領旱損夥大、人民頗ル困厄ス、因テ三ケ年間大儉ヲ施行セントシ、取締儀定書ヲ各大庄屋ノ宅ニ揭示シ、以テ之ヲ遵守セシム、其書左ノ如シ。

取締儀定之事。

當丑年希代之大旱魃ニ付、田畑諸作物皆違、一同難澁之年柄ニ相成候間、從御上茂多分之御救米、御貸付被下置候得共、來春ノ秋中迄、夫食差支眼前ニ相見候ニ付、從御役所も、夫々儉約道御觸有之候ニ付、猶又集會之上、三ヶ年大儉相用、難澁爲相凌申度、取締向、左之通致義定候。

一町在大小之百姓商人共、粥糧無油斷相用、成丈夫食米相延候様、可心掛事。

一村々之飯米、餘分有之者ハ、不依多少、村内極窮者江賣拂、爲相凌可申事。

一大庄屋役宅江、年頭歲暮仕來候分も、三ヶ年之間相止可申事。

一村々引酒屋、一切差止候事。

一有來諸振舞、一切差止候事。

一佛事ニハ、菩提寺之外、相招申間敷事。

但父母兄弟之法事ニ、他家江參居候子弟、佛參計可致事。

一仁王經日待致候ハ、修驗壹人計、相招可申事。

一不幸之節、不依貧福、酒飯出し申間敷持弁當ニ而手傳可致事。

一婚禮之節者、嫁媒人、先方親兄弟計振舞致、家内切ニ手輕相整可申事。

但前々被仰出候通、絹布類着用、決而不相成候。

一親類懇意之間ニ而、年始歲暮取遣致來候分、三ヶ年相止可申事。

一神事祭禮たりとも、手輕相營、無益之入用相掛申間敷事。

一寺院其外、年禮錢持參致候分、三ヶ年相止可申事。

但布施物、初尾師匠江之禮物、藥禮等ハ、仕來之通可致事。

一御免勸化たりとも、御觸無之分ハ、助情相斷可申事。

一來寅年より、三ヶ年之間、伊勢參宮、其外他國他領神佛參詣差止事。

一是迄例年相廻し候、寺院配札初尾等、三ヶ年必止與相斷可申事。

一山形行藏院、勢至別當龍藏院配札、葉山稻荷社初尾、青草勸化相斷可申事。

一鳥海山、安養坊華藏院配札。

一鹿島香取津島配札。

一湯殿山先達共配札。

但此外諸勸化三ヶ年相斷可申事、若寺院社人等不案内ニて參候ハ、入口之所ニ而此段申間、相返可申事。

一伊勢御萩初尾者、例年之通相納可申事。

一浪士、船頭、金堀止宿ハ、不申及、壹錢合力不相成、ねたり候か、又ハ不法申間候ハ、村々若者共早速打寄、追拂可申候、躰ニより取たさへ候而、可申出事。

一火盜之用心嚴重可相心得事、
一町在組合一同睦敷申談、農商之家業相勤、相續方無油斷、相勵可申事。
右條々町在小前一同江申達、御上之御苦勞薄ニ相成候様、取扱致度候、此段相背候、小前有之候ハ、他支配ニ候とも、見當次第取押、其扱元江相斷、取締相成候様可申付候、依而儀定書如件。

嘉永六丑年十月、

- 鈴木多藏
- 鈴木総三郎
- 鈴木與一郎
- 大泉次郎右衛門
- 阿部傳五郎
- 長岡權三郎
- 佐竹千次郎
- 高橋仁兵衛

右義定書銘々壹枚ツ、大庄屋江張付置ク。

同年同月、酒井忠良海岸防禦用金ヲ領内ニ課シ、十一月ヲ期トシ之ヲ上納セシム。

覺。

一金拾五兩永廿八匁五步壹厘、

本郷組。

右者、此度海岸防禦御武備之儀、嚴重被 仰出有之ニ付、御用意 御用金被 仰付候間、御割合當十一月中、御取立上納可被成候、以上。

十月十三日、

御手代。

大庄屋中。

同年十一月、徳川家定將軍宣下。

同年同月、左澤領新酒醸造ヲ禁止シ、寒釀ハ二步減トナス。

當年稀成早魃ニ付、他領穀留ニ相成、來春ニ至リ夫食差支、難澁いたし候事眼前之儀ニ付、新酒皆差留メ、寒造ハ貳步ヘリ可致酒造候、右之外万一隠造者勿論、新酒致出入候者、於有之者、早々訴可申出候。
右之趣不洩様、各扱下へ可被相觸候。

丑

十月、

役所。

大庄屋中。

安政元年五月、是ヨリ前、左澤領元月布村内漁獵ヲ業トスルモノ、柴橋領貫見村堺ト、

左澤落合(川最上)中間月布村ヲ以テ漁獵場トナシ、税銀七匁五分ヲ上納ス、是ニ至リ上漆川村三太郎等、築場ヲ森之宮上流ニ設置ス、元月布村名主文作之ヲ訴へ、速ニ之ヲ撤去セシメンコトヲ請フ、柴橋陣屋吏高橋仁兵次之ヲ諾シ、命シテ之ヲ撤去セシム。

乍恐以書付奉願上候。

當村川筋之儀者、柴橋御料貫見村堺、左澤落合迄、往古ハ獵師場ニ被仰付、依而丁銀七匁五分ツ、上納仕來候處、小漆川村之内、森之宮上之方川を被築留、當村獵師之差障ニ相成候間、何卒以御威光、右築留候場所、急速取反古シ候様御掛合被下度、偏奉願上候、以上。

嘉永七

寅五月

元月布村名主

文作。

大泉次郎右衛門殿

貴墨拜見仕候、如仰向暑御坐候處、彌御健勝被成御勤役御坐、珍重御儀奉壽候、然者當扱下小漆川村三太郎儀、川筋築留御扱下御運上場へ差障ニ相成、御迷惑筋ニ而、御扱下之者共願出之趣被仰越承知仕、當人呼出相糺候處、全御運上場與ハ不存、築留いたし候由、右場所取ほこさせ申候、己來御運上場ニ、差障ニ不相成様申達候間、左様御承引可被下候、右貴報申上度、如此御坐候、以上。

六月三日

高橋仁平次

大泉次郎右衛門様

同年六月、幕府大沼大行院ノ請ヲ允シ、三ケ年ヲ期シ、出羽一國ヲ勸化シ、稻荷社ヲ修理セシム。

羽州村山郡大沼山、

稻荷別當、

大行院、

右大沼山稻荷本社、其外御祈禱所等、修覆爲助成、出羽一國勸化御免、寺社奉行連印之勸化狀持參、大行院役僧、寅四月、來己三月迄、御料私領寺社領、在町可致巡行候間、志之輩者、物之多少ニよらば、可致寄進旨、御料者御代官、私領者領主地頭、可被申渡候。右之趣、公儀被仰出候段、松山表、申來候間、各扱寺社江不洩様、可被相觸候。

嘉永七寅年六月

役所(左澤)

同年十二月、戸澤正實、北谷地吉田村組頭、後藤久次郎ノ納租精勤ヲ賞シ、扇子ヲ與フ。

吉田村、

御扇子、

組頭、久次郎。

其方事諸上納もの出精相勤候、爲御褒美被成下候、以上。

安政元寅十二月。

同二年十月二日、江戸地大ニ震ス、酒井氏ノ邸頗ル破壊ス、因テ用金ヲ領内ニ課ス、有志者更ニ金ヲ献シ、以テ修理ノ資ニ充ツ。

乍恐以書付奉願候。

一金貳兩、

右者江戸表大地震ニ付、御屋敷 御殿向、其外御長屋、多分被爲及御破損候付、御普請御入用金夥敷、御物入之御時節柄被爲至此度當御領内江、夫々御用金御頼被 仰出、誠以奉恐入候、依之奉願も恐多奉存候得共、御時節柄奉恐察、爲冥加書面之通り、卯辰兩年寸志上納仕度奉願候、不苦御儀も御坐候ハ、此段何分宜御申上被下度頼入存候、以上。

安政二卯年十一月、

大泉次郎右衛門。

三浦正藏殿。

同三年某月、幕府東根附、及ヒ柴橋領宮内村以下十一ヶ村ヲ割キテ、松前崇廣ニ給ス、是ヨリ宮内村以下東根陣屋ノ所轄ニ歸シ、新ニ久ノ本村以下十四箇村ヲ寒河江領ニ

附ス。

松前領村高。

- 一 高九拾壹石八斗四升四合、
- 一 高百九拾六石四斗貳升六合、
- 一 高貳百五拾七石七斗六升貳合、
- 一 高三百九拾貳石六合、
- 一 高三百拾壹石五斗四升七合、
- 一 高五百三拾九石八斗九升六合、
- 一 高八百三石貳斗八升九合、
- 一 高廿貳石貳斗九升貳合、
- 一 高五百九拾八石八斗四升貳合、
- 一 高四百七拾貳石六斗四合、
- 一 高廿九石貳斗貳合、
- 合 高三千七百拾五石七斗壹升三合、

寒河江領新附村高。

- 一 高六百九拾石六斗貳升九合四夕、

山内

- 宮内村
- 熊野村
- 石田村
- 柳澤村
- 網取村
- 岩根澤村
- 水澤村
- 八兵衛新田
- 沼山村
- 入間村 技共
- 兵助新田

久ノ本村、

- 一高九百八拾九石六斗壹升三合三勺、 矢ノ目村、
- 一高貳百三拾九石九升、 道滿村、
- 一高四拾四石壹斗貳升壹合五夕、 原町村、
- 一高七百八拾三石貳升五夕、 關山村、
- 一高百七拾八石貳升五合八夕、 神町村、
- 一高貳千七拾六石三升壹合貳夕、 山口村、
- 一高拾五石九斗四升九合、 大林新田、
- 一高八百七拾七石三斗八升五合六夕、 山家村、
- 一高四石七斗壹合、 同新田、
- 一高拾石九斗八升三合、 矢ノ目新田、
- 一高四百三石九斗四升三合六夕、 田麥ノ村、
- 一高四拾六石四斗五升三合七夕、 小林新田、
- 一高四石壹斗貳升四合、 原町新田、
- 六千三百四拾四石九斗四升壹合六夕、

同年七月、松前崇廣、水澤村百姓、片倉專藏並ニ妻ふく其父ヲ孝養セルヲ褒美シ、父清吉ニ金三百疋、專藏ニ一代一人扶持、妻ふくニ縞紬一反ヲ賞賜ス。

同四年八月、代官松永善之助、寒河江川ヲ改浚ス。

一己八月石川大ふしん、此時御代官松永善之助様手代山崎甚之助。

按、三泉村誌料ニ、弘化四年寒河江川改修ノコトヲ記ス、蓋シ本年ノ誤リナラン。

同年同月二十七日、代官松永善之助、將軍德川家定ノ朱印ヲ各寺社ニ交付ス。

一家定公、安政二年九月十一日御朱印、同四己年八月廿七日、於寒河江御料、御代官松永善之助殿ヨリ御朱印御渡シ頂戴仕候。

- 三ヶ院分、
- 善竹坊、
- 梅本坊、

同年十二月酒井忠良節儉ノ令ヲ領内ニ頒布ス。

御勘定組江、

一衣服其身妻子共、木綿ニ限りて着用、乍去御供加人、并御徒使等相勤候節計、絹紬太織類着用不苦、其餘ハ堅無用之事。

但夏物絹類無用麻布ニ可限事。

一羽織大綿之類、夏ハ麻布之類相用可申、尤黒ハ衣服共堅無用之事。

但打裂羽織者、旅行共不相成事。

一肩衣者、夏冬共上下之肩相用、袴ハ棧留小倉木綿之類相用可申候、唐棧ケンチウ等、総而高價之品可爲無用、衣服も同斷之事。

但夏者麻○織、小倉木綿之類ハ可爲勝手次第之事。

一合羽襟袖口共、毛類不相成、木綿之外用ヒ申間敷候事。

一鼻紙袋、たもこ入させる之類、金銀金物ハ勿論、目立候品、堅ク無用之事。

但妻子髮飾され類、并ニ鼈甲、或ハ金銀之細工有之分、堅停止之事。

一筭筆武藝相勵、勤道無懈怠、子弟共作法風俗不取乱、忠孝を心掛ケ、萬事質素ニ可致事。

一蛇之目傘、革緒塗下駄、足駄不相成事。

一家督婚姻、其外差立候祝義ニ而も、輕品一汁一菜、酒肴一種ニ限り、近親類之外相招申間敷事。

一切振舞ケ間敷義、致間敷候事。

一法事ハ格別之事候得共、輕キ品一汁一菜ニ限り可申事。

一平日懇友參會ニも、飲食專ニして、或ハ出し合呑喰等いたし、或ハ淨瑠璃三味線等、風俗を取乱し候類、翫候儀、兼而有之間敷儀ニ候得共、猶亦相互ニ勵合、右等ニ流不申候様、相慎可

申候。

一儉約を取用ひ候上て、鄙劣と申ニ相成、又ハ恩儀深切をも取失ひニ至候而者、相濟不申儀、各心得有之事ニ候得共、猶亦右等之失ニ陥り不申候様、心掛可申候。

一御取縮筋、向々之障り申立候得共、何程も申出方可有之候得共、御時節柄奉恐察、何様ニか御間合候様ニ而、誠ニ實ニ心掛ケ候得共、大抵之儀ハ不障御間合候者ニ而、専ら取扱人之忠否ニ依り候儀、斯御取縮御仕法立無之候而者、忽御公務ニも御差障、御家人御扶助も難被遊ニ、被爲至候間、能々相心得、御仕法相立候様、一同可致忠勤、右ハ是迄度々被仰出有之候得共、兎角其時限り候而、程至り候得ハ相弛候趣ニ相聞候ニ付、猶亦今度嚴重被仰出候條、堅ク相守可申候、若相背候もの於有之者、御糺之上急度可被及御沙汰候間、心得違無之候様、相慎可申候。

已 十二月、

左澤

大庄屋

御手代

口目付

口掛リ

一同へ。

此度之儀者、上下一致之御取縮被。仰出候得共、此度何分相弁被。仰出を堅相守り候様、可致事、近來江戸ニ而も、一同難澁之事ニ相聞ひ申候、全く違作相續之儀ニも可有之哉も候得共、一躰近來之弊風、饗住奢侈之費ニて、旁以衰弱いたし候様ニも相聞ひ候間、今度御達之儀、能々相心得、惡風俗相改、農業出情可致様、每村江可申諭、若心得違之者有之、自分勝手之儀申觸、人民之氣前風俗を妨候もの有之、申ヲ不用もの有之者、急度咎可申付候間、早速可申出、若於不申出ハ、大庄屋可爲越度候、此段大庄屋ハ勿論、御手代口目付、其外口掛りも可心得候。

一爲御用出郷之節、賄等之儀ハ被。仰出候通り急度相守り可申候。

一御普請御入用之儀ハ、相成丈人足相減し、且村雜用等相掛ケ不申様可致候。

右之趣、今度目付役江嚴重申達置候間、猶亦支配下江も能々可申諭候。

安政四己年十二月。

同五年四月、彦根城主井伊直弼大老ニ任ス。

同年五月、林伊太郎柴橋代官ニ任ス、所謂鶴梁先生ナリ。

同年八月八日、將軍徳川家定薨ス、養子家茂嗣ク甫テ十三歳。

公方様薨御ニ付、當月八日ハ、宰相様定式之御忌服被爲請候、依之普請鳴物御停止被。

仰出候間諸事相慎、火之元別而入念可申候、右之趣 公儀被 仰出候段、松山表ハ申來候間、右扱下不洩様可被相觸候。

午 八月廿日、

役 所。

同年九月、虎列刺病流行シ、人多ク倒サル、幕府豫防并ニ治療法ヲ頒布ス。

此節流行之暴瀉病ハ、其療治りたある趣候得共、其中素人可心得法を示す、預らかしめ是を防クニハ、都而身を冷す事ホク、腹ニハ木綿を巻、大酒大食を慎、其外こなれ難き食物を一切給申間敷候、若此症催し候ハ、早く寢床ニ入テ、飲食を慎、総身を温メ、左ニ記す芳香散トイふ藥を用ゆヘシ、是而已ニテ治する者少ありらば、且又吐瀉甚しく、総身冷る程ニ至り候ハ、燒酎壹貳合の中ニ龍腦、又ハ樟腦壹貳匁入、爾た、め木綿の切ニひたし、腹并手足江靜ニまじり込ミ、芥子泥を心下腹并手足ニ半時位ツ、度々張るゑし。

芳香散

上品

桂枝 細末、

益智 同等分、

乾姜 細末、

右調合致し、時々壹貳分ツ、時々用ゆへし。

芥子泥、

からし粉、當分、

温飽粉、

右あつき醋にて堅くねり、木綿切ニのこし張候事、但間合たる時ハあつき湯にて、芥子粉はかりよてもよろし。

又法、

あつき茶よ、其三分一焼酎を和し、砂糖を少加へ用ゆへし、但坐敷を閉、布木綿等よ焼酎をひたし頻ニ総身をこするへし

但手足の先キ并腹冷へる所を温鉄又ハ温石を布ニ包ミ湯を遣ひたる如キ心持ニなる程こするも又よし。

右者此節、流行病甚敷諸人難儀いたし候ニ付、害あき薬法、諸人爲心得無急度相達候事。

午
九月。

同年十二月、徳川家茂將軍宣下。

同六年四月、稻葉武兵衛左澤領代官命セラレ。

此度阿部專八代、稻葉武兵衛左澤御代官被仰付候趣、松山表へ申來候間、其段各承知可有之候。

未
四月、

総大庄屋中。

役所。

同年五月、幕府將ニ寺社領朱印ヲ改附セントシ、九月ヨリ十一月ヲ期トシ、之ヲ江戸ニ持參セシム。

覺。

一御朱印頂戴之寺社之輩、不依寺社領之多少ニ、境内計之雖爲御朱印、於令所持者、御朱印可被下之、御料私領ニ有之、寺社領之分御朱印ニ寫を差添、當未九月ハ十一月迄之内、江戸表へ致持參、松平右京亮、松平市正所江相達候様、可被相觸候、以上。

未
五月。

同年同月、幕府通商ヲ魯西亞、佛蘭西、英吉利、阿蘭陀、亞米利加五ヶ國ニ許可シ、六月以降、神奈川、長崎、箱館、三港ニ於テ、諸商人自由賣買ノコトヲ許可ス。

魯西亞、佛蘭西、英吉利、阿蘭陀、亞米利加五ヶ國交易御差許相成候間、當未六月ハ、神奈川長

崎箱館於三湊商人共勝手ニ可遂商買候右之品賣捌候者勿論居留之外國人共見世賣之品諸人買取候儀も是又可爲勝手次第候。右之趣御料私料寺社領共不洩様可觸知もの也。

未
五月。

同年十月酒井忠良用度支へズ、郡代加藤伴藏ヲ左澤ニ遣ハシ、領民ニ諭シテ、十ヶ年ヲ期シ、用金ヲ課出セシム。

未十一月九日、御郡代加藤伴藏様御發足之上、被仰渡候。

御勝手向必至與御差支相成候ニ付、精々取調被仰付候處從 御先代様無之、御高借被爲至、此儘被差置候而ハ、御公務を始、御家人御扶助も、難被爲成候程之御時躰ニ相成、恐入候儀ニ付、何分御凌方無之ニ付、御本家様并本間外衛々多分之御借用相成候得共、御行立無之ニ付、総御家人江も難澁之處、又々多分之増上、被 仰付候得共、中々御行立不申候、三御領分(松山左澤上州)之儀者、近年數度上金被 仰付、殊ニ不融通之折柄、一同相疲候様ニも相聞ひ候得共、前條之通無餘儀次第ニ付、此度多分之上金不被 仰付候而ハ、逆も御仕法難相立ニ付、深御氣之毒ニハ、思召候得共、何様ニも被爲成方、無之、不得止事、當年々十ヶ年別紙割合之通、上金被 仰付候、此度之義者、不容易御事ニ付、別段之義與相心得、幾重ニも

盡粉骨精々いたし被 仰付候通、御用相勤御仕法相立候ハ、殿様ニも無此上、御滿悅被爲在候條、一統御時休深奉恐察、相勵可被致上納候。

未
十月。

未年々辰年迄十ヶ年上金。

一金百兩。

上郷組(以下出金割省略)

同年十二月、幕府小鍊錢ヲ鑄造シ、將ニ小銅錢拾貫文ヲ以テ、小鍊錢拾五貫文ニ交換セントス、柴橋領代官ニ命シ、公私領通融ノ銅錢額ヲ豫算計上セシム。

此度鉄錢御吹立ニ相成候ニ付、銅小錢拾貫文ニ五貫文之御手當被下、御引替之義於柴橋、御料私領共御取扱ニ相成候間、右銅小錢御扱下ニ、大概何程位可有之哉、御取調兩三日中、早々御書出可相成候、大凡之處ニ而宜趣、柴橋表々申來居候間、早々御書出可被成候、以上。

未

十二月十八日、

大庄屋宛。

御一紙方、

萬延元年二月、酒井忠良、左澤領本橋上村長六妻ノ奇特ヲ褒シ、米一俵ヲ賞與ス。

一御米壹俵

本橋上村

長六女房

さめ。

右者家内多難澁之處、夫長六長病相煩候得共、諸事壹人ニ而家事取締老母仕方よろしく、其上家内睦敷相聞ひ奇特之事ニ候、依之爲 御褒美書面之通被下置候。

申

二月。

同年三月三日、大老井伊直弼登營ノ途、櫻田門外ニ刺殺セラル、所謂上巳ノ變是ナリ。

同年九月十一日、將軍德川家茂、先例ニ準シ、寺社領朱印ヲ各寺社ニ給與ス。其一

出羽國、村山郡、寒河江八幡宮領之内、楯廻り四石六斗、島村之内三拾三石九斗餘、合三拾八石五斗餘事、依當家先判之例、別當滿徳院收納不可有相違者也。

萬延元年九月十一日。

文久元年五月二十八日、浪士高輪東禪寺英國假公使館ヲ襲ヒ、英人二人ヲ傷テ而テ遁ル、諸國ニ令シテ之ヲ捕獲セシム。

當五月廿八日、夜高輪東禪寺外國人旅館江乱入いたし、不屈之仕業ニたよひ遁去候者共之内、姓名書

有賀 半彌

岡見 留次郎

前木 新八郎

森 半藏

矢澤 金之助

渡邊 剛藏

黒澤 五郎

右之者共、常州出生浪人之由ニ御聞、遁去候ニ付、怪敷体之者見受候ハ、其所ニ留置、早々御料ハ御代官、私領ハ領主地頭江申出、夫於江戶、月番町奉行江可申出候、若見聞ニたよひ候者、其段も可申出候、尤家來使者等入念可遂吟味、若隱置候儀者勿論、等閑ニいたし置、脇か相知候ハ可爲曲事もの也。

右之通可被觸候。

六月。

同年六月、幕府新庄城主戸澤正實ニ神奈川外國人旅館警固ヲ命ス。

同二年七月、酒井忠良始テ、左澤輸出ノ蠶種并巢壳一駄ニ、錢三貫六百文ヲ課稅ス。

一 蠶胤壹駄、

但、三百枚壹個四個付

一 巢売壹駄、

但、壹箇六貫目五箇ニテ
壹駄三拾貫目

右者は迄役錢御定無之所、己來他所出之分、書面之通役永上納被 仰付候間、各扱下不洩
様可相觸候、以上。

成
七月。

同年同月、酒井忠良農民ノ農業ヲ棄テ、産物商業ニ競走シ、爲ニ賣買澁滞ヲ致セルコト
ヲ憂ヒ、左澤領内産物商ヲ規定シテ、四十人トナシ鑑札ヲ附與シ且ツ商業規定ヲ設ク。

御領内諸産物者、御收納第一之助成ニ而、年増出來、萬相勵候儀ハ勿論之事ニ候、然ルニ、近
年面々家業をも打捨、新規商人共彌増、手薄之身分ニ而相場之無差別、買入候儀專ニいた
し、畑前江ハ當坐延金等取組候儀も、商先損金ハ、自然代金相滞候次第ニ至リ、難義ニたよ
ひ候者、間々有之や、相聞、畑前ニ而も、相場之違、賣徳ニ泥、身元不慥者へ、右様之取組いた
し候ハ、畢竟代金滞等有之候儀者、双方共賣買不行届故之事ニ候、依之此度御改革被 仰
出候、御領内頭立候買人共江、産物買人鑑札相渡候條、以來無鑑札之者、猥ニ賣買致間敷候、
尤中買等之者ハ、右鑑札所持人江申談、買方不正之義無之様、急度相守リ、世上相場ニ准、畑

前買人とも入念賣買可有之候。

右之趣、此度改而被 仰出候間、各扱下不漏様可被相觸候。

成
七月。

役 所。

大庄屋。

今度御改革被 仰出候、御領内諸産物、商人鑑札相渡候ニ付、心得方左之通。

一 産物商人鑑札仲間申合、直段相定申間敷事。

一 御他領ハ勿論、御領内畑前ハ買入候品物、正路ニ賣買、代金相滞間敷事。

一 手先之者、買方差出候ハ、銘々割符相渡、紛敷儀無之様取計可申、若買先不正之義有之候

ハ、萬事買元江引請、畑前江ハ聊迷惑相掛申間敷、都而正品ニ而、賣買いたし、札商ハ之儀

一切いたす間敷候事。

一 他所商人、無龜末取扱可申、且定之外非道之口錢ねたり申間敷事。

一 鑑札仲間、無謂集會いたす間敷、若無據打より候節ハ、一同陸敷猥成義無之様、急度相慎可

申事。

一 商道相休候ハ、早速鑑札相納可申事。

一 銘々買入候諸産物、拔荷等有之間敷哉ニ候得共、尙又相守、吟味いたし、御口永相進候様、相

心得可申事。

右之趣改而申達候條萬事正路ニ賣買可有之候若等閑之儀有之候ハ、鑑札引上品ニ寄吟味之上、急度答可申付候條、相心得可申事。

戊
七月、

役
所。

按、

當時鑑札所持者四拾名アリ、而テ其變更一ニナラス、今煩ヲ避ケテ採録セス。

同年九月、新見蠖藏、寒河江領代官ニ任ス。

同年同月、左澤領郡代加藤伴藏罷メ、服部六兵衛之ニ代ル。

同三年三月、將軍徳川家茂、京師ニ朝ス、實ニ寛永以來ノ盛典トナス、六月十日歸府ス。

同年同月、去歲島津久光ノ國ニ歸ルヤ、英國人ノ失禮ヲ怒リ、之ヲ途ニ斬殺セシム、是ニ至リ英國使節損害賠償ヲ幕府ニ要求ス、幕府其兵端ヲ啓カンコトヲ慮リ、酒井忠良等ニ命シ、非常ヲ警戒セシム、忠良之ヲ領内ニ布告ス。

文久三亥年三月廿九日御達書

殿様於 殿中御老中御列坐之上、井上河内守様御達之寫、此程相達候英國軍艦渡來申立

候趣實以不容易儀ニ付、素々御兵備御充實ニも無之、殊ニ御留守中之儀ニ付、還御以後、御決答可有之筈候得共、應接之次第ニ寄、速ニ開兵端候儀、無之候與も難計、自然右様之時變ニ至候時ハ、縱令御備御手薄、御勝算無之共、不得止事儀、盡死力防戦之覺悟ニ而、可之有候間、此度御旅館ハ、厚被 仰付候趣も有之候間、尙面々報國之赤心を不失様、厚心掛、忠節盡候様可被致事。

方今之形勢不容易儀ニ付、一同因循姑息ニ不流様、相心得、非常ニ臨身ヲ擲ち、忠勤を抽候様相頼。

亥
三月、

同年八月十八日、京師ノ變、三條西季知、三條實美、東久世通禧、壬生基修等七人長門ニ走ル。

同年九月、朝廷幕府ニ詔シテ、三條西季知以下ヲ捕ヘシメラル、幕府之ヲ諸國ニ布告ス。

覺。

三條西中納言、

三條中納言

東久世少將

壬生修理權大夫

四條侍從

錦小路右馬頭

澤主水正

右七人、去月十八日以來、同伴及他國候段、不憚朝威、甚如何被思召、被止官位候、和州五條一揆之中山如ク、何方江手寄、偽名を唱、諸人を恐惑致候とも難計候、何方へ罷越偽名を唱候共、無斟酌取押可有之、御沙汰候事。

但若乱暴ク間敷有之候ハ、臨機之所置召捕可有之事。

右之趣京都ハ被仰出候間、此段万石以上己下之面々江、不漏様可被相觸候事。

九月。

編年西村山郡史卷之七終

編年西村山郡史卷之八

郡史編纂委員共編

元治元年三月、三宅鑿作寒河江領代官ニ任ス。

同年四月、幕府田畝ニ桑樹ヲ栽植シ、養蠶ヲ專業トスルコトヲ禁ス。

大目附江。

近年田方江桑植付候者多有之哉ニ相聞、以之外之事ニ候、五穀を廢シ、蠶を專ニいたし候而者、不可然候、間地江植付候ハ當然之儀ニ候得共、田方ハ勿論、畑方等江新規ニ桑植付候儀者、決而不相成事。

右之趣御料者御代官、私領者領主地頭ハ不洩様可被相觸候。

同年五月、幕府神奈川開港以來諸物價騰貴セルヲ以テ、之ヲ低下センコトヲ命令ス。

神奈川開港以來、外國人相望候品者、無謂相場耀上ケ、競而貿易致、自然日用之諸品迄一般高直ニ相成候間、今度諸色直下ケ之儀被仰出候事ニ候、然ル所右体之次第故、一ト通高

直ニ相成候迄ニも無之、御國內日用之諸色拂底ニ相成就中生糸繰綿茶之儀ハ、外國人買進候ニ付、格外高價ニ賣捌、生糸茶等ニ到候而ハ、最初ヨリ外國人好ニ應シ候様仕立方ニ致シ候ハ、御國地之遺料不足相成、一同難儀致シ候趣ニ相聞ヒ、以之外之事ニ候、向後直段之儀者、前々之相場ニ基キ引下、製法之儀者、何國ニ不寄、仕來之通り相製、御國地差支無之様可致候、若一己之利徳ニも迷ヒ、諸人之儀を不顧、觸面之趣相背候者於有之ハ、無用捨吟味之上、嚴重之咎可申付候。

子
五月。

同年六月、寒河江地方諸物價左ノ如シ。

- 一 桑金壹歩ニ拾貫目、
- 一 絹糸金壹両ニ六十八匁、
- 一 綿錢百文ニ拾貳匁、
- 一 米壹俵金貳歩ト錢六百文、
- 一 白苧金貳兩貳歩ニ貳拾把、
- 一 雇人日料四百文、

同年七月、酒井忠良、浪士ノ領内ニ竄入センコトヲ慮リ、左澤領ニ令シ、嚴ニ之ヲ警戒セシム。

關東筋立廻り候浪人共之内、奥羽筋江多人數立入可申哉、風聞有之候、万一御領内江立入、自然乱妨之所業及候哉、難計候間、兼而被 仰出候趣も有之候ニ付、怪敷躰見請候ものハ、一夜たり共御領内江止宿爲致間敷候、且多人數立廻り候ハ、不捨置、其筋江可申出、尤渡舟渡ニたゐてハ、別而心付、怪敷躰之者ニ見請候ハ、村役人江申達、早々其筋江可申出候、右之趣被 仰出候間、各扱下ヘ不洩様可被相觸候。

子
七月、

大庄屋。

役 所。

同年十月代官三宅鑿作、本年ノ貢賦ヲ御料各村ニ割賦ス、其一左ノ如シ。

子御年貢、可納割附の事。

申ヨリ子迄五ヶ年定メ、

出羽國村山郡、

一 高貳百七拾貳石貳斗五合、

田代村、

一 内高貳拾貳石七斗壹升、

新 田、

(中略)

外

一畑一反九畝步、

此取米貳斗壹升六合、

去亥同、

見取、

一切替畑壹反步、

此取米貳升、

去亥同、

見取、

一永九拾六文、

一永九拾九文、

一永貳拾壹文、

一永貳拾五文、

一永拾貳文、

一米壹斗六升八合、

一米五斗六升貳合、

一米七百壹文九步、

漆代、

漆實代、

百姓持出後、

紙漉役、

山役永、

御殿馬宿入用、

六尺給米、

御藏前入用、

納合、

米六拾四石五斗五升四合、

永八百七拾四文九分、

右者當子定免、檢見御取箇書面之通相極條、村中大小之百姓入作之者迄、不殘立會無甲乙割合之來ル極月拾日限、急度可令皆濟モノ也。

元治元子年拾月、

三宅鑿作印、

右村、

名主、

組頭、

惣百姓、

慶應元年、三月、幕府再ヒ令ヲ發シ、物價ヲ低下シ、以テ庶民ノ難ヲ解カシム。

物價之儀ニ付、前々度々御世話も有之候得共、追々引上ケ、近來別而諸民難澁致候ニ付、尙亦厚被仰出之趣も有之候間、此上者急度御主意貫候様被爲遊度、末々之もの共も心得違不致、諸物價引下ケ候様、可致旨、去子五月中相觸候處、却而格外直段引上候儀ニ而、厚御主意之趣、未貫徹不致哉、相聞如何之事ニ候、尤去秋以來關東浮浪之徒、暴行、又者上方筋動搖等ニ而、右様之次第ニ至候儀可有之処、追々鎮靜ニも相成候間、諸品出產國々元方直段を

も相糺候筈ニ付、町奉行御勘定奉行、差紙到來次第、無遲滯荷主共罷出取調請候様可致候、尤村役人ハ一人之外、多人數差添候儀ハ不相成候、右ニ付是迄江戸大坂其外江取引致し候諸家荷物之分差送り方見合、又者、買、賣等致間敷候、若相背もの有之候ハ、吟味之上急度答可申付候。

三月。

同年閏五月、是ヨリ前將軍德川家茂、再ヒ將ニ毛利慶親ヲ征伐セントス、酒井忠良等ニ命シ、江戸城ヲ留守セシム。

今度 御進發ニ付、御留守御警衛被遊御心得候様、被爲蒙 仰候段申來候、依之面々可奉承知候。

右之趣松山表、申來候間、各扱下不洩様可被相觸候。

閏五月。

役所。

大庄屋。

同年十月、松前崇廣謹愼命セラル。

同二年正月、幕府令シ當五月以降ノ生糸ハ、新舊ヲ問ハズ、檢印ヲ經テ賣買セシム。

大目附

生糸御取締之儀、此程相觸候趣も有之候處、新糸古糸不抱、當五月、改印打始候筈ニ付、同四月迄之分者は迄之通り取扱、五月以後之儀者改印無之品、一切賣買難相成候條、其旨可心得者也。

右之趣、御料私領寺社共不洩様可被相觸候。

正月。

同年四月、山田佐金次寒河江領代官ニ任シ、七月着任ス。

慶應二寅七月一日、柴橋御代官所様御料御通り之節、御先達いたし候様、左澤御役所、被仰付候、御代官所、山田佐金次様。

同年同月、幕府明年三月佛蘭西國將ニ萬國博覽會開設セントスルヲ以テ各地ノ物產ヲ出品センコトヲ令ス。

大目附江。

來卯年三月、佛蘭西國府ニたゐて、宇内各州出產之物品を聚、展觀場相開候ニ付、御產物をも御差送有之候様、致度之旨、同國政府、申立、御國地出產之品々被差遣候筈ニ付、万石以上以下、領分知行出產之物品、同所江差送り度望之者ハ、其筋江可申立、且百姓町人ニ而も、

同様差送り度者ハ、御差許可相成候間、是亦其筋江可申立候。

四月。

同年七月、是ヨリ前、村山郡中米價騰貴シ、米一俵(五斗)金一兩二分二朱ニ價ス、之ヲ往年ニ比スルニ殆ト五倍ノ高價ニ到ル、庶民頗ル之ヲ困苦ス、柴橋代官山田佐金次、公私領代官大庄屋ト協議シ、令シテ嚴ニ輸出米ヲ禁止シ、且ツ町村ノ在米ヲ調査シ、隱藏密畜ノ弊害ヲ除去ス。

近年物價高直ニ相成候ハ、諸國一般與乍申、當國之儀ハ元來餘國ニ見合、格別下直之土地柄ニ而、既ニ近年迄米價金壹兩ニ付壹石餘いたし候處、當時ハ貳斗三四升、外諸品も右ニ准候由、凡五倍餘之高價ニ相聞、餘國ニ比ベ不相當ニ有之、一体相場ハ自然之筋ニ付、其土地ニ應ジ、高價ニ相成候者無據候得共、前顯之通り餘國ニ比ヘ不相當引上ケ候ハ、畢竟商人共關東筋上方等之風評を承リ、猥ニ糶上候故、賣主共も追々高價可相成與見合候カ、斯沸騰ニれよひ候事ト相聞、不束之事有之、當郡中之儀外品ハ格別、米價之儀者去ル成年申立之趣を以、賣米一切川下差留相成居候儀ニ付、商人共猥不糶上、賣主共も不圍置賣出候得ハ、自然正路之相場相立、下落不致候而ハ不相叶筈、米價高直ハ一体之人心も拘、不容易儀ニ付、今般左之通相觸候間、銘々心得違致間敷候。

一 近年米價高直、諸民及難儀候ニ付、村山郡一体申合、賣米一切川下ケ不致筈、去ル成年申立、其以來大石田川船方御役所ニれゐて、嚴重相改候事ニ候得共、心得違之族ハ、大小豆菜種等ニ積紛し、又者河下も河岸場も無之場所、船積致し、川下いたし候哉ニ相聞、以之外ニ有之、近年高價ト申中ニも、當年者別而沸騰いたし候得ハ、諸民之難儀申迄も無之、然を外品ニ積紛し、又ハ河岸場も無之場所、積下候段、全一己之利慾ニ拘リ、仕成候事ニ付、向後別而嚴重相改、若右体之者有之候ハ、當人ハ不及申、其處役人共迄も、糺之上急度可及沙汰條、心得違無之様、穀類渡世之もの共、江急度申渡、請取書取之可差出候。

一 町村米穀所持之もの共、銘々當出來秋迄之飯米を除、七月朔日所持高を帳面ニ記、同五日迄ニ最寄年番名主共江取集、早々當御役所江可差出、勿論書上迎賣米見合候而者、却而相場ニ拘り候ニ付、望人有之次第、賣拂右賣拂之分ハ、何月幾日何程之相場を以、何村誰江賣拂候趣、同十五日書出、是亦年番名主共取集、御役所江差出、來月同日右之通り取計可申候、若一己之利潤ニ迷ヒ、圍置亦ハ押隱書上候而、相減候族於有之ハ、出役差出相改急度可及沙汰條、心得違無之様可致候。

一 當節柄を弁、相場カ下直ニ賣米いたし候者、有之候ハ、名前并賣高早々可申立、其筋江申立御稱譽之御沙汰可有之候。

右者、柴橋御支配所、村々江御觸達之御趣意、當郡一体令相觸候儀ニ付、穀類渡世之ものハ

勿論米穀所持之もの共江申渡、一同心得違無之様各扱下、厚世話可被致候。

寅
七月、

大庄屋。

役所。

同年八月二十日、將軍德川家茂薨ス、年二十一嗣ナシ一橋慶喜續ク。

公方様御不例之處、不被爲叶御養生、八月廿日卯上刻薨去之旨被仰出候ニ付、諸事相慎、高聲等不致火の元、別而入念可申候、心得方之儀者尙亦可申達候。

公方様薨去ニ付、八月廿日、上様(慶喜)定式之御忌服被爲請、依之普請鳴物御停止被仰出候間、諸事相慎、火の元別而入念可申候。

- 一 店仕廻簾掛置可申候、店先少々明小商いたし候儀不苦候。
- 一 觸賣延引、人々宅江參、箇様之品御入用無之哉、與申商可申候。
- 一 鍛冶曲師、桶師、鑄物師、風呂屋等之分者、先年公方様御他界之節十日細工相止候得共、此度者小細工之分五日相立御用捨、音高敷細工者延引。
- 一 春屋并総而米春候儀、薪割候儀、御用捨、油屋、麥粉屋、右同斷。
- 一 綿打碓之儀、觸出之日、三日相立御用捨。
- 一 鑪吹之儀、先延引追而可被仰出候。

一町内火之用心ハ、勿論之事候得共、肝煎組頭申合、平日ハ繁敷相廻り候事。

右之趣從公儀被仰出候段、松山表ハ申來候間、各扱下江不洩様可被相觸候。

寅

九月七日、

役所。

大庄屋中。

同年同月同日、是歲左澤郷、五月霖雨シ、本月八日烈風禾ヲ害シ、且ツ米價前代未聞ノ高價ナルヲ以テ、田租ヲ撿減セラレンコトヲ請フ。

乍恐以書付奉願候。

私共扱下村々、當作毛之儀、春中ハ陰氣強く、耕作第一苗代之生立惡敷、不安心奉存候處、五月十一日之霖雨以後、一番艸頃ハ俄ニ冷氣立、近年覺無之暑氣甚弱、植付ノ儘ニ而一向元殖不仕、如何成凶作相成可申哉と心痛仕候所、土用末ニ至リ漸ク假成之日和出來、一同相悅罷在候處、七月中旬比ハ亦々冷氣相立、立直リ兼居候處、八月八日之烈風相障、澁付候田方ハ別而疵穗多、山澤合冷水掛り之田方一圓青立ニ而、皆無同様之坪々數多出來、時節後相成、逆も立直リ可申様無之、天災トハ乍申、存外之落作ニ相成、村々一同愁嘆仕、御檢見奉願上、吳候様願出候ニ付、私共罷出内見仕候處、相違無之、乍去可成ヨも相見候、坪々ハ相除候

得共、多分之附上高ニ相成、何共恐入奉存候、且又夏中之蠶ハ、過半取落、御收納一助ニ仕候
青苧ハ不順氣ニ而、半作ニも至リ兼、旁心當違ニ相成、此節米直段追々引上ケ、前代未聞之
高價ニ相成、當郡ハ不及申上、近國村々ニ而も、出米無之、買食之御、百姓誠ニ難澁之年柄ニ
御坐候趣を以、日夜願出候間、乍恐村々付上帳相添奉願上候、何卒以御慈悲、御檢見之上、御
引米被下置度奉願上候、此段何分宜被仰上被下置度、奉願上候、以上。

寅 九月廿日、

- 高橋清五郎、
- 今井治郎三、
- 阿部傳五郎、
- 鈴木與一郎、
- 鈴木守右衛門、
- 佐竹千次郎、
- 長岡權三郎、
- 大泉次郎右衛門、

御代官所。

同年十二月五日、德川慶喜將軍宣下。

去ル五日、勅使二條 御城江參入、正二位權大納言御位記宣旨、御頂戴引續將軍宣下、

右近衛大將宣旨等、御頂戴被爲在候ニ付、右爲御祝儀明後十五日総出仕之事。

十二月、

同年同月二十九日、孝明天皇崩御シ玉フ、寶算三十六。

主上御不豫之處、御養生不被爲叶、舊臘廿九日被遊、崩御候付、普請鳴物停止之事。

同年同月、酒井忠良新ニ文武講所ヲ設置ス、新好吉村庄藏、金百兩ヲ献シ其費ニ充ツ。

覺。

一金百兩也。

右者文武講所御取建ニ付、御物入奉恐察、寸志上金請取申所如件。

在江戸

- 圓右衛門、無印
- 源、七、印
- 三郎兵衛、全
- 六兵衛、全

新好吉村

庄藏との。

同三年正月二十九日、今上天皇踐祚シ玉フ、國內諒闇。

同年二月、幕府類焼者ノ家宅普請ヲ解停ス。

同年同月、代官山田佐金次、出羽國御料私領寺社領ヲ問ハス、臨時廻村怪奇者ヲ捕獲シ、并ニ旅芝居及ヒ弓鉄砲ノ賭的等ノ遊戯ヲ監察セシムルコトヲ令ス。

出羽國村々爲御取締、御料私領寺社領之無差別、臨時廻村いたし、風体怪敷者見當次第召捕旅芝居、弓鉄砲賭的等も、夫々取締いたし、且廻村之節他支配私領とも、都而支配所同様木錢米代相拂休泊いたし候筈、其筋差圖濟ニ付、及通達候段、柴橋御役所ノ申來候間、各扱下無急度可被相觸候

卯二月、

役所。

同年同月、幕府令シ、生糸小拈印封ヲ改定シ、御料地産ハ白紙、寺社領産ハ黃紙、万石以上私領産ハ藍紙ヲ使用セシム。

生糸小拈印封紙之儀是迄一体ニ白紙を用候處以來賣人御料之分ハ白紙、寺社領ハ黃紙、万石以上領分ハ藍紙ニ色分いたし候様、相心得可申旨、從公儀被仰出候段、柴橋御

役所ノ申來候間、各扱下江無洩様可被相觸候。

卯二月。

同年六月朔日、寒河江代官所類焼ス、因テ事務ヲ柴橋陣屋ニ執行ス。

同年七月、郷村暴動ス、代官山田佐金次援ヲ戸澤正實ニ請フ、幾ナクシテ事平ク。

同年八月、代官山田佐金次陣屋ヲ長岡山上ニ經始ス、役夫凡二万六千餘、二閱月ニシテ假舎成ル、因テ寒河江柴橋兩陣屋ヲ廢シ、長岡役所ト稱ス、明年ヲ俟テ將ニ大ニ工事ヲ起サントスルナリ。

山田代官在勤中、慶應三年六月朔日、寒河江役所近傍町家ヨリ發火延焼シテ、本陣外數棟渾テ灰燼トナル、代官所ヲ柴橋陣屋ヘ引移シ、政務ヲ扱フ、其年山田代官上府、徳川政廳ヘ允許裁可ヲ得、寒河江長岡山ヘ代官官衙建築ノ大規模ヲ計畫シ、同年八月繩張ヲ開始ス、面積三拾六町步餘ノ箇所、絶頂ノ中央ヲ平坦ニ崩シ、四方空壕ヲ構ヒ、大手先ヲ初メ、三方ニ新道切開キ、深林古木伐採等、人夫ヲ要スル實ニ三萬六千餘人、起工督勵嚴重ニシテ、僅カニ二ヶ月間ニ竣工ヲ觀ル、假陣屋一棟建設、后戊辰戰爭ノ節焼失寒河江柴橋兩陣屋ヲ廢合シテ、長岡役所ト稱フ、明春本衙建築着手ノ準備アリシニ、翌四年(中略)山田代官出府ノ儘歸着セス、故

ニ該工事中途ニ瓦解ヲ生シ、立消トナル。

同年十月十四日、將軍德川慶喜京師ニ在リ、政權ヲ奉還センコトヲ奏請ス、明日之ヲ允サル、前日朝廷島津毛利ニ勅シ、德川慶喜並ニ會津桑名ニ侯ヲ誅戮セシメ玉フ、德川家康政權ヲ掌握セルヨリ、是ニ至ル迄十五代ニテ之ヲ奉還セリ。

十月十三日を以て、在京の諸大名並ニ其重立たる群臣を二條城ニ召集め諮問し玉ひたる、上意の略に云く、我祖宗寵眷を蒙り、二百餘年子孫相承其職を奉するや、當今外國の交際日ニ盛ニして、愈政權一途に出されば、綱紀難立候間、從來の舊習を改め、政權を朝廷ニ歸し、廣く天下の公議を盡し、聖斷を仰ぎ、同心協力、共ニ天國を保護せば、必海外萬國と可並立、我國家に盡す所は不過之候、猶見込の儀も有之候は、聊不忘憚可申聞候とありし、列坐の諸侯群臣みち、意外之台慮に驚き、互ニ顔を見合せて對答する者も無かりしに、土州の後藤象次郎と薩州の小松帶刀は、大ニ將軍の英斷を賛成し、速に大政返上の奏議ニ及はるへしと答へたりけれ、將軍の意は益々決して、乃ち其翌十四日を以て、直ニ其奏議ニ及ひ玉へり。

扱また朝廷に於ても、よもや大政返上の奏議は將軍家より出さるへしと思ひ給ひし所に、十四日を以て突然その上奏ありけれ、是も意外の思にて、關白其他の公卿ハ先づ此

奏議ハ勅許ニ及はれ難き旨を以て、退けらるへき歟と僉議ありし、大久保市藏其他の輩此奏議の出たるこそ幸あれ、直ニ勅許あるへしと論したれ、廷議ハ其事ニ決して、是を允許して、宜く祖宗以來御委任厚く御依頼被爲在候へ共、方今宇内の形勢を考察し、建白の旨趣尤ニ被思召聞食候間、天下と共ニ同心盡力致し皇國を維持し、宸襟を可奉安御沙汰之事云々。

左近衛權中將源久光。

左近衛權少將源茂久。

詔源慶喜藉累世之威、恃閭族之強、數棄絕王命、遂矯先帝之詔而不懼、擠萬民於溝壑而不顧、罪惡所至、神州將傾覆焉、朕今爲民父母、是賊而不討、何以上謝先帝之靈、下鼓萬民之深讐哉、此朕之憂憤所在、諒闕不顧者、萬不可已也、汝宜體朕之心、殄戮賊臣慶喜、以速奉回天之偉勳、而措生靈于山嶽之安、此朕之願、無敢或懈。

正二位藤原忠能。

正二位藤原實愛。

權中納言藤原經之。

會津中將。

桑名中將。

慶應三年十月十三日奉

右二人久滞在鞞下助幕賊之暴其罪不輕候依之速可加誅戮旨被仰下候事。

十月十四日、

忠能。

實愛之。

薩摩中將殿。

同少將殿。

同年十二月七日、朝廷毛利慶親父子三條實美以下ノ官位ヲ復シテ入京セシメ、攝政關白征夷大將軍議奏傳奏國事掛守護職所司代等ノ職ヲ廢シ、更ニ總裁議定參與ノ三職ヲ置キ玉フ。

同年同月、幕府酒井忠篤、同忠良ニ命シ、非常ノ際兵ヲ内櫻田門前ヨリ坂下門前ニ出サシム。

非常之節、内櫻田御門前ノ坂下御門前通江御人數御差出被成候様、御本家様江御達ニ相成候間、殿様御儀も同所江御人數御差出被成候様被爲蒙、仰候段、松山表ノ申來候、各扱下江不洩様可被相觸候。

卯 十二月、

役所。

大庄屋中。

同年十二月二十五日、幕府芝三田島津邸ヲ攻伐ス、酒井忠篤請テ先鋒タリ、撃テ之ヲ夷ラク。

舊臘廿五日曉芝三田薩易上屋敷、公邊ニ而御打取之節、御人數御差出之儀御願立之上、御本家様御手御先陣御勤、表門御打破、大御勝利ニ而御人數無滯御凱陣相成候段、江戸表ノ申參候趣、松山表ノ申來候間、各扱下不洩様可被相觸候。

辰 正月、

役所。

大庄屋中。

明治元年正月三日、前將軍德川慶喜大坂ヲ發シ將ニ京師ニ朝セントシ、會津桑名ニ藩先驅タリ、鳥羽路ニ到ル、薩摩藩兵關ヲ要シテ之ヲ拒ク、往答ノ間砲ヲ發シテ挑戰ス、二藩兵應戰利アラス、慶喜遂ニ大坂ヨリ艦ニ駕シテ江戸ニ歸ル、十二日列藩ヲ召シ事情ヲ諭告ス。

今十二日夕七半時過、即刻御登城被。仰出候處、御不快ニ付、平次右衛門罷出候處、夜九ツ半過於大廣間、御老中御兩人ニ而、左之通御達。

十二月晦日、尾張前大納言殿、松平大藏大輔殿下坂、參内いたし候様、勅命ニ付、是非共上京候様との儀ニ付、御上京被成候積ニ而、御先備會津桑名出立、正月三日鳥羽海道四ツ塚江參候處、關門有之指留候ニ付、上京被。仰出候ニ付、罷通り候事ニ掛合候得共、關門江者左之儀被。仰出無之ニ付、相通不申事、申張色々談判中、薩劔方大小砲打掛候ニ付、無餘儀戰爭ニ及候處、如何之。御趣意ニ候哉、朝敵之趣被。仰出候、上様ニハ中々左様之思召おと更ニ無之處、右様之儀ニ而ハ、甚御迷惑大坂ニ被爲入候ハ、彌右様之風聞ニ相成候而ハ、不相濟事ニ付、一ト先關東江。御下向、朝敵ニあらざる處明白ニ布告之上、速ニ御上坂可被成候。思召ニ而御歸府被成候儀候、右之段相心得候様との事。右事情者未碇ト不相分候得共、此段江戸表ハ、申來候旨、松山表ハ、申來候間、各扱下不洩様可被相觸候。

辰 正月、 役 所。

大庄屋中。

同年同月、幕府薩摩藩ノ兵仗ヲ以テ、宮闕ニ迫リ幼帝ヲ侮リ、私論ヲ主張シ、先朝依托

ノ攝政ヲ廢シ、恣ニ親王及ヒ公卿ヲ黜陟シ、其江戸ニ在ルモノ、市中ニ強盜シ、又酒井忠篤市中警戒所ニ發砲シ、且ツ京坂間ニ在リテハ、前將軍上洛ノ前路ヲ遮斷シ、發砲乱暴ニ及ヒタルコトヲ布告ス。

松平修理大夫奸臣共、兵仗を以 宮闕ニ迫、奉侮幼主、私論を主張し、先帝ハ御依托之攝政殿下を廢し、恣ニ宮堂上方を黜陟し、或ハ家來之者浮浪之徒を語合、屋敷江屯集、江戸市中押込強盜いたし、酒井左衛門尉人數屯所江砲發乱妨、其他野劔相州等所々燒討、劫盜及候證跡分明ニ有之、殊ニ此程 御上洛之前路を遮り、砲發乱暴、終ニ去ル三日ハ京坂之間不容易事態ニ押移候段、大坂ハ注進有之候、此段爲心得相達候。右之趣向々江可被相達候。

正月。

同年二月、酒井忠良、江戸ニ在リ、軍夫百人ヲ左澤領ニ課シ、又令シテ領内ノ不虞ニ警戒セシム。

一軍夫人足百人、 町在江被仰付候。
慶應四辰年、二月七日被仰付候。

此組割

一 四人

和合組

一 六人

上郷組

一 五人

下郷組

一 拾貳人

中郷組

一 拾壹人

八ッ沼組

一 六人

君猶組

一 八人

松程組

一 拾貳人

川行組

一 拾五人

北郷組

一 拾壹人

本郷組

一 拾人

町

百人壹人給金廿五兩。

一大庄屋出陣之砌、東他屋ニ而勢揃。

一大庄屋銘々丸飯相用。

一出戰之砌鎖帷子鎧小具足相用可申事。

但持具鎗鉄砲弓。

一人足手金五兩相渡、殘登之節相渡可申事。

御達書。

一 於近國萬一急變有之趣及聞候者、誰成共不取敢注進可致候。

一 前同斷之節申達シ次第、聊無遲滯、直ニ御陣屋江參着、差圖ニ隨進退可致候。

但變事有之節者、相圖之狼烟を以可告知候得共、急場之砌者相圖を不待、早速駆付可申候。

一 御境目御番所詰之者、當節不容易形勢ニ付、等閑無之詰居、萬一先々々浮浪人体之者、大勢

御領分江押寄候様子之節、其村方丈夫成人足を以、早速此表江注進可致候。

一 大小砲組常々申合置、其場ニ臨散乱不相成様可被心掛候。

一 萬一於御在所表、異變有之節、別紙名面之者即刻罷下り候様、兼而心得可罷在、縱令名面之外成共、時宜ニより御差下シ可相成候ニ付、其心掛可有之候。

一 大庄屋一組、名主貳人、馬貳疋、軍夫貳拾人宛引連、早速可被罷出候。

但苗字帶刀御免、并兼而劔術砲術心掛居候者、軍夫々相除可申候、尤軍夫之節、操合ニ隨我儘成儀無之様可被申付候。

一 其身ニより不相用武具有之候得共、急變之節者別段之儀ニ付、兼嗜居候品可爲勝手、乍去

成丈身分相應之武器相用可申候。

右者當節不容易形勢ニ付、心得方大凡申達置候、一同可抽忠勤、可被心掛候、其砌ニより御褒美可被下置候、若心得違之者有之候者、急度御咎メ可被仰付候。

辰
二月。

同年三月、前將軍德川慶喜、酒井忠篤ニ命シ、御料地出羽國村山郡七万四千石餘ヲ管領セシム、是ニ於テ寒河江柴橋以下諸領皆ナ酒井氏ノ所管ニ歸ス。

御本家様(酒井氏)出羽國村山郡高七万四千石餘御領地被爲蒙、仰御取締向等入念可申旨、

尤御口永ハ御所務不被、仰付、御代官並之通り諸入用者被下置之旨被爲蒙、仰候段、爲

御知來候。

右之通松山表ハ申來候間、各扱下不洩様可被相觸候。

慶應四辰年三月、

役所。

總大庄屋。

同年同月十二日、酒井忠良江戸ヨリ歸リ、左澤ニ止舍シ、先塋ヲ拜展シ、老人ニ賜賚シ、十四日松山ニ赴ク。

慶應四辰年三月、江戸表御發駕、同月十一日上ノ山御止宿、十二日急ニ左澤御陣屋江御入被成、十二日十三日御陣屋江御止宿、十二日御役所ニ而大庄屋御用達共御通り御目見被仰付、法界寺御佛參、夫ハ巨海院御佛參、御歸陣之上、老人共江赤白之餅二ツ、いり壹切、御添被下置、大庄屋共江も餅二ツ、いり壹切宛、頂戴被、仰付難有仕合奉存候。

三月十二日、眞綿三百匁殿様へ献上仕候、右代金三兩壹分ニ付、貳拾五匁宛、右代金三兩御領分總高割ニ仕候、是ハ先例也。

同年同月、鎮撫總督九條道孝令シテ、舊幕領ノ人民ヲ安堵セシム。

今般、王政復古之折柄、徳川軍勢於伏見表反逆、依之征討將軍被差向候ニ付而者、徳川領地同家臣、并同謀之領地被召上候ニ付、御政事向等早々從朝廷被、仰出候得共、夫迄之處者、年貢其外舊典可依、尤難閣事件ハ速ニ可申出、困窮者ハ於下精々致救助、人民安堵せしめ、謹而朝廷之御沙汰を可相待者也。

慶應四辰年四月、

奥羽鎮撫總督府。

同年同月、各町村揭示スル所ノ舊幕府ノ制札ヲ撤去セシム。

村々御制札取とつし候様被 仰付候ニ付、取とつし御制札左澤御役所江相納申候、慶應
四辰年四月十四日。

同年同月、鎮撫總督九條道孝、令シテ寺社領朱印地由緒ヲ調査セシム。

此度鎮撫使御越ニ付、御朱印地、往古者如何之譯ニ而頂戴いたし候哉、銘々由緒書石高
銘細取調、本紙相添差出候様、御沙汰候間、右之趣即刻御扱下 御朱印取江御達、此表迄急
速持參いたし候様御達可成候。

四月廿一日、

御一紙方。

同年同月二十一日、酒井忠良其家臣左澤ニ居住セル者ニ命シ、松山ニ退去セシム衆夜
ニ乘シテ撤退ス、留ル者吏胥僅ニ五人ノミ。

慶應四辰年、四月廿一日、夜八ツ時左澤家中不殘松山表江引越し、御郡代所小寺三郎兵衛
殿左澤へ御陣着之上、廿一日七ツ時比被 仰出、御残り被成候御役人、御目附松田庄右衛
門、瀧川亥平、御一紙方鈴木多藏、御納戸松田十郎、鈴木多内、五人。

同年同月二十五日、酒井忠篤ノ將酒井兵部六十越ヨリ、志津ニ陣シ、明日進テ慈恩寺
ニ營シ、將ニ村山郡ノ所管地ヲ鎮撫セントス、會々左澤ノ農柴田小文司、其徒貳百人

ト兵部ニ來屬ス、是ノ日兵部、大谷村天滿宮社人大谷外記ノ非法ヲ惡ミ、之ヲ白岩臥
龍橋畔ニ斬戮ス。

此日平大夫(蠟)其隊四五人ヲ具シ、白岩近邊ヲ巡村セシ所、左澤道ヨリ鎗及弓砲ヲ持セ、主
從十餘人列ヲ正シテ出來ル、其体傍若無人ナリ、依テ先導ノ者ヲシテ姓名ヲ問シメシニ、
大谷村ノ住大谷外記少輔カ用向有テ仙台へ通ルト云、平大夫直ニ白岩ニ歸ルニ、藤助(石原)
ト驛外ニ逢テ、此事ヲ語ル、藤助外記ナラハ名ニ聞エシ惡徒ナリ、捨置マシト追驅シニ、慈
恩寺前ノ茶店ニ息セリ、本營ニ於テ尋ヌヘキ子細アリト、外記及三浦藏人其餘ノ者共連
來リ、(中略)昨日召捕ル所ノ大谷外記ト社人ニ似氣ナク、兵器ヲ持、會津征討ノ仙臺ニ屬シ、討
罰ニ從事セント願出タルハ咎ムヘキ程ノコナラスト雖、村山郡ノ内己カ預地ニ成タ
ル杯ト僞言ヲ唱へ、種々訛言ヲ以テ人心ヲ動搖セシメ、又天童藩エ牒シ合セ、誣告セシ等
正シク本人ノ日誌ニ有之、其罪免シ難ケレハ、其由申聞セ、白岩橋ノ側ニ斬首セシム、外記
後ニ招魂社ニ配祭セラル。

同月二十七日、庄内藩中村次郎兵衛、柴橋寒河江ノ舊幕料ヲ收領シ、明日戸澤正實ノ
所領谷地北口ニアルモノヲ沒收ス。

此日柴橋エ仕掛、御代官エ掛合、十分ニ受取相濟ミ、翌二十八日、(中略)新庄領谷地ノ内北口ト

申所江押掛ク、陣屋エ行タルニ皆逆シ故、火ヲ掛ク、其村役前ノ者寒河江エ呼出シ、此度ノ
趣意申聞セ、地所可受取旨云聞セシニ、皆々承服。(次郎兵衛書翰)

一慶應二寅四月廿八日、山田佐金次。

同辰年迄御支配ニ成ル、夫々動乱ニ而一先庄内様御支配ニ成ル、夫々仙臺様御預所ニ相
成候處、間もあく、山田様御手代河野俊八様郡司代ニ相成候處、又候庄内様ニ成ル、夫々秋
田様、新發田様、御兩藩御預ニ相成申候。(諸取集書記)

同年閏四月三日、酒井兵部白岩ニ酒井吉之丞谷地ニ陣ス、天童城主織田氏軍ヲ出シ、
將ニ谷地ニ進撃セントス、吉之丞使ヲ兵部ニ遣ハシ、遂ニ逆襲ノ事ヲ議決ス、其戰略
左ノ如シ。

一左澤ヨリ船ニテ下リ、長崎ヨリ上陸、次郎兵衛(村中)藤助(石原)平太夫(堀)

一天童向島渡リ、純藏(服部)新三郎(土屋)前三人ニ次テ渡ルヘシ。

一仁田ノ渡リヨリ、中村省造ノ農兵正助。

一野田ヨリ、七郎右衛門(村中)半隊、市郎右衛門(野信)。

一溝延ヨリ、金藏(高橋)祐吉(平林)文右衛門(宮坂)。

一谷地ヨリ、吉之丞本陣。

一寒河江ヨリ、兵部本陣藤彌一小隊。

一藏増ヨリ、七郎右衛門カ半隊。

右之手配ニテ天童エ可打入事。

同年同月四日、天明酒井兵部諸軍ヲ進メテ、天童ヲ攻撃シ、勝テ之ヲ燒夷ス、水野氏ノ
兵山形ニ、秋元氏ノ兵漆山ニ、松前氏ノ兵東根ニ退ク、乃チ勝ヲ鶴岡ニ報ス、兵部楯岡
ニ、酒井吉之丞長瀨ニ陣ス。

新聞日誌、第三、慶應四辰年五月廿七日。

一去ル三日羽州天童織田家の軍勢、溝延藏増邊迄出陣、庄内の軍勢ハ仁田原ヨテ御臺とい
ふ所ニ陣營して、最上川を巻たて、發砲し、雙方川をわたすへき様子もあく打合候處、そ
の夜いつれの處より又たりしよや、庄内勢窪の目と申處へいて戦争はしまり、藏造の邊
より溝延まで放火し、翌四日天童へ進軍、市中放火いたし候ニ付、出師せし織田方の勢、陣
屋心許あく軍をまごめ引返し、防戦手いたく致といへど、衆寡敵しりたくとに勇敢の戦
士よて、天童方困戦するといへども、終ニ敗北、庄内りた破竹のとく進撃、陣屋内の家士自
燒して落去リ、天童侯ハ關山越よて仙臺の方へ落行候よしの風説、山形よりも城外二里
程をかれ候處へ出陣せしよ、勝をこりたる庄内勢會釋もあく砲發して、直ニ劔闘ニたよ

ひ、其烈敷事たごへをこるよものおし、死傷双方よ有之、山形勢戦死人の名前、大久保屯、加藤政藏、赤星守人、前田勇次、たおじく庄助、稻半平、松崎竹次郎、その外、淺手、深手、負有之よし、澤三位の新庄の城まで御出陣よ相成候よし。

同年同月七日、朝廷酒井忠篤ノ官爵ヲ禡フ。

同年同月八日、酒井氏ノ軍退テ、大綱田、麥水澤、海味諸村ニ屯營ス、明日官軍寒河江ニ入り、人民ヲ安堵シ、賊徒ノ潜居スル者ヲ按檢ス。

今度 朝廷之御仁厚より、萬民安堵之爲、奥羽江鎮撫使御出馬ニ相成候處、庄内等之賊徒所々乱妨いたし、且惡業相働候段相聞江、則官軍被差向候ニ付、若賊徒潜居致居候ハ、早々可訴出候、厚恩賞可被宛行候、萬々一隱置候者、於有之ハ、屹度可致沙汰候、聊たりとも心得違無之様、廣く萬民江可申達事。

閏四月九日、

官軍先鋒長州參謀使、

金子文之丞。

中村小二郎。

同年同月十日、官軍先鋒左澤ニ入り、諸大庄屋ヲ召シ貢賦及ヒ戸口ヲ調査ス。

右只今御用。

月布村大庄屋、

次郎右衛門。

薩州、

陣 營。

閏四月十日、

右御用參候ニ付、左澤表へ罷下り候處、御免町、槌屋、柴吉宅御役人御旅宿ニ付、右宅へ大庄屋共被呼出、村々取入高書上候様被仰聞候ニ付、左之通書上。

一米千六百四拾餘石、

拾貳ヶ村取入米。

内米七百七拾餘石、

御年貢上納分。

一家數百六拾軒餘、

拾貳ヶ村。

一人數九百五拾人餘、

拾貳ヶ村。

右之通奉書上候、以上。

辰

月布村大庄屋、

次郎右衛門。

閏四月十日、

同年同月十一日、酒井吉之丞等本道寺ニ陣ス、官軍入間沼山ノ際ヨリ進撃ス、攻戰一日夜兩軍交綏ス。

明治戊辰ノ役、庄内ノ兵本村ノ西北支村字横岫ニ陣營シ、官軍ハ寒河江川ヲ隔テ、吉川村ニ宿陣シ、閏四月十一日入間村字森畑ニ進軍、朝辰ノ刻ヨリ發砲戰ヲ始ム、村民皆恐レ山谷ニ遁逃ス、晝後ニ至リ、賊兵水澤字宿下ニ進ミ、頻ニ發砲セリ、之ガ爲ニ官兵擊タルモノ多ク敗走セリ、申ノ刻ニ及ヒ、双方戰ヲ收ム、然ルニ日暮ニ臨ミ、官兵三百名餘、綱取村ノ方ヨリ進撃シ、字山崎ニ來ル、此時賊軍上ノ平ニ引上、尋テ陣ヲ掃ヒ退却シ、官軍賊ノ營所ナル、横岫ノ人家ヲ燒ク。

同年同月十二日、陸奥守伊達慶邦、彈正大弼上杉齋憲ト共ニ、奥羽鎮撫總督九條道孝ニ岩沼營ニ謁シ、松平容保ノ爲ニ哀訴シ、奥羽ノ爲ニ兵乱ノ禍ヲ中止セラレンコトヲ請フ、道孝之ヲ許ス、而テ下參謀世良修藏等肯カス、因テ討會ノ兵ヲ撤シ、之ヲ京師ニ陳情センコトヲ決議ス、十六日酒井忠篤其老末松十藏、松平權十郎、石原平右衛門等ヲシテ、清川天童等ノ戰狀ヲ陳シ、仙臺藩諸老ニ縁テ之ヲ總督ニ嘆訴センコトヲ求ム。

同年同月二十日、初メ官軍ノ左澤ニ入ルヤ、酒井氏ノ倉庫ヲ檢査ス、米千六七百俵アリ、大庄屋等之ヲ他ニ移サレンコトヲ虞レ、乃チ相議シ舊例ニ從ヒ之ヲ借ランコトヲ

請願ス。

閏四月十三四日頃、官軍左澤江參リ、御米藏御糶堂御納戸藏逸々御改ニ成ル、其上御米藏御改有之處、有米千六七百俵有之候ニ付、大庄屋共願書認願上ル。

乍恐以書付奉願候。

一米五百俵、

町方、

一同千俵、

郷中村々、

左澤町在村々之儀、山手續之村方多有之、夫食米多分不足ニ御坐候間、累年ハ奉願上、新米爲元直ト、年々四月下旬拜借被仰付、十一月中返上納仕御百姓永續罷在候、當年も前四月例年之通、千五百俵奉願上候、御評議中此度之一條ニ付、猶豫罷在候處、當節百姓町人之者共、夫食差詰難澁罷在候趣、村々ハ歎願申出候間、何卒格別之以、御慈惠、前書之俵數先規之通り拜借被仰付被下置度、奉願候、以上。

閏四月廿日、總大庄屋集り、翌廿一日ニ評議之上願書相認メ、廿二日米澤村五右衛門江立寄り、同人同道、寒河江布川善藏宅本陣へ罷出願上ル、會計御方、林馬太郎殿、尾花澤役人之由、伊藤長三郎此人面會いたし、萬事五右衛門取計申候。

同年同月二十一日、鎮撫總督九條道孝、上杉齋憲ニ命シ、兵ヲ新庄ニ出シ、副總督澤宣

嘉ヲ護衛セシム、始メ仙臺米澤兩藩窃ニ相議シ、總督ヲ仙臺ニ、副總督ヲ米澤ニ抑留
センコトヲ謀ル、是ニ於テ隨從ノ諸軍ヲ驅逐シ、之ヲ米澤ニ迎ヘントセシナリ、齋憲
乃チ千坂高雅、竹股久綱ニ命シ、兵一千人ヲ以テ新庄ニ赴カシメ、且ツ酒井氏ヲシテ
兵ヲ新庄ニ出サシメ、戸澤氏ヲシテ總督ヲ抑留シ、以テ米澤以下諸軍ノ新庄ニ入ルヲ
俟タシム。

米澤中將

羽州新庄當時副總督本陣手薄ニ付、相應之人數差出警衛可致者也。

壬四月、

鎮撫總督朱印、

羽州新庄當時副總督御本陣御手薄ニ付、相應之人數差出御警衛可仕旨御達之赴奉得其
意奉畏候、右御請申上候、以上。

閏四月、

米澤中將

同年同月二十四日、薩摩長門及山形天童上ノ山ノ諸軍寒河江左澤等ニ在陣セルモノ
皆退却ス、二十五日米澤ノ軍左澤ニ入ル、二十六日庄内ノ軍寒河江白岩ニ入ル、是ニ
於テ酒井氏ノ家臣、嚮ニ左澤ヲ撤去セルモノ皆還住ス、人民大ニ安堵ス。

四月二十六日、庄内御人數參リ、壬四月四日天童落城ニ相成、九日ニ庄内勢志津本道寺へ
引取申候、九日夕方薩長天童人數七百人程、左澤へ參リ、左澤御役所始家中一同大乱妨被
致候、十一日ニ相成薩長山形天童上ノ山勢庄内勢入間村ニ而大合戰相成申候、廿三四日
比薩長山形天童上ノ山勢引取候處、米澤勢左澤へ參リ、廿六日庄内勢寒河江白岩へ參リ、
廿六日左澤家中不殘參リ、一先ツ安泰ニ相成申候。

同年五月三日、米澤及庄内以下諸軍新庄ニ入ル、副總督既ニ遁レテ秋田ニ入ル、故ヲ
以テ豫謀全ク齟齬ス、戸澤氏深ク謝罪ス、七日高雅等兵ヲ留メ新庄ヲ守ラシテ歸藩ス。

過日於白石表、澤様御守衛尊藩江被蒙 仰候處、去月廿八日夜五ツ半時比ニ及、澤様
明廿九日曉七半時之御供揃ニ而御出被仰出候間、其心得を以手配致候様と之儀ニ付、何
方江御越被成候哉相伺候處、御近習ニ而茂、參謀方ニ而も何等之挨拶も無之ニ付、再應押
而問合候得共、一圓相分リ兼候内、御立際ニ差掛リ、暫時領分金山江御立越之旨御沙汰有
之、六半時官軍並弘前龜田之勢御引纏、當所御出立ニ相成候、暫時と之御沙汰ニ而、御引戻
可相成筈ニ付、一途ニ其心得ニ而罷在、殊ニ領分丈ケ之御轉陣、且ハ俄之事故御守衛人數
も聊差立候處、金山御晝食濟より、直々及位江御越、御一宿、翌朔日ニ至不料院内江御立越
之次第ニ相成候、依而白岩表御約束之通何國迄も御逗留相願、尊藩御人數御繰込を相待

可申儀ニ候得共、何分迅速之御立ニ而、其邊行届兼、終院内迄御立越相成候條、今更恐入奉
存候、尤新庄御立金山方及位迄、御越之都度、注進申上候筈ニ候得共、其手筈迄行違此
方念之處不行届、遂當所迄御繰込御不都合相成候之段、重々不堪恐縮候、何事も小藩微力
故之儀、宜御諒察不惡、御勘弁可被下候、此段申上候以上。

五月六日、

舟生源右衛門、

久定花押。

千坂太郎左衛門様。

竹股美作様。

同年同月酒井氏、酒錢ヲ左澤領ノ老人ニ給シ、以テ民心ヲ慰安ス。

一鳥目三拾疋宛、

村々老人共江。

右者先月中、官軍と稱し、多人數當所江押入乱妨御領分中及騷動候ニ付、老年之者共、別而
心痛候半、不便之至候、今度從 御本家様御繰出相成、松山表方も當御人數致出張候上者、
聊心配之儀無之候條、致安堵、心閑ニ老を養ひ候様可致候、依爲御酒代書面之通被下置之。

辰 五月。

同年同月、左澤領民、夫食糶ヲ借ランコトヲ請フ、之ヲ許可ス。

乍恐以書付奉願上候。

一糶百三拾六俵、

納三斗入。

右奉願上候儀ハ、今般之一條出來候而、已來大小之百姓水吞ニ至迄、數日動轉仕、其上莫
大之人足相勤、一粒一錢之出方無之、夫食ニ差詰人足等も勤兼候趣を以、兼而御取建ニ相
成居候、月布村御糶堂方拜借仕度段、村々方再應願出候得共、多分之俵數ニ立上リ奉恐入
候ニ付、渴命相及可申程之者共而已取調、俵數相減シ奉願上候、何卒以御慈悲、前書之通リ
拜借被仰付被下置度奉願上候、返上納之儀者、當辰暮新米庄直を以取立、急度上納可仕候
間、右願之通、被仰付被下置度奉願上候、以上。

辰 五月、

大泉次郎右衛門。

御役所。 相叶申候拜借証文上ル、

同年六月、酒井忠篤鹽ヲ寒河江柴橋左澤諸領ノ窮民ニ給シ、以テ民心ヲ收攬ス。

同年七月十一日、戸澤正實密ニ佐竹氏ト内應シ、諸藩守兵ヲ襲撃ス、仙臺ノ將梁川播
磨之二死ス、時ニ酒井氏ノ將松平甚三郎、將ニ白川ニ赴援セントシ、上ノ山ニ舍ス、會
々變報到リ新庄ヲ返撃セシム、十五日甚三郎返リテ新庄ヲ攻撃シ、遂ニ之ヲ陥ル、正

實秋田ニ遁走ス。

九月十九日、是ヨリ米澤仙臺以下罪ヲ謝シテ、官軍ニ降ル、庄内藩隊頭中村七郎右衛門、桑名藩諸隊ト福島ヨリ退キ、是ノ日寒河江ニ舍ス、明日官軍曉霧ニ乘シ來リ襲フ、因テ急ニ長岡山ニ邀戰シ、遂ニ敗レテ白岩ニ退却ス、桑名庄内ニ藩ノ兵死傷多シ、寒河江町高林寺、及ヒ人家七十二戸、兵燹ニ罹ル。

一村山郡新領ノ主役勤ニテ、此折寒河江ニ詰居タル大島久彌ニ聞ルニ曰、其頃米澤ニ官軍繰込タル模様ニ聞エツル故、同所ヨリ大井澤江ノ近道アル由ナリ、六十里越ノ守衛モ如何有ント心配セシ所ニ、七郎右衛門人數ヲ率テ、船町ニ來ルト聞ケレハ、幸ヒ也ト思ヒ前ノ日、十九日朝戸田次作ヲ以テ、大井澤江一小隊モ出サレナハ、宜シカルヘク云々ノ形勢ナレハ也ト云ハシメシニ、栗原カ一手ヲ出シメ、此日朝本多小三郎來リ、慈恩寺ニ據テ一戰スヘシト、七郎右衛門ヨリ御通知申セトノ也ト云シ故、慈恩寺ノ地勢ヲ云ハ、四通ノ地ニテ、右ハ大井澤、并ニ左澤エノ間道有リ、谷地大久保ヨリ川ヲ越ルノ道有リ、後ハ銅山ヨリ臂折ニ出ルノ道アリ、逆モ軍ノナルヘキ地理ナラスト答タレトモ、同意セル躰ニモ見エス、依テ次作カ行タルモ此ヲ論シサセシモ、詮ナシ昨夕五時近ク成シ比、官軍既上ノ山ニ着セシ由、寒河江ニハ人數モナシ、萬一ノモ引拂ハンコニ兼而ノ都合シツ

ルナレハ、引拂ノ支度セシキニ、暮前ニ及テ七郎右衛門來リ、爰ニテ防戰可致趣云ケル故、前ニモ小三郎ニ云ヘル如ク、答ヘタレハ、是非一戰致シ度ニ付、先以テ最上川ノ渡船場ナル船モ殘ラス、此方ニ引付ル手段カ第一ナレハ、其手筈ヲ致シ度何分ニモト云リ、去レハ是ヨリ渡場ノ船ノミヲ取タリハ、川端各ニ有シ分、今將タ穿鑿スヘキ様ナシ、且友右衛門カ一小隊ヲ、米澤間道守衛ニノミ出サレシモ、夫ヨリ寒河江ノ下手迄、數本ノ間道所々ニ在リ、味方僅ノ兵ヲ以テ、限リナキ官軍ヲ要地ニ據ルニモ非スシテ、引受ルハ益ナキト、強テ論スルモ聞入ス、然レハ引離ルヘキコトニモ非ルヲ以テ、居合セタル芝田祐藏石井武雄(此二人ト助川服部高木三矢等農兵取立ノ爲ニ出張セリ)等ヲシテ、見當次第ニ各船ヲ捕得ルヲ托シヌ、又七郎右衛門軍ノ支度ニ、小印等ヲ仕立度趣、夫等ノ手配シテ、夜更シ、又今廿日明ル頃、戸田總十郎來リ、最早敵ニ仕掛ラルヘシ、油斷ナルマシト申ニ任セ、兼テ觸置タル人夫ニ、役所必要ノ品々ヲ負ハセ、村井小島ヲ始メトシテ、七人ノ手代ハニ護衛サセ、大久保ニ出テ、大石田ヨリ船ニテ出發ヲ致サス、斯スル内ニ早ヤ砲聲響キ、敵寄セ來ルナレハ、呼置タル人夫も散レテ、彈藥モ捨タルカト聞エ、追々彈丸達シ、村ノ入口ニ敵火ヲ放ツ、夫ヨリ白岩ニ引タルニ、水澤本道寺敵既ニ來ルト風説專也ケルモ、其說ノ非ナルノ論ヲ以テ引シニ、果シテ非也、後之ヲ考フルニ、此朝ニ七郎右衛門人數手配ニ先立チ、官軍ハ未明ニ川(最上川)ヲ渡レルナラシ、米澤先鋒シテ來レルハ、戰ヲ好ムニ非レハ、大井澤ナル近道ヨリハ至ラスシテ、本道ヲ

押シ手始ニ寒河江ニ向ヒ、夫ヨリ長岡山ニ廻リテ戰ル物ナルカト、戊辰庄内戰爭錄
 曾テ越後へ出勢ノ庄内藩士桑名會津ノ同勢ト庄内へ引揚、途中九月十九日寒河江宿泊
 是迄寒河江在陣ノ輩、全部退營ニ際シ、翌二十日拂曉濃霧ニ乘シ、官兵襲來セシヲ聽キ、宇
 道場小路本願寺ニ宿營ノ桑名勢、入口宇新宿ニ待伏、官兵大舉茲ニ砲火ヲ交へ、人家七十
 二戸、寺院高林寺兵燹ニ罹リ、庄内桑名勢遂ニ潰乱、長岡山ニ逃登ル、官兵之ヲ追擊、高丘ヨ
 リ射擊セラレ、前進薩軍多ク殪ル、官兵益々集來、鯨波ヲ揚ケ應戰、銃聲恰モ百雷ノ如ク、彈
 丸雨飛山嶽ヲ震動シ、交戰約二時間ニシテ、官軍之ヲ破リ、山地ヲ占領ス、敵軍白岩方面ニ
 退却。(寒河江町史料)

同年同月二十三日、是ヨリ前、米澤世子上杉茂憲命セラレテ、討庄先鋒タリ、是ノ日志
 津ヲ發シテ本道寺ニ陣ス、途中詩ヲ賦ス曰ク、

輕重自存義與情、暗揮雙淚討同盟、隊伍森然無一語、滿山風雪發軍營。

同年同月同日、酒井忠篤、其臣吉野遊平ニ降表ヲ授ケ、米澤藩ノ營ニ就キ、周旋ヲ請ハ
 シム、米澤藩大瀧忠恕ヲシテ遊平ヲ導キ、參謀黑田清隆ヲ大石田驛ニ見テ之ヲ請ハシ
 ム、清隆乃チ忠恕ニ命シ、直ニ鶴岡ニ入り降伏謝罪ノ條件ヲ議定セシム、忠恕鶴岡ニ

詣リ諸老ト議シ、謝罪ノ條項ヲ協定ス、降表并ニ條項左ノ如シ。

臣忠篤恐惶頓首奉歎願候、抑家督以來世上不穩ニ屬シ、主家徳川氏ヨリ、江都締役被爲委
 任、小藩素ヨリ可行届儀ニハ無御坐候得共、澆季之場合主家ニ奉職シ、王土至靜ニ歸シ
 候者、勤王之端ニ奉存、乍不及盡力罷在候處、當正月以來之事件、實ニ恐懼至極奉存候、尤
 勤王之儀者、少くも龜略不仕心得ニ罷在、早速天機伺とて使者上京申付候處、御不
 審被爲在候趣、途中心より御差戻シニ相成候ニ付、猶仙府江御下向之、御鎮撫總督府
 へ歎訴之爲、重役差上候處、是又御差戻ニ相成、臣之嚴謹可奉伺様無御坐、恐悚至極ニ罷在候
 折柄、登京之蒙、御沙汰先詰之者、草津宿迄罷在候處、是亦入京御差留よて罷歸、實ニ進退
 相窮候仕合御坐候、臣乍不肖元ヨリ、官軍ニ抗し候意念、毛頭無御坐候得共、兼而指揮不
 行届、且遠路僻地ニ罷在候得者、今春以來之事情形勢も不奉窺、家來共於出先奉抗、王師、
 今日之形勢ニ相成候段、先非後悔措身之地も無御坐次第、重々奉恐縮、勤王之外他志無
 御坐、就而者城中ニ罷在候而も奉恐入候ニ付、早速城外ニ謹慎恭順罷在、家來末々迄嚴敷
 謹慎申付、奉仰天裁候、此上ハ闔藩精々勉勵奉表、勤王之實効度至願ニ御坐候間、未降
 伏謝罪不仕藩江、先鋒被、仰付被成下候ハ、冥加至極難有奉存候、仰願者何卒臣微衷御
 憐恕被成下、當奉以來蒙御不審候處、幾重ニも御寛曲之、御沙汰被成下候様、冒萬死不憚
 忌憚奉歎願候、誠恐誠惶頓首々々。

九月。

源 忠 篤。

- 一 御歎願書六十里越、北越兩方面江至急御重役を以御進達之事。
- 一 諸方面諸口之兵隊不殘、御引揚相成度事。
- 一 寒河江邊抗 王師候隊頭謹慎被申付置度事。
- 一 右行違之一條、別紙ニ相認め、清川六十里越兩方面江御譯有之度事。
- 一 村上龜田兩藩、其外貴藩江倚頼罷在候諸藩、速ニ歎願書清川方面の參謀江進達の様御相談有之度事。

- 一 君候迅速ニ新發田御本營江、御謝罪之様被成度事。
 - 一 兵器御差出ニ付てハ、前廉ニ取調置候様、御手配有之度事。
 - 一 無程官軍繰込ニ可相成ニ付、豫め動搖不致様御家中初町在江、御懇達之様致度事。
 - 一 諸方面御高札、太政官誌ニ被 仰付候通、御書替之様致度事。
- 但其暇無之候ハ、是迄之御高札、御外ハの様致度事。

同年同月二十七日、酒井忠篤、酒井忠良開城降伏ス。

同二十七日、庄内鶴ヶ岡へ進兵手配之上、村上口ヨリ進入之薩州ト、弊藩左右ニ分レ相備、大手ヨリ郭内へ繰入、城器御引上ケ請取方等之儀ハ遊擊軍將參謀方ニテ取扱、尤弊藩兵隊ハ市中宿陣罷在。新庄藩届書

同年同月二十日、朝廷柴橋民政局ヲ置キ、舊幕領寒河江柴橋諸領ヲ管知セシム、後ニ長岡民政局ト改ム。

同年十月朔日、戸澤政實、秋田ヨリ新庄ニ斑ル、城市灰燼、假ニ郭外ノ別邸ニ居館ス。

中務大輔儀者、九月二十五日、久保田表出立、十月朔日、領邑新庄へ凱陣、城池焼亡ニ付、郭外之別邸ニ宿營罷在候。新庄藩届書

同年同月、鎮撫總督九條道孝、令シテ名ヲ官軍ニ假托シ、郷村ヲ侵掠スルコトヲ禁ス。

官軍ノ名ヲ假權威ヲ振、村落民家ヲ劫シ候儀、勿論 朝廷之御旨意背候間、猥ニ官軍ト唱横行之儀不相成候間、羽州最寄藩陣屋ニ至迄可相達候者也。

明治紀元辰十月、

奥羽鎮撫總督府。

同年十一月二日、有栖川帥宮熾仁親王大總督ヲ辞シ、錦旗節刀ヲ返上セラル、東北平定ニ歸スルヲ以テナリ。

有栖川帥宮。

東北及平定候ニ付、大總督辞退、錦旗節刀返上之趣被 聞食候、依之來ル二日參 内可有之旨被 仰出候事。

十月。

同年同月二十四日、是ヨリ前、松前修廣所領村山郡ノ收納米ヲ輸送セントス、會々榎本武揚等松前ヲ襲撃ス、東根村百姓磯右衛門之ヲ修廣ノ吏、出テ酒田ニ在ルモノニ報ス、因テ之ヲ申啓ス。

志摩守領分、羽州村山郡東根陣屋收納米、在所表へ積下リ候ニ付、右川下手配トシテ、酒田表へ家來出役致シ候處、去月二十五日頃ヨリ、松前表賊徒共、追々襲來、双方打合候處、賊船損所出來ノ趣ニテ、一旦退帆致シ、猶其後二艘乗寄セ候得共、城下ヨリ烈シク砲發致シ候ニ付、函館府へ引取り候由、其節在所吉岡村ニ居合候、旅船右見分致シ、去ル三日、同所出帆、酒田湊へ着船申聞候由、猶庄内飛鳥ニ、舊旗下乗組ノ軍艦一艘碇泊隊長ノ者申候ニハ、松前ハ乗取候共、唯今迄ハ南部其外頼モ有之候得共、當時ハ右等ノ儀ハ出來不申、地方ヨリ兵糧運送無之テハ、長ク居止リ難相成、然ル上ハ、佐渡島乗取候様可致、依之函館へ居合候人數不殘引上ケ、差向ケ可申哉ニ申居候ニ付、無程函館ノ賊共引上ヘク哉ノ旨、右旅船ノ者共相咄シ候趣、領分東根表、百姓磯右衛門ト申者、酒田表出役家來迄申出候由申越候ニ付、御届申上候、以上。

十一月二十四日、

松前志摩守家來、
石川七郎。

四四

同年同月同日、柴橋民政局、去ル閏四月朝廷頒布ノ諸國神社神佛混語廢止ノ令ヲ廻達ス。

御觸書。

今般諸國大小之神社に在りて、神佛混語之儀者御廢止相成候ニ付、別當社僧之輩者、還俗之上神主社人等之稱號ニ相轉、神道を以勤仕可致候、若又無據差支有之、且者佛教信仰ニ而、還俗之儀不得止之輩者、神勤相止立退可申事。

但シ還俗之者ハ、僧位僧官返上者勿論ニ候、官位之儀者、追々御沙汰可有之候間、當今處衣体風折烏帽子、淨衣白差貫着用、勤仕可被致候事。

一 是迄神職相勤居候もの席順之義者、夫々伺書可申候、其上御取調ニ而御沙汰可有之事。
一 此度大政御一新ニ付、石清水宇佐箱崎等八幡菩薩之稱號爲止、八幡大神與奉稱候様被仰出候事。

一 神職之者家内ニ至るまで、以後神葬祭ニ相改可申事。
一 今度別當社僧還俗之上者、神職ニ立交候節も、神勤順席等、先是迄之通相心得可申事。
右之通被仰出候事。

壬

四月、

神祇事務局。

右之通御觸出候間、得其意、神職別當社僧江洩落無之様可相達候、此廻狀早々順達留可相返もの也。

辰 十一月廿四日、御領民政局。

同年同月、是ヨリ前、酒井忠良降伏城外ニ謹慎シ、又領内ニ令シ其意ヲ表セシム。

- 一 御謹慎中、火之元別而入念、諸事音高ケ間敷事相慎可申事。
 - 一 店出之者ハ、簾相下ケ可申事。
 - 一 無止事普請之外可爲無用。
 - 一 佛事其外參會ケ間敷儀、可爲無用事。
 - 一 歳暮年頭其外祝儀事等一切可爲無用事。
- 右之通、松山表ハ申來候間、各扱下江不洩様可被相觸候。

辰 十一月、役所。

同年十二月七日、酒井忠良領地貳千五百石ヲ削ラレ、隱居命セラレ。

酒井忠良 宗家酒井忠篤之指揮ニ隨ヒ、屢 王師ニ抗衡候條、大義順逆不相辨次第、其罪不輕、屹度御

咎可被 仰付之處、以出格之 思食、領知之内二千五百石被 召上、隱居被 仰付、家名相續之儀者、血脉之者江、可被 仰付候事。

但相續之者、早々可願出事。

同年同月同日、朝廷陸奥國ヲ五國ニ、出羽國ヲ二國ニ分國シ、以テ治教ニ便ニシ玉フ。

奥羽兩國ハ、曠漠辟遠之地ニシテ、古來ヨリ教化洽ク難敷及儀モ有之候ニ付、今般兩國御取調之上、府縣被設置、廣ク教化ヲ施シ、風俗移易、人民撫育之道、厚ク御手ヲ被爲盡度、思食ヲ以、陸奥國ヲ磐城岩代陸前陸中陸奥ト五國ニ、出羽國ヲ羽前羽後ト二國ニ分國被仰付候條、此旨可相心得事。

羽前國。

- 一 高二十一万六千六百六十一石二斗二升二夕三才、置賜郡。
 - 一 高三十六万六千四百四十七石一斗三升五合九夕七才、村山郡。
 - 一 高六万二千三百八十七石四斗五升三合八夕、最上郡。
 - 一 高十五万九千八百七十三石八斗八升三合七夕四才、田川郡。
- 右四郡。
- 合高八十万四千五百六十九石六斗九升三合七夕四才。

羽後國

一高二十三万四千三百二石三斗五升六合一夕四才、
 一高八万四千七百十九石九斗六升、
 一高二万二千八十三石一斗五升四合、
 一高九万三千六百一十一石七斗九升四合、
 一高五万四千八百三十六石七斗六合、
 一高二万八千四百五十三石六升三合、
 一高五万九千九百五十石二斗九升二合、
 一高七万二千六百七十石三斗八升六合三夕、

右八郡

飽海郡
 秋田郡
 河邊郡
 仙北郡
 雄勝郡
 山本郡
 平鹿郡
 由利郡

高合六十五万六百二十七石七斗一升一合四夕四才。

同年同月同日、朝廷佐竹右京大夫等十一藩ニ命シ、能吏ヲ派シ、奥羽御領ノ民政ヲ奉
 行シ、且ツ人民ヲ撫育セシメラル、而テ寒河江柴橋ニ領ハ、秋田新發田ニ藩之ヲ管理ス。

十二月七日御沙汰書

佐竹右京大夫、
 津輕越中守、

真田信濃守、
 相馬因幡守、
 溝口伯耆守、
 大河内右京亮、
 秋田信濃守、
 秋元但馬守、
 土屋相摸守、
 牧野金丸、
 松平大學頭、

其方儀、今般奥羽御領之内民政取締被 仰付候ニ付テハ、兵乱之餘人民愁苦之情狀、追々
 被 聞食、深ク被爲痛 聖念候ニ付、兼テ民政相心得候家來精撰之上、彼地出張申付、朝
 廷之御政体ニ基キ、人民撫育ニ厚ク心ヲ用ヒ、御一新之 御趣意、洽ク貫徹致シ候様、可取
 計旨、御沙汰候事。

但出張地所之儀ハ、府縣掛江可伺出事。

別紙。

今般家來之者、奥羽出張之上ハ、新縣御取建之場所へ檢分ヲ遂ケ、見込可申出候様可致事。

明治二己年新發田藩御詰合様方。

梶彈右衛門様、諸橋昌作様、佐藤太刀之丞様、上林重次郎様、村上勘藏様、寺田駿作様、齋藤重太郎様、柳川淵之助様、藤田忠次様。

同秋田藩御詰合様方。

島田源太郎様、片岡鎌之進様、山田鎌藏様、八木藤兵衛様、清水勝馬様、泉恕助様、立原順藏様、和田監物様、那珂總助様、荒川駒之助様、永井新左衛門様、下田榮太郎様、鈴木六右衛門様、本堂勘十郎様、舟木金之丞様、泉信吉様、内山東之助様、諸取集諸記

同年同月同日、戸澤正實去ル九月以來ノ軍忠ヲ啓申ス。

九月十七日、秋田表堺戦争之末、同所之敵藩四小隊ハ、直ニ本道へ押出シ、角館ヨリ川筋大河原ト申邊迄屯在之五小隊ハ、角館ヨリ六郷へ出、夫ヨリ本道并淺舞通リ手分仕、相進ミ、同二十二日、敵邑金山へ爲大斥候、二小隊繰込、於同所殘賊共捕押、夫々所置仕、夫ヨリ莊内表へ進軍之儀、參謀方ヨリ指揮有之、同二十六日、敵邑曲川口問道ヨリ、三小隊、同古口本道ヨリ五小隊攻入候、手筈ニテ、右兩所へ出張之處、莊内降伏謝罪之歎願、御聞請ニ相成、曲川口之三小隊ハ、莊内分家松山之城へ入候、手配之處、右問道越口之邊ニ陣所有之、人數モ屯候趣ニ付、探索之者差出、翌二十七日、薩長小倉秋田并敵藩三小隊、繰入可申ト斥候差出候處、陣所之邊ニ高札建捨有之、今般降伏謝罪御取受ニ相成候ニ付、主人城外ニ謹慎罷在候

趣、記有之何之仔細も無之由申聞候ニ付、一同押出同領坂本ト申處へ、一先着藩々申談之上、薩藩敵藩先陣ニテ、城中へ繰入、御引上ケ之城郭器械等相改、尤城郭器械共薩長ニテ取扱申候、同二十八日、四藩并敵藩共再應爲改、入城異條無之ニ付、直々酒田龜ヶ崎之城へ進兵、前條同様之手筈ニテ、長州小倉先陣之上、城器御引上ニ相成、右兩藩ニテ取扱申候、同二十九日、酒田港海邊之胸壁十二ヶ所、薩長小倉敵藩ニテ請取之、酒田市中ニ滞陣罷在候處、十月二日、吹浦口ヨリ、肥州雲州秋田三藩之人數、追々繰込ニ付、曲川口之人數ハ、新庄表迄繰上ケ候様、會議所ヨリ通達有之、以後新庄表へ歸陣仕候、本道之五小隊ハ、同二十七日、莊内鶴ヶ岡へ進兵、手配之上、村上口ヨリ進入之薩州ト、敵藩左右ニ分レ相備、大手ヨリ郭内へ繰入、城器御引上ケ、請取方等之儀ハ、遊擊軍將參謀方ニテ取扱、尤敵藩兵隊ハ、市中宿陣罷在、薩藩申談、右一條相濟、松山口官軍本陣ヨリ、依指圖凱陣仕候、中務大輔儀者、九月二十五日久保田表出立、十月朔日、領邑新庄へ凱陣、城地燒亡ニ付、郭外之別邸ニ宿營罷在候。右之趣在所表ヨリ申越候ニ付、此段御届申上候。以上。

戸澤中務大輔家來、

近藤 治 米。

十二月七日、

同年同月十五日、酒井忠匡ニ左澤外二万二千五百石ヲ給シ、家名相續命セラル、忠匡

ハ忠良ノ男ナリ。

酒井信三郎。

父忠良儀、過日御処置被 仰付候ニ付、其方へ二万二千五百石下賜、家名相續被 仰付候、以後藩屏之職ヲ重シ、勤 王盡忠可有之旨 御沙汰候事。

十二月。

口達書。

殿様御事者、奉稱 御隱居様與、若殿様(忠)御事者、奉稱 殿様與、右之通面々可奉承知候。

辰

十二月。

同年同月、村山郡東根村外領主、松前修廣榎本武揚等ト抗戰セルノ功ヲ嘉シ、直垂地一領、金三千兩ヲ賜フ。

松前志摩守。

去ル十月以來、徳川脱藉之賊徒、領内侵入之折柄、闔藩勇奮、以寡當衆、不一形及苦戰、君臣一體、百折不挫、只管勤 王之大義ヲ重シ、一家之危急ヲ不顧、折衝禦侮、藩屏之職ヲ盡シ候段、武門之覺悟不過之、叙感不斜候、今度格別之 思食ヲ以、直垂地一領、金三千兩下賜候、尙

益勉勵盡力、歎懐之士氣ヲ鼓舞シ、他日官軍之進撃ヲ待、可奏成功旨、御沙汰候事。

十二月。

同二年三月十三日、左澤横町失火、天神前、御免町新町等ヲ延焼ス。

同年六月、松山藩主酒井忠匡、新庄藩主戸澤正實、東根以下領主松前修廣等、封土ヲ奉還ス、又松山ヲ改テ松嶺ト稱ス。

酒井忠匡。

今般版藉奉還之儀ニ付、深ク時勢ヲ被爲察、廣ク公儀ヲ被爲探、政令歸一之 思食ヲ以、言上之通聞食候事。

六月。

行政官。

今度松山を松嶺ト御唱替被 仰出候。

己 七月。

同年同月、十九日、戸澤正實、新庄藩知事ニ任シ、新庄及村山郡谷地郷北口以下十九村ヲ管治ス。

同年同月二十二日、酒井忠匡松嶺藩知事ニ任シ、舊所領ヲ管治ス。

先月廿日、御奉書御到來ニ付、同廿二日 殿様御參 朝被遊候處、松嶺藩知事被爲蒙 仰候段、申來候。

右之趣、今般松嶺表方申來候間、各扱下不洩様可被相觸候。

七月、

役 所。

大庄屋。

同年十一月、神社内ノ佛像ヲ他ニ移轉シ、以テ神佛ノ別ヲ明カニセシム。

一 神社中ニ有之候、佛像佛具等、取除可申事。

一 勅祭之神社、御震翰、勅額勅願所有之者、可申出事。

一 社堂明細書出可申事。

但別當者百姓ニ候ハ、矢張百姓名當ニテ差出可申事。

一 御朱印地、除地、大江廣元其外寄附地等之由緒書寫、并御判物等有之分寫添、差出可申事。

一 神佛合殿不相成候間、佛者其村之寺へ相納可申事。

一 道端ニ庚申之類地藏并佛語之塔有之分者、道之左右へ四五間も間を隔、建可申事。

一 社人修驗寺院庵、明細書出可申事。

右之趣、各扱下并社寺庵、不洩様可被相觸候也。

己 十一月、

役 所。

同三年正月二十五日、長岡民政局、郡中總代三人ニ苗字帶刀ヲ、名主六人ニ苗字ヲ免許ス。

明治三年正月廿五日、上下着用ニ而御立關江可罷出候様、御達ニ付罷出候處、郡中總代五右衛門、(熊谷)仁左衛門、(代田)善兵衛、(塔内)者、苗字帶刀御免之御墨附頂戴仕、外柴橋名主藤右衛門、(邊渡)谷澤村名主嘉兵衛、(藤加)清助、新田名主清助、(藤佐)山口村名主儀左衛門、(藤伊)東大町村名主勇右衛門、(田武)溝延村名主久兵衛、(地亥)右六人之もの苗字御免ニ相成候、右者民政局方。

同年二月、長岡民政局、官員左ノ如シ。

大 屬 三井巖三、 權大屬 垣塚文悟、

少 屬 尾崎方之助、 權少屬 田代 瞭、

權少屬 中村吉五郎、 史 生 西山 登、

史 生 神邊鉄五郎、 同、 小林安太郎、

同、 遲村榮次郎、

少參事 五月方 渡邊平之助、 八月方 蒔田友記、

十月の
權大属、南條 將

同年七月、山形藩知事、水野忠弘近江國淺井郡朝日山ニ移サル。

同年八月、長岡民政局令シテ、寺社領地ヲ村高内ニ合併シ、且ツ舊幕府授與セル所ノ判物ヲ返納セシム。

村々高之外社寺領分、當月の村々組込候様御沙汰ニ付、其段社寺江申合、洩落無之様取調來ル廿日迄可差出候事。

但數ヶ村江、飛地ニ而伏居候分者、其村之高江組込候事。

一舊幕ハ相渡置候、朱判物返上可致旨被 仰出候間、所持之社寺ニ在りて、得其意同日迄可差出事。

但藏米を以、被下方之儀者、追而可相渡事。

右之趣得其意、社寺江可申達候、此廻狀晝夜ニ刻付、早々順達留ハ可被相返もの也。

午
八月九日申半刻

長岡 廳

同年同月、酒田縣長岡民政局ニ令シ、三ヶ年間租税金一千兩ヲ各村ニ割附シ、非常ニ

備シム、初メ戊辰ノ役各村備金三千兩、及ヒ石代金七千兩ヲ鎮撫總督府ニ呈出ス、是ニ至リ各村之ヲ返還セラレンコトヲ請フ、故ニコノ命アリ

其管内村々非常備金三千兩、并去ル寅卯村々御物成石代金、外郡中身元之もの預り置候分共、都合金高七千兩程、一昨辰年九條總督岩沼陣屋江差立ニ相成候分、御下ヶ渡之儀、村々追々歎願之次第も有之ニ付、其筋江事情申立候處、金三千兩、當午ハ申迄三ヶ年間ニ割合、壹ヶ年金千兩ツ、租税之内を以御下ヶ相成候段御下知ニ付、右金子を以、永久誠實非常備相成候様、勘弁之取計ハ可有之候。

明治三午年八月、御沙汰之事。

同年九月二十八日、山形縣ヲ置キ、酒田縣ヲ廢ス、是ヨリ長岡民政局ノ所管地悉ク山形縣ニ屬ス、同日坊城俊章知事ニ任セララル。

同年閏十月、長岡民政局事務ヲ山形縣ニ交付ス、當時縣吏ノ出張セルモノ左ノ如シ。

明治三午年閏十月廿二日、山形縣江御引渡ニ相成候、其節御出張被遊候御役人御名前。

山形縣小參事

大谷 眞 温

同十二等出仕

國府義胤

同十四等出仕

矢野靜夫

同 同

新美胖齋

同十五等出仕

佐久間晴嶽

同年十一月、元長岡民政局管下各村名主等連署シテ、長岡出張所ヲ置キ、以テ各村ヲ支配セラレンコトヲ請願ス、因テ柴橋出張所ヲ假置ス。

乍恐以書付奉願上候。

當御支配所、羽前國村山郡元長岡附村々役人共一同奉申上候方今、御一新御趣意を以、同御役所御引取、當郡一体山形於御本縣御取扱被爲遊候段、今般御達之趣、一同承知奉畏候、然ル處、私共村々之義、同所江者道程相隔、其日着不相成分不少、殊ニ片寄々山中村々者、別而之義、嶮岨山路、雪中深雪ニ而、長岡迄罷越候ニも、其日着不相成村方多、山形迄罷越候ハ、其上二ヶ處ニ舟場有之、右大荒川ニ而、年々雪解之出水、其外雨天洪水度毎、渡船難相

成、勿論右山内村々ハ、薄地ニ付年々夫食不足、拜借又者御融通米等相願、漸露命相續罷在候、貧村ニ御坐候故、夫丈御用村用相増、殊ニ近年來諸物價沸騰、難澁疲弊仕候折、遠方往復いたし候而者、泊増諸雜用等迄相嵩、只々奔走ニ疲々、村々衰微いたし難行立候様可罷成、加之最寄近ニ御取締無之候ハ、惡もの共増長可致、旁以難澁至極歎ケ敷、誠ニ以奉對御趣意、恐多御儀ニ御坐候得共、是迄之姿を以、長岡江御出張所御取立置、非常御取締被成下置候ハ、山中遠方之村々迄、一般安堵相續出來可申と奉存候間、前顯之次第篤ト御賢察被成下置、何卒格別、御主仁之以思召、長岡江御出張所御取立被成下置、私共村々一圓租向、其外御取締急場差掛候儀、同處ニ在りて御取扱被成下置候様、幾重ニも舉而奉願上候。稅右願通被爲御開届被下置候ハ、數百ヶ村之窮民、無難相續出來、難有仕合奉存候、依之村役人一同連印を以、此段偏ニ奉願上候、以上。

當御支配所

羽前國村山郡、

元長岡附村々

名主連印。

山形縣廳、

御役所。

同四年二月五日、是ヨリ前、山形縣知事坊城俊章、管下人民ノ困乏ヲ憫ミ、管内ノ雜稅

ヲ免除シ、而テ后チ之ヲ陳情ス、朝廷其專斷ヲ責メ、民部大藏兩省吏ヲ派シ其令ヲ徹廢セシム。

御維新以來蒼生ノタメ日夜被爲在 御憂慮頻ニ至仁之御沙汰有之候得共民猶菜色アリ牧民ノ職ヲ奉シ罷在候身ニシテ是ヲ見ルニ忍ヒス、依テ今般云々之通布告仕候然ルニ專斷之儀者實ニ恐懼悚惶之至リニ付、闕下ニ伏謹テ奉仰上裁候、以上。

直田正毅

國府義胤

太田貞之

同少參事 大谷真温

同大參事 岩男俊貞

山形縣知事 坊城俊章

辨官 御中。

山形縣專斷ヲ以管内雜稅免除之布告ニ及候段兼テ之御法則ニモ相悖リ甚以無謂次第ニ付、民部大藏兩省官員出張、右專斷之布告引戻シ、夫々處置可致旨被 仰付候條、此旨爲心得相達候事。

二月五日。

同年同月二十五日、朝廷民部省權大亟岩村定高等ヲ派遣シ、雜稅免許ノ不法ヲ所理セシム。

山形縣。

其縣專斷ヲ以雜稅免許不取締之儀ニ付、民部權大亟岩村定高、其外同省官員出張、夫々處置被 仰付候條、縣内申合諸事差圖ヲ受取計可致事。

二月廿五日。

同年三月二日、是ヨリ前、縣廳柴橋附各村ニ令シ、當月五日ヲ期シ、貢米代ヲ上納セシム、是ノ日各村名主等連署シテ人民困窮ノ狀ヲ訴へ、殘納ノ貢賦ハ來四月以下八月以上ニ割當シ、以テ之ヲ徵收セラレンコトヲ請願ス。

乍恐以書付奉歎願上候。

當御支配所柴橋御出張附御貢石代上納之儀當五日限り可相調旨、大金之御割賦御觸達承知奉畏、何様ニも精々取立、御日限通り御上納可仕者勿論之儀ニ御坐候得共、近年來違作引續、米價騰貴、連々疲勞窮迫、塗炭之苦罷在候仕儀ニ至リ、且此節ハ農業出立之時節、

百姓とも肥仕入等にて、散財多、不融通之折柄、何様勉勵取立候而も、乍恐御日限通皆濟行届兼夫共精々を盡し取立可成丈ヶ納込候様可仕候得共、納方不行届、殘納相成候分、其餘御割賦殘共、來ル四月の御割合、當八月中皆納之御見込を以、月々御割合御取立被成下候様仕度、尤七八兩月ハ產物產業も賣捌目當も有之、菟角融通宜御坐候間、聊御差支不仕急度皆濟仕候間、何卒出格之御仁恤ヲ以、右御届被成下置村々御救被成下度、此段奉願上候、以上。

未

最寄年番

名

主

郡中兩會所

山形廳

御役所

同年六月、縣廳柴橋出張所ヲ廢止ス、是ニ於テ最上河西九十有六村ノ名主等連署シ、分轄署ヲ河西ニ設置セラレンコトヲ請願ス。

乍恐以書付奉願候。

當御管内、羽前國村山郡、元長岡附、左之村々役人共一同奉申上候、私共村々舊來御陣屋間近ニ有之、御用相勤罷在候處、今般御維新ニ付、山形表江御本縣被爲建、村々同所江罷出、御

用相勤候様、去冬中御達ニ相成、小前之もの共種々難澁申聞、且山内村々ハ不及申、里方村々迎も、數里相隔、御届願又ハ御呼出シニ而罷出候ニも、往返二三日も相懸り、失費多く、夫而已あらば、邊土質朴不弁之村役人、精實も貫通不仕、自然不行届、不束之儀出來候ハ、恐入候儀と甚心配罷在候處、格別之以御沙汰、御出張所御取建、万端御取締被成下置、一同難有安心罷在候處、間も無く、一ト先御引揚之御沙汰被仰出、速ニ御歸縣被爲遊候間、一同驚歎仕、自然取締相弛ミ、遊惰之もの出來、勸農勉勵之輩も、必然惰農ニ相移り可申、尤去ル辰變動以來、未タ何とあく人心不穩、業体浮薄之向も有之、右ニ便り無賴之徒立入可申哉も難計、遠方村々ハ別而取締方行届間敷、殊ニ諸上納物取立方之義も、精々可仕候得共、兎角相弛ミ、遂ニ不納出來、無餘儀御訴申上、御本縣江御召出相成、御取調請候様相成候ハ、困窮之上、尙一層之費弊相増、勿論山内小高之村々者、諸雜費相嵩ミ、潰退轉之ものも出來可申、且ハ山形表江訴出候ニハ、容易之義ニ有之間敷、數我意之所行多く、薄力愚直之ものハ、心得違憂鬱默止候様可相成者、眼前之義ニ而、御取締不行届候様立至り候ハ、恐入候御義、旁歎ヶ敷次第ニ付、何卒前顯被爲譯聞召、格別之以御仁惠、最上川西江壹ヶ所御分轄被爲立、都而之御取締被成下置度、一同舉而奉願上候。

右願之通被仰付被下置候ハ、郡中一同難有仕合奉存候、以上。

羽前村山郡

明治四未年六月、

川西村々、

九十六ヶ村、

名主連印。

山形縣
御役所。

同年同月二十八日、朝廷七月晦日ヲ期トシ、去歲ノ租稅簿錄ヲ呈出セシメラル。

山形縣。

其縣支配地、去午年租稅錄差出方之儀、大藏省ヨリ度々相達候儀モ有之候處、遷延ニ及候段不都合之事ニ付、來七月晦日限可差出事。

六月廿八日。

同年七月十四日、廢藩ノ命アリ、松嶺藩知事酒井忠匡、新庄藩知事戸澤正實、天童藩知事織田信敏、上山藩知事松平信安、箱館藩知事蠣崎修廣等皆罷ラル。

今般藩を被廢候ニ付、元知事之面々一同御用有之候條、九月中歸京可有之此段相達候也。

辛未

七月、

太政官。

松嶺藩事、酒井忠匡。

今度藩を被廢、縣を被置候事。

辛未七月、

太政官。

今度藩を廢し、縣を被置候付テハ、追而御沙汰候迄、大參事以下、是迄之通事務取扱可致候事。

辛未七月、

太政官。

同年八月十二日、岩村定高、大參事ニ任ス。

同年同月二十八日、天童縣ヲ山形縣ニ合併セラル、縣内町村ヲ區ニ別チ、每區ニ戸長、並ニ副戸長ヲ置ク。

同年十月七日、知事坊城俊章本官ヲ免セラル。

同年十一月二日、羽前國村山郡置賜郡内(四万石)最上郡ヲ以テ山形縣所轄トナシ、因テ元松嶺、及ヒ酒田縣管轄地ノ村山郡内ニ在ルモノヲ山形縣ニ交付セシメラル、是ニ於テ上山新庄諸縣皆ナ廢ス。

元松嶺縣。

從前管轄之地所物成鄉村等當未歲ヨリ、新置之縣江可引渡事。

但元官員ハ當分從前之縣廳ニ於テ事務可取扱事。

辛未 十一月

太政官

山形縣

羽前國、村山郡、置賜郡之内、最上郡。

同年同月、酒井忠匡舊領左澤諸郷ニ貸附セル所ノ金穀ヲ郷村ニ給與シ、且ツ諭スニ貢賦ヲ納レ、飢寒ヲ免レ永ク家業ヲ相續センコトヲ以ス。

左澤管内、

総組々、

大組頭、

名主 共江。

御舊主様御事、先般十分一之御家祿ニ被爲成御幕向御差問之段ハ、一同も恐察之通可申上様も無之深恐入候御儀、此上逆も猶又如何様之御模様柄ニ被爲至候哉も難計、依而ハ是迄組々江御貸付相成候米金等も、追々御取立ニ相成、御地盤をも被爲立度、御場合ニハ候得共、一同ニ於ても近年殊之外難澁之儀も被 聞食、其上組々ハ格別之誠心を以、夫々献金等もいたし候ニ付而ハ、御舊好之程、深ク 思食、右御貸付米金別紙割合之通被下置候條、深キ 御仁惠之段、一同難有差心得、往々組々之備ニ相立、御收納道等彌大切ニ心得、

饑寒之患を免、永續いたし候様可相心掛もの也。

辛未 十一月

同年十二月二十五日元松嶺縣左澤領ヲ山形縣ニ交付ス、因テ左澤出張所ヲ置ク。

來ル廿五日、山形新置縣江土地人民引渡候事付而ハ、諸願書類、都而同所官員江可差出事。

一當辛未御收納之儀者、是迄通當官員ニ而相扱候事。

右之通一同江も不洩様可被申達候也。

辛未

十二月廿二日、

左澤出張所。

大組頭。

同年同月廿七日、壬生基修權令ニ任ス。

同五年正月、山形縣令シテ物産繁殖ノコトヲ獎勵ス。

申達。

一當管内物産寡少ニテ、貨幣輸入之道無之、追日疲弊歎ケ敷次第付、村々役人とも、丹精抽致世話、栽植牧畜等速ニ相開、物産繁殖、人民富實之基ニ相成候様、厚ク心懸ケ可申、右植立方

ニ付物ノ得失ヲモ不相弁、只管舊來之仕來リニ泥ミ、頑固ニ故障等申立、相妨候者モ有之候ハ、屹度可諭事。

一區内限リ、物産繁殖方世話掛リノ者申付候條、人体正實ニ而、物産等ノ筋心ヲ用候者、相撰ミ可申出候事。

一山野不毛ノ地、桑茶等植立可申地所、又ハ牛豚牧畜等相開可申、其他ノ便利筋見込之者、壹人之力ニ及兼候分ハ、其段申立、一村又ハ一區之力ヲ合セ、貧富融通互ニ盟約ヲ結ビ、速ニ成功相成候様可致、猶不信之筋無之様ニ、縣廳ニ於テモ世話遣シ可申候事。

一桑楮茶之類植立候者有之候ヘ共、苗木窃取候者モ有之趣、不届之所業ニ候、以後出所不正之苗木致賣買候者ハ、屹度取糺シ、嚴重可申付事。

一苗木仕立賣捌候者ハ、以後其村役人之證書ヲ以テ、賣買可致、若シ無證據之苗木致賣買候者ハ、相改法度可申付事。

但他管内ヨリ買入候分ハ、其段買人ヨリ村役人江届出可申事。

一右ニ付、小苗木等賣買不正之筋無之様、法度申渡一村限リ、小前末々迄、連印請書區長迄爲指出置可申事。

一村々取締之爲ニモ候間、村々道傍江、左之通杭木相立置、作リ物亦ハ苗木等盜ミ取候者ハ、見當次第縛置可訴出候事。

右之趣小前末々迄可申渡者也。

壬申 正月

山形縣

同年同月、味淋、白酒、濁酒、醬油并絞油ノ密製、賣買ヲ禁止ス。

是迄清酒ハ免許鑑札有之候ヘ共、味淋白酒濁酒醬油并絞油ハ、別段免許も無之、自釀致居候処、先般稅則取締被 仰出候ニ付、鎖細之事たりとも、都而無鑑札ニ而密造ニ賣買致候者ハ、其品取揚候而已あらば、重キ過料被 仰付候間、小前末々ニ至迄、心得違無之様、可申達候事。

壬申 正月廿五日

左澤出張所

同年二月三日、薄井龍之權參事ニ任ス。

同年同月八日、權令壬生基修山形ニ着任ス。

山形縣權令從四位壬生基修卿、當月八日山形表江御下着相成候事。

二月十八日

左澤出張所

同年三月十日、楯南村上下組合ヲ廢止ス。

同年十一月三日、關口隆吉參事ニ任ス。

同六年一月九日、權令壬生基修請テ免官ス、今茲地租改正ノ事アリ。

同七年一月二日、參事關口隆吉權令ニ任ス。

同年七月七日、薄井龍之參事ニ任ス。

同年十一月、内楯新町七日町三組ヲ楯北村トシ、石川組ヲ西根村ニ合ス。

同八年十二月十六日、權令關口隆吉、山口縣令ニ轉任ス。

同九年四月五日、河野通倫權參事ニ任ス。

同年八月二十一日、鶴岡置賜二縣ヲ廢シ、本縣ニ併合ス、同日元鶴岡縣令三島通庸ヲ本縣々令ニ任ス。

同年十月五日、管内ヲ十大區ニ分チ、各區ニ區役所ヲ設ケ、區長ヲ置キ、各大區ニ小區ヲ設ケ、每區ニ戶長ヲ置ク、而テ本郡ハ第二大區タリ、其小區左ノ如シ。

第二大區一小區。

楯西村、楯北村、楯南村、西根村、仁田村。

第二大區二小區。

平鹽村、米澤村、谷澤村、中鄉村、伏熊村、澤村、用村、八鍬村、柴橋村、島村、清助新田村、松川村、高屋村。

第二大區三小區。

左澤町、大沼村、大谷村、粧坂村、上北山村、今平村、小漆川村、市野澤村、三中村、同村八ッ沼、同村西船渡、藤田村、小見村、荻野村、黨屋敷村、助卷村、雪谷村、上鄉村、杉山村、太郎村、大舟木村、松程村、常盤村、玉井村、大瀧村、宮宿村、新宿村、送橋村、中澤村、富澤村、立木村。

第二大區四小區。

沼山村、入間村、月岡村、砂子關村、月山澤村、志津村、大井澤村、小柳村、大鉢村、貫見村、澤口村、柳川村、黒森村、勝生村、小清村、檜山村、月布村、十八歲村、橋上村、小鉾村、材木村、顔好村、新顔好村、吉川村、原村。

第二大區五小區。

白岩村、宮内村、睦合村、間澤村、海味村、綱取村、岩根澤村、水澤村、本道寺村、慈恩寺村、日和田村、箕輪村、田代村、幸生村。

第二大區六小區。

溝延村、小泉村、西里村、同村兩所、同村白山堂、同村中島、田井村、泉村。

第二大區七小區。

大町村、松柳村、荒町村、新町村、上工藤小路村、下工藤小路村、北口村、吉田村、新吉田村、岩本村、前小路村。

第二大區八小區。

湯澤村、岩野村、樽石村、長善寺村、富並村、稻下村、山内村、横山村、田澤村、白鳥村、大久保村、大旗村。

同年同月二十八日、有田貞一第二大區々長ニ任ス。

同十年三月、大谷村粧坂村ヲ合併シテ大谷村トナス。

同年五月、伏熊村、澤村用村ヲ合併シテ三郷村トナス。

按、町村併合ノ事ハ、町村誌ニ詳カ、今一々採取セス。

同年十二月二十日、朝比奈泰吉、區長ニ任ス。

同十一年十一月、郡區編成法ニ準據シ、村山郡ヲ東西南北ノ四郡ニ分チ、而テ第二大區ノ各村殆ト西村山郡ニ編入セラル、其町村左ノ如シ。

寒河江町、寒河江、

西根村、西根、日田、

柴橋村、松川、

左澤町、三郷、富澤、

大谷村、大谷、玉ノ井、

七軒村、柳川、

大井澤村、

本道寺村、月岡、

西山村、睦合、水澤、

白岩町、宮内、

川土居村、入間、

三泉村、

谷地村、

本郷村、本郷、橋上、荻野、顔好、十八才、月布、

東五百川村、上郷、水本、和合、宮宿、

西五百川村、常盤、三中、

同年同月、元區長海老名季昌、西村山郡長ニ任ス、政務委任ノ條件左ノ如シ。

七四

- 第一、諸營業願ノ事。
- 第二、制限内度量衡發賣願ノ事。
- 第三、郡役所諸備以下給仕小使ノ進退ヲ專行スル事。
- 第四、舟車檢印ノ事。
- 第五、諸興行、并寄席願ノ事。
- 第六、制限内ノ地ニ於テ、藝娼妓貸坐敷營業願ノ事。
- 第七、郷社以下并寺院再建修繕願ノ事。
- 第八、賣藥行商願ノ事。
- 第九、產婆營業願ノ事。
- 第十、街頭ノ標旗、招牌、板圍、便所及街燈建設ノ位置ヲ査定スル事。
- 第十一、川々水堰棧橋、及物揚場等設置ヲ査定スル事。
- 第十二、人民諸拜借金取立ノ事。
- 第十三、町村戸長、及郡役所筆生除服并歸省或ハ病氣ニ依リ奉職ノ地ヲ離レ、治療及入院入湯願ノ事。
- 第十四、士族平民所轄替ノ事。

第十五、士族相續養子願ノ事。

但異例ニ係ル分ハ、委任ノ限ニ非ス。

第十六、戶籍ノ事。

第十七、神佛開扉、并臨時祭願ノ事。

但國幣社ハ、委任ノ限ニ非ス。

第十八、無籍無產ノ者、縱放及遞送等處分ノ事。

第十九、娼妓梅毒檢查施行ノ事。

第二十、社寺境内樹木培植ノ事。

但國幣社、並延喜式内、國史見在ノ社ハ、委任ノ限ニアラス。

第二十一、說教法會等、及廣告建札願ノ事。

第二十二、轉宗並葬祭改式等ノ事。

第二十三、改姓名願ノ事。

第二十四、堰溜井、竈修繕願ノ事。

但官金下渡ノ分ハ、委任ノ限ニ非ス。

第二十五、路傍並木堤防ノ植物ヲ培植スル事。

第二十六、道路修繕ニ付、牛馬諸車通行留願ノ事。

但最寄警察署、及ヒ分署へ通知ノ事。

第廿七、家前下水新構ヲ査定スル事。

第廿八、教員除服并ニ歸省入湯願ノ事。

第廿九、遺漏入籍ノ事。

第三十、絶家再興、及ヒ分家附籍願ノ事。

第三十一、家名廢絶他へ養子、或ハ復籍願ノ事。

第三十二、入夫願ノ事。

第三十三、隱居再相續願ノ事。

第三十四、尊屬親復籍願ノ事。

第三十五、原籍掛合ノ事。

第三十六、國民軍名簿編製並ニ加除ノ事。

第三十七、遞送ヲ以テ原籍へ着スル者旅費等徴收償却スル事。

第三十八、祠官祠掌及住職他行届ノ事。

但私用ニ係ル分ハ此限ニ非ス。

同年十二月四日、西村山郡役所落成、同月七日開衙執務ス。

編年西村山郡史卷之八終

大正四年三月二十五日印刷
大正四年三月三十一日發行

西村山郡史四冊

山形縣西村山郡役所

山形市旅籠町五百十三番地

印刷人 熊谷末藏

山形市旅籠町五百十三番地

印刷所 熊谷活版所

202
371

大正四年三月三十一日
大正四年三月三十一日

大正四年三月三十一日

大正四年三月三十一日

大正四年三月三十一日

大正四年三月三十一日

